

明治何年何月
 明治何年度内務省所管
 豫定經費要求書
 (用紙ハ美濃十三行野紙ヲ用ユヘシ)
 長官何某

何廳明治何年度豫定經費要求書說明
 内務省所管本年度經費ニ關スル重要ノ事件ヲ摘記スル左ノ如シ

- 一 明治何年何月勅令第何號ヲ以テ何々ノ改革等アリ何圓ノ減少ヲ見ルニ至レリ
- 一 明治何年何月何省令第何號ニ依リ何々ノ事業ヲ何々サレタルヲ以テ何圓ヲ減スルニ至レリ
- 一 何々ニ依リ何々アルヲ以テ何々ノ費用ニ於テ頗ル節減ヲ加フルコトヲ得テ何圓ノ減少ヲ來スルニ達ナリ
- 一 明治何年何月第何號勅令(又ハ何省令)ヲ以テ何々ノ事務ヲ屬セラレ何圓餘ノ増加ヲ要ス
- 一 何々ノ事務何々ニ依リ増員ヲ要スルニ依リ何圓ノ増加ヲ要スルニ至レリ
- 一 臨時歳出ニ關スル部
- 一 何々ノ事ハ目下緊急ノ要務今ニシテ此事ヲ舉行セサレハ他日云々ノ害アリ依テ何々ノ事ニ着手セントス之レカ爲メ要スル所ノ總費額ハ概計何圓ニシテ本年度ニ於テ要スル費額ハ何圓トス
- 一 何々ノ事ハ何々スルノ見込ナリ依テ何々ニ何圓ヲ要スルノ豫算ナリ
- 一 何々ハ前年度ニ於テ全ク結了セシヲ以テ本年度ハ其費用ヲ要セス

款項ノ說明

經常第二部歳出ノ部

第何款	何々								
本年度豫算高									
ナ以テ									
前年度豫算高									
ニ比較スルハ									
ナ減少スレ									
第一項	俸給及諸給ニ於テ何々ニヨリ								
ナ増加シ									
第二項	廳費ニ於テ何々又ハ何々ノ爲メ								
ナ増加シ									
合計									
ナ増加スト雖トモ									
第三項	旅費ニ於テ何々ノ爲メ								

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村費

ナ減少 第四項 何々ニ於テ何々ニ依リ		ナ減少シ合計	ナ減少セシニ由ル	第何款 何々	以下前例ニ倣フ	臨時歳出ノ部	第何款 何々	以下前例ニ倣フ	内務省所管	經常第二部歳出	科目	何々	何年度	何年度	何年度	比較	備考
																	本備考中ニ記載スヘキ事項ハ豫メ一定シ難シト雖トモ前年度ニ對シ科目ノ變動ヲ明ニシ其他各目明細書ヲ掲

ケスヲ本備考ニ於テ説明
ルモノヲ掲シ
何々ノ事務是迄何々ニ於テ
取扱タルモ本年度ヨリ本廳
ニ移サレタルヲ以テ本項ヲ
新置ス前年度ニ於テハ何省
所管經費第何款何項ナリ

第一目何々	第二目何々	第三目何々	第一目何々	第二目何々	第三目何々	第一目何々	第二目何々	第一目何々	第二目何々	第一目何々	第二目何々	第一目何々	第二目何々	第一目何々	第二目何々	第一目何々	第二目何々

經常第二部歳出合計									
臨時歳出									
第何款	何々								
第一項何々									
	第一目何々								
臨時歳出合計									
總計									

明治何年度
 内務省所管經常第二部(或、臨時)歳出何々(款)毎款別冊ニ調製スヘシ
 豫定經費要求書各目明細書

何處

第何款 何々
第一項 何々

目	何年度要求額	何年度許可額	比較ノ差 増減
第一目何々	、、、、	、、、、	
第一節 屬 、、、、			
何等何人何等何人何等何人明治十九年四月勅令第三十六號判任官々等俸給令第五條參看			
第二節 何々 、、、、			
便宜ノ體裁ヲ以テ算出ノ方法基礎ヲ明示スヘシ以下皆同			
第二目何々	、、、、	、、、、	
第一節 何々 、、、、			
第二項 以下皆一項ノ例ニ據ル			

○豫定經費算出概則 廿二年六月十日
關令第十號各省

第一條 經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

- 第二條 經費中共給與ニ属スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ属スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算スヘシ
- 第三條 一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各々其據ル所ヲ示スヘシ
- 第四條 一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其信額ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ據リ其據ル所ヲ示スヘシ
- 第五條 給與ニ属スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時備入及解備ヲナス人員ハ前々年度以前三箇年度ノ人員ノ平均ヲ標準トスヘシ
- 第六條 物件ニ属スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三箇年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ
- 第七條 國債償還ノ金額(定期アルモノ)ハ財政ノ都合ニ依リ其利子及手数料ハ定規ニ據リ之ヲ豫算スヘシ
- 第八條 常例ノ旅行ニ属スル旅費ハ各用務毎ニ人員、旅費等級、里程及滞在日數ヲ概定シテ豫算スヘシ
- 第九條 法律命令契約ニ據リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トスヘシ
- 第十條 前各條ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適宜ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第十七章

森林諸收入取扱順序

十九年五月二十日(五月廿一日布告) 農商務省訓令第六號

明治十八年七月當省第二十九號達ヲ廢シ更ニ森林諸收入取扱順序別冊ノ通相定メ明治十九年度ヨリ施行ス

但別冊ハ山林局ヨリ送付スヘシ (別冊略ス)

○森林收入延納貸金整理順序

二十二年二月二十九日農商務省訓令第六號 府縣(沖繩縣ヲ除ク)大林區署

森林收入延納金整理順序左ノ通相定メ明治二十二年度ヨリ施行ス 但書式ハ山林局ヨリ送付ス (書式略ス)

森林收入延納貸金整理順序

- 第一條 返納貸金ハ此順序ニ據リ整理スヘシ
- 第二條 延納貸金トハ森林收入ニシテ左ニ掲グルモノヲ云フ
 - 一 相當期限内ニ上納スルコト能ハスシテ年月賦若クハ据置ノ後徵收スヘキモノ
 - 二 身代限ノ處分ヲ受ケ追テ身代持直次第徵收スヘキモノ
- 第三條 延納貸金ヲ徵收スルハ森林收入(款)雜入(項)年賦及延納金ノ口へ編入スヘシ
- 第四條 左ニ掲グル延納貸金ニ關スル諸件ハ經伺ノ上處分スヘシ
 - 一 返納金ノ年月賦ヲ變換シ又ハ負債ノ義務ヲ他人へ移轉スルコト
 - 二 棄捐
 - 三 抵當員ノ交換
 - 四 八箇月以上徵收期限ノ延期願
- 第五條 負債主他ノ管轄内へ住居ヲ轉シタルトキ大林區署設置アル地方ハ其大林區署

へ未設置ノ地方ハ其府縣沖繩縣へ引繼クヘシ

第六條 毎年三月三十一日及十一月三十日ノ終結現狀ニ據リ延納貸金現在高報告書式

第一ヲ調製シ翌月十五日迄ニ當省へ差出スヘシ

第七條 延納貸金ノ異動ハ左ノ兩期ニ分チ延納貸金異動報告書式ヲ調製シ前條報

告書ト同時ニ當省へ差出スヘシ

一 甲年四月一日ヨリ同年十一月三十日迄ノ間

二 甲年十二月一日ヨリ乙年三月三十一日迄ノ間

○延納貸金整理順序施行以前ノ同金現在高報告方

明治二十二年農商務省訓令第六號延納貸金整理順序施行以前ノ延納貸金現在高報告方

左ノ通心得ヘシ

一 二十二年年度開始ヨリ延納貸金へ編入スヘキ貸金ニシテ本年三月三十一日ニ係ル終結

現狀ヲ延納貸金整理順序第一號書式ニ準シ本年四月十五日迄ニ當省へ報告スヘシ

一 二十一年度未納金ニシテ本年十二月一日ヨリ延納貸金へ編入スヘキ貸金ニシテ本年

十一月三十日ニ係ル終結現狀ヲ前項書式ニ準シ本年十二月十五日迄ニ當省へ報告ス

ヘシ

○森林收入ノ内貸付ニ係ル者整理方

本年(五月)訓令第四號ヲ以テ諸貸付金徵收取扱順序相違候處當省所管森林諸收入ノ内

貸付ニ係ルモノハ渾テ大藏省訓令第五號及第十二號ニ準據シ整理候儀ト心得ヘシ

但大藏省訓令第五號第五條三項ノ場合ニ於テ負債主大林區署設置アル地方へ移轉シ

タルトキハ其大林區署へ其他ハ移轉シタル地ノ廳府縣へ引繼クヘシ

○森林收入報告書ノ件

森林諸收入毎月報告書中物件公賣ニ係ル拂受人請書ノ儀ハ自今添付ニ及ハサル領下心

●伺指令

●徵稅令書紛失ノ節取扱上ノ件 京都府ヨリ大藏省へ伺十九年四月十三日(十九年四月廿七日官報)

徵稅令書金額ニ對シ數回分納ヲ為シタル後其令書紛失又ハ燒失流失セシトキ戶長ニ於テハ更ニ郡區長ニ合書ノ再渡

方ヲ請求シ而シテ完納ノ都合ヲ為スヘキ結果シテ然ラハ其令書ノ裏面ニ郡區長ハ再渡ノ事由ヲ記載シ前令書ノ番號

ト同一ノ號ヲ付シ可然候將又右再渡ノ分チ戶長金庫へ持参シ蓋キニ領取ノ體アリシ分チ更ニ記入簿印ヲ請ヒ可然候

指令 十九年四月廿二日

●在府縣獄囚徒費仕拂方ノ件 二付岡山縣ヨリ内務省へ伺十九年五月四日(十九年五月二十日官報)

一 押送費ハ豫メ期定シ難キ支出ニシテ從來各警察署ニ於テ一時換換仕拂置一箇月分ヲ取置シ該署ヨリ請求セシメ

仕拂候處令般歳入歳出納規則執行ニ付該規則ニ據ルキハ各受取人ニ對シ支拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スヘキモ爾

地ニシテ其時々執行シ難キ無止儀ニ付從來ノ通リ換換サセ其請人即チ警察署ニ對シ仕拂切符ヲ交付シ可然候

一 囚徒存監諸費ノ額モ地方費監獄費ニ混一ニ仕賄フヘキモノニテ之ニ對スル受取人區分シ難キニ由リ規則第五十九

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

指令 十九年五月十四日

一 移轉費正當受取人ニ對シ仕拂切符發行シ難キ分ハ警察署へ概算ヲ以テ交付スヘシ
一 囚徒在監費ハ本年四月二十八日訓令但書ノ通
但十九年以降ハ押送費ヲ移轉費囚徒在監費ト改ム

● 徵稅令書并歲入報告表記載方ノ件ニ付山形縣ヨリ大藏省へ伺

十九年五月廿一日
(十九年六月十四日官報)

歲入取扱ニ關スル徵稅令書第二號書式(第何期分ト)ニ依レハ一箇年前後ノ兩期ニ徵收スル營業稅ノ如キハ都テ第一期第二期(新規ニ係ル分ト)分ト記載スル價ナラ果シテ然ラハ歲入報告表ノ如キモ同様(新規ト係ルキ)記載スルキヤ徵稅令書(所屬年何期)へ何月何日限分ト納期ヲ記載スル價ナラハ歲入報告表モ同様記載スルヘキヤ
指令 十九年五月二十一日

徵稅令書ニ關スル件ハ一期、二期、臨時收入ノ三箇ニ區別スヘシ

● 官有地諸收入金徵收方ノ儀ニ付東京府ヨリ内務農商務兩省へ伺

十九年八月廿四日
(十九年九月十六日官報)

本年農商務省訓令第十三號ヲ以テ官有地諸收入金徵收規程御改定明治十九年度ヨリ施行スヘキ旨御訓令相成候ニ付テハ昨十八年九月第三十九號御達第三條ニ據リ人民ノ都合ヲ以テ返地セシモノ其返地年月ノ地料ヲ徵收セザリシ分夥多有之候處今般ノ改定規程ニ據リ夫々湖リテ徵收セザルヲ得ス然ルニ右等ハ舊規程施行中其規程ニヨリ處分テ了セシモノニア今更新規程ニヨリ追徵候ハ頗ル不穩當ナル感ナキ能ハス又已ニ處分済ノモノ多人數ノ内ニハ日令除却不明ノ者モ可有之實際處分困難ニ有之旁改定規程ノ儀ハ管下へ傳達ノ時ヨリ施行檢査致度
追テ府下河岸地々料ノ價ハ昨十八年十月十六日ニ付テ以內務省へ相伺候達從前ノ如ク月々收入取計度
指令 十九年九月十三日

伺ノ通

● 歲入出計算簿記入方ノ件ニ付長崎縣ヨリ大藏省主計局へ照會

二十年一月十三日
(二十年一月廿五日官報)

客年十二月二十五日御省訓令第五十九號ヲ以テ歲入出計算簿規程改定相成候處第一節歲入簿記式中宜振若クハ當期徵收相成リ難キ場合ニ於テ記帳方類例無之右ハ如何記載然ルヘキヤ
回答 二十年一月二十二日

第壹部歲入中宜振ニ歸シタルモノアルトキハ減額ノ例ニ依ヒ先當テ以テ其員額ヲ記入摘要ノ欄ニ其事由ヲ明記シ又當期徵收難相成モノアルモ豫算及課稅額ニ變更ヲ來サシ以上ハ豫ノ欄ニアル員額ヲ其儘掲置キ追テ收入ノ當該月日ニ至リ其事由ヲ詳明ニシテ記入シ月割額整理簿ニ於テハ甲月ノ座ハ郡區長ヨリ其事由ノ申報ヲ得テ結果シ追テ徵收済ノ報告ヲ得タルトキ乙(或ハ丙)月ノ座ニ之ヲ記入シ整理候儀ト御承知之アルヘシ

● 歲入出計算簿整理帳簿ノ件ニ付宮崎縣ヨリ大藏省へ伺(二十年一月十二日)

客年五十九號訓令記帳規程甲第十八號模本概算支出金整理簿へ備考ノ一欄ヲ設ルモ若シカラズヤ
指令 二十年一月十五日

伺ノ趣聞届ケ難シ明細ヲ要スルモノハ適宜明細簿ヲ設ケルモ妨クナシ

● 徵收額整理簿記入ノ件ニ付神奈川縣ヨリ大藏省主計局へ照會

二十年一月十四日
(同月二十日官報)

客歲(十一月)御省訓令第五十五號ニ據リ郡區役所會計主任ノ書記ヲシテ第二部歲入徵收ニ係ル納額告知書ヲ發セシムルニ當リ該役所ニ適宜ノ徵收額整理簿ヲ設置セシムルニ於テハ該納額ハ本圖ニ設置セル徵收額整理簿へ登記スルニ及ハサルノ意義ニ有之候哉
回答 二十年一月十九日

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

郡區長ニ委任シタル條件ニ附帶スルモノニシテ書記ヲシテ納額告知書ヲ發シテ第二部歳入金ハ該役所ニ於テ制規ノ帳簿ニ記入整理セシメ府廳ニ於テハ毎旬若シクハ毎月ニ告知書發行高及徴收額ノ報告ヲ徴收シ之ニ據リ徴収額整理簿其他各整理簿ニ記入シテ歳入報告書ヲ調製スルモノトス

●歳入歳出計算簿記載方ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省主計局ヘ伺

(二十年一月二十一日
同年二月十八日官報)

豫算額ニ對シ増減ヲ生スルトキ或ハ徴收額ノ内過誤納ニ依リ下戻ヲナシ又ハ徴收額ニ訂正ヲ要スルトキハ月割額整理簿ヘ其旨記入スヘキヤ果シテ然ラハ記載方如何相心得ヘキヤ

回答 二十年二月三日

第一段ノ場合ニ於テハ月割アルモノハ其月額ヲ記入シ第二段第三段ノ場合ニ於テハ記入シタル該月ノ口座ニ於テ規程第十七條第十八條ニ據リ下戻又ハ訂正ノ記入ヲナス儘ト御承知有之度

●歳入歳出計算簿記載方ノ件ニ付青森縣ヨリ大藏省主計局ヘ照會

(二十年一月三十日
同年二月十八日官報)

日記簿ハ豫算ノ合通書ニ據リレノハ本廳主管ノモノト本廳ニ於テ他屬ノ支那局ノ位置ニ立テ取扱フモノ 海軍扶助金如キハ勿論記載スヘキモノト存候得共右ノ外一時取扱金ニ係ル國幣社ノ幣用及神祇料内務省ノ阿片拂代等各種ノ委任ニヨリ一時受拂チナスモノ 従前一時取扱金ノ如キハ記載スヘキモノニ無之候ニ候哉亦ハ荷シモ和然國庫ノ支出ト見認ムルモノハ総テ記入スヘキ儘ニ之アルヘキヤ

回答 二十年二月十日

海軍扶助金集治監費等ハ勿論實額ニ於テ任拂切符ヲ發シ發出報告書ニ編入可相成性質ノモノハ日記原簿ニ記入シ其他ノ一時取扱金等ハ一切記入チナサル儀ナリ

●出納規則書式ノ件ニ付遞信省ヨリ大藏省ヘ照會(二十年二月十六日
同年三月二日官報)

出納規則書式中第二十三號乙種徴收未済報告書式ニヨレハ告知額ヲ掲記スルモノ、如ク相見ヘ此告知額トハ該ハ十九年度所屬ニシテ本年三月三十一日迄ニ納額告知書ヲ發シ四月已降ニ降リ金庫ヘ納附可相成員額ヲ示サレタルモノナルヤ果シテ然ラハ該額ハ即チ未済額ナルニ付別段徴收額欄内ニ記入スヘキ員額ハ無之被存候得共書式中徴收額及差引未済額等ノアルチ以テ考フレハ彼ノ告知書トハ即チ現豫算額ヲシテ掲記セシメラレトノ主題ニハ有之間敷哉當省ニハ郵便電信收入等現金ヲ以テ收入スルモノ有之旁目下調査上承知致度候

退テ本文豫算額ヲ掲クルモノトセハ其豫算及徴收額トモ何レモ一周年度ノ金額ヲ掲クル勿論トハ思考候得共濶テ及御問合候

回答 二十年二月二十八日

右ハ納額告知書ヲ發シタルモノト現金收入ノ分トナ間ハス濶テ該年度ニ於テ收納ヲ告知シタル員額ヲ指稱シタル儀ニシテ即チ御照會書後段及ヒ遺書ノ御見解ニ適合致候

●徴收整理簿記載方ノ件ニ付岡山縣ヨリ大藏省ヘ伺(二十年三月十日
同年三月十四日官報)

第二部歳入徴收額整理簿記載方ノ儀ニ付過般相伺候成難聞屆首御指揮有之敬承致候然ル處御實際照考仕候ニ地所賣下料ノ一科目ニ於テモ巨多ノ人數無慮二千七八百乃至三千人モ有之而シテ其金額ヲ問ヘハ僅カ拾錢以下ノモノモ多々有之一筆限リ記帳スルトキハ最前告知書發行ノ節並收入ノ節登記トモニテ百ヘ一シモ相差リ實ニ手數ヲシ人少ノ實際務抄取儀候哉ト懸念罷在候就テハ未納者取調ハ歳入取扱順序ニ據リ設置罷在候納額整理簿ニ據リ列然罷在候ニ付右整理簿記載方ノ儀ハ四月分チ取纏メ記帳候様致度此段再應相伺候

指令 二十年三月十六日
伺ノ趣聞屆候事

●歳入歳出納規則及歳入取扱順序ノ件ニ付兵庫縣ヨリ大藏省主計局ヘ照會(二十年三月四日(同月十二日官報))

歳入歳出納規則及歳入取扱順序中疑義ノ歴左ニ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

一會計年度内歳入ノ徴収ヲ了セザルモノアルトキハ規則第七十七條及順序第七條ニ據リ其報告書ヲ製シ進達スヘキ答ノ成地租第五期ハ成分期内ニ係リ第六期ノ如キハ納期限會計年度以後ニ涉ルヲ以テ前述規則等ニ據ル能ハス如何取扱ヘキヤ

一歳入出納規則書式中第二十三號甲書式即會計年度内徴収未済報告書(又ハ出納閉鎖前不納報告書)ニ官損額掲記欄ナシ右ハ差引徴収未済額ヘ併記シ摘要欄内ヘ官損ノ事由ヲ記載スヘキヤ

回答 二十年三月十一日

第一項地租第五六期分ト未済報告書中ニ算入可有之第二項官損額アルトキハ徴税額ニ於テ減額報告相成可然候

●歳入徴税令書其他收納區分記載方及歳入計算簿記載方ノ件ニ付

千葉縣ヨリ大藏省主計局(照會二十年一月二十四日(同年三月十一日官報))

本年御省訓令第一號第一項歳入徴税令書其他收納區分記載方及客年御省訓令第五十號縣歳入計算簿記載方等ニ付不了解ノ際左ニ

第一 本年訓令第一號第六項但書二一月ヨリ三月迄ニ属スル地租ヲ出納開始以前ニ收入スヘキ場合ニ於テハ云々トアリ就テハ此旨趣ニ據リ該年ノ地租ノ前年分ヘ編入整理スル時ハ自然地租表ニ對シ特種ヲ生スルニ至ルヘキ時ナレトモ其額上編入セシ目額及事由ハ徴税額表及歳入報告書等ヘ記載スルニ及ハサル候ニ候哉

第二 同上第七項ニ過年度ニ屬スル收入ハ徴税令書ヘ所屬曆年ヲ記載シ云々トアリ就テハ假令ハ十九年前半期ニ於テ事故アリ不納ニ係ル營業稅ヲ後年ニ至リ徴收スルトキハ單ニ十九年分ト記載シテ可然筋ニ相見ヘ候得共其十九年分ト記載スルモノノ内當初十八年度ニ編入セシモノ(十九年一月ヨリ)ト十九年度ニ編入セシモノ(以後三個月分)ト二種ノ別アリ然レトモ徴税額表及歳入報告書等ヘ當初ノ整理年度區分ヲ記載スルヲ要セザル候ニ候哉

第三 課税發見等ニテ既往ヘ溯リ追徴スルモノ(即チ追加稅表)モ前記第七項ニ據ルヘキ額ニ候哉若シ然ラハ既往年度ニ於テ勘定除却ヲ爲セシモノト區別相立候得共是等ハ差支無之候ニ候哉

第四 課税發見等ニテ追徴ヲ要スルモノノ内其發見セシ年度ニ屬スル税金ハ納期經過ノ分ニ限リ其現收入スヘキ當

該期ヘ編入シ(十二月ニ至リ租額ヲ徴收スルガ如キ)其納期ノ未タ來ラザル分ハ相當ノ期限ニ至リ徴税令書ヲ發スル候ニ候哉

第五 訓令第一號收納區分表中ニ示サル、何年何期又ハ何年前(後)期トアルハ渾ヘテ所屬曆年ヲ記載スヘキハ勿論ト被存候得共酒造稅ノ如キ一期ノ翌年ニ涉ルモノハ其翌年ニ至リ徴收スル分モ仍ホ前姓名ヲ記載(假令ハ十九年收スルモノ之ヲ十九年第三期トスルノ類)スヘキ哉

第六 客年御省訓令第五十九號ニ屬スル第一項歳入納期別整理簿ノ規定ノ納期ニ於テ現ニ徴收スヘキモノトモナレドモ其納期後ニ係ル新規營業稅等ハ追記スルニ及ハサル旨趣ニ候哉

回答 二十年三月七日

一 項 地租表ニ對シテ生シタル差違ハ其繰上ノ亦由員額ヲ記載シタル仕用書御差出相成而シテ徴税額表及歳入報告書ヘハ摘要ニ其員額ト事由ヲ記載相成度候

二 項 過年度ニ屬スルモノト雖トモ徴税令書ヘハ所屬曆年前後中期ヲ記載シ徴税額表及歳入報告書ヘハ當初ノ整理年度ヲモ附記相成度候

三 項 課税發見等ニテ既往ヘ溯リ追徴スルモノハ歳入報告書ニ其事由ヲ附記相成度候

四 項 五 項 御見解ノ趣

六 項 納期後ニ係ル新規營業稅ハ摘要ニ新規ト附記相成度候

●徴税令書裏面出納本所記載方ニ付岐阜縣ヨリ大藏省主計局ヘ照會

今般費省第十八號ヲ以テ國庫金出納區域等告示相成來ル四月一日ヨリ實施ニ就テハ徴税令書面ヘハ租稅金納入ノ支所ニヨラス都テ出納本所ヲ記載スヘキ額ト相心得然ルヘキヤ

答 二十年三月十六日

右ハ出納區域欄内郡區名ノ下出納支所名記載有之町村ニ屬スル徴税令書面ヘハ某地國庫金出納所某地出納支所記

成相成可然候

●徵稅臺帳徵稅令書記職方ノ件ニ付宮崎縣ヨリ大藏省主稅局ヘ照會

二十年四月八日
(同年四月十八日官報)

地租第三期不納ニ付成規ノ通分ノ未該地所管受入無之旨没シ地租金官帳ニ歸シタルトキハ郡役所改帳簿へハ該期ニ係ル分ノ記入シ若シ第四期以下徵稅令書第四期以下ハ記帳ヲ要セス徵稅令書ハ官帳金ヲ除去シタルモノヲ勘載スル儀哉且酒造遺石稅モ前陳同様取致然ルハヤ

回答 二十年四月十四日

地租第三期ニ於テ土地官没ニヨリ官帳ニ歸シタル金額ヲ第四期以下ノ徵稅臺帳及徵稅令書ニ記載方見込ノ迎尤第三期臺帳除却勘定ノ關係損金ノ外費ニ四期以下ノ官帳金額ヲ歸シ補要欄内ニ其事由ヲ記載シ且酒造遺石稅等併例ハ第一期ニ於テ不納ノ節ハ檢査濟石數ニ係ル稅金ヲ悉皆第一期へ繰上ケ公費處分ノ答ニ付隨テ第二期以下ノ帳簿令書等ニハ關係セス

●歳入下戻金支出取扱方ノ件ニ付農商務省山林局ヨリ大藏省出納局ヘ照會

二十年四月七日
(同年五月九日官報)

客年(九月)費省訓令第四十四號歳入下戻金實際支出ヲ要スヘキ場所ノ訓注ニ國庫金取致所ノ出張場ヲ除クテ一ニ本年費省令第三號ヲ以國庫金出納所ト改稱相成候ニ付テハ該本支所共下戻金支出取扱候モノト存セラレ候得共一應御省議承リ度

回答 二十年五月六日

右ハ出納支所ト雖モ最初現金ヲ收入セシ場所ニ係ル下戻金ハ其支所ニ於テ支出可取致候ナリ

●歳入過誤納金年度經過後拂戻ノ件ニ付神奈川縣ヨリ大藏省主稅局ヘ照會

二十年五月二十一日
(同年五月三十日官報)

將拂戻及徵損金取扱方ノ儀ハ客年第六十號第六十一號及本年第十六號ヲ以テ大臣ヨリ御訓令有之付テハ四月一日已降前年度ノ歳入拂戻ノ認可ヲ得タル場合ニ於テハ其支拂案内書ニハ第六十一號ノ科目ヲ用ヒ三月三十一日以前ニ其年度ノ歳入ヲ拂戻ストキハ第十六號ノ手續ニ據ルヘキモノト相考候得共又整理上ヨリ之ヲ看レハ前段ノ場合ト雖モ前年度會計整理期限中ハ其當該科目ヨリ扣除整理シ得ヘキモノナルニヨリ第十六號御訓令中年度内トアルハ或ハ整理期限即チ翌年度八月三十一日迄ヲ概稱セラレタル儀ニ有之候哉

回答 二十年五月二十七日

右本年費省訓令第十六號年度内トハ各應整理期限迄ヲ指シタル儀ニ付前年度過誤納金拂戻ハ翌年度八月三十一日マテハ右訓令ニ依リ該年度ヨリ扣除整理スル儀ト承知相成度候

●歳入年度區分ノ件ニ付三重縣ヨリ大藏省主計局ヘ照會(二十年四月二十九日
同年五月十三日官報)

一左ニ掲クルモノハ金員支出ノ日ニ拘ハラス其相當月ノ年度へ編入スヘキ儀ニ候哉

一左ニ掲クルモノハ金員支出ノ日ニ拘ハラス其相當月ノ年度へ編入スヘキ儀ニ候哉

一左ニ掲クルモノハ金員支出ノ日ニ拘ハラス其相當月ノ年度へ編入スヘキ儀ニ候哉

一左ニ掲クルモノハ使用若クハ金員支出ノ日ニ拘ハラス其購入シタル月ノ年度へ編入スヘキ儀ニ候哉
器具器械代 書籍代 筆紙墨文具代 消耗品代 郵便及電信切手代 被服代 木蓋代 給付費等ノ類
一左ニ掲クルモノハ使用又ハ購入若クハ印刷セシメタル日ニ拘ハラス金員支出ノ年度へ編入スヘキ儀ニ候哉
物品借入料(一箇何程ノ約定ヲ以テ)新聞紙代(一枚何程ヲ以テ)舟車馬類履賃(甲地ヨリ乙地迄何程ノ)印刷費 印刷金 寫字料等ノ類
追テ往返通算里程一里ノ内甲乙兩年度ニ跨ル車馬賃ノ儀ハ甲年へ度租入決算然ルヘキヤ

回答 二十年五月十日

第一項 第二項第三項ハ御意見ノ通り第四項ノ内物品借入料ハ其物品使用ノ年度新聞代ハ購入ノ年度舟車馬賃ハ
雇入レタルトキノ年度印刷費寫字料ハ其印刷寫字ヲ命シタルトキノ年度諸謝金ハ支出ノ年度ニ編入可相成又御遺
書ノ車馬賃一里未滿ノ端ハ切御計算可有之候追テ出納規則第十四條ノ場合ニ於テハ御テ本文ノ限ニ備之候

●納額告知書發付方ニ付選信省ヨリ大藏省へ照會(二十年七月二十八日 同年八月六日官報)

十九年度ニ係ル諸收入金ノ内電信修繕費辨償金等目下徴收方可取計分有之ニ付テハ年度經過ノ今日ニハ領得共因
リ十九年度所屬收入金ナルニ付假令目今納額告知書發付候モ無論該年度ハ整理致シ可然候

回答 二十年八月四日

御申越ノ通り御取扱可然候

●租稅計算整理順序中ノ件ニ付山口縣ヨリ大藏省主稅局へ照會

二十年九月六日(同月二十一日官報)

第一項 租稅收納既未濟報告表ハ第一條第一項附注ノ如ク納期ヲ豫定セサルモノハ除クヘキ候ニ候處該様式ニ備
ハ隨時收入ニ係ル新規 過年度未納金ニシテ其年度モ報告スヘキモノニ有之候是テ盾スル候ニハ領得トモ様式ノ如
ク報告ヲ要スルモノトモ本稅ニ納入セシモノトモ
要無之モノニ付徴收額ノ一欄トシ夫々記入スヘキヤ

第二項 前條既未濟報告表進達後課稅額及徴收額ニ増減 徴收未済金 生スルモ別段追報ヲ要セサルナ

第三項 租稅收納報告表ハ翌年十二月十日ヲ期シ進達スヘキ候ニ有之候處國立銀行稅務免許稅等ノ如キ年度内ニ
徴收方完了セシモノ又ハ決算整理期限内ニ於テ未納金完結セシモノハ無論右明日ヲ俟タズ報告表進出シ然レハキ

第四項 前條收入報告表稅額(本年度分)及既未濟報告表課稅額ハ歲入歳出納規則ニ依リ報告スル徴稅額ニ依リ記
載スヘキヲ以テ稅表額ト符合スヘキハ勿論ノ儀ニ候處本年三月官報第一一〇七號兵庫縣照會主計局回答ノ如ク官
損金アル時ハ徴收額ニ於テ減額報告スルモノトモ本年三月二十四日日本縣ヨリ電報ヲ以テ主稅主計兩局へ宛問合候

源自然稅免額ト符合セサルニ至ルモ可ナルナ

第五項 前條ノ通官損金ハ總テ徴稅額減却スヘキモノトモ假令ハ二十年六月滿三箇年ニテ官損ニ歸セシ徴稅額
ランニ其年度以前ニ係ル即チ十七八年度ハ徴稅額減却ニ及ハサルモ所屬十九年度ハ決算未済ナルヲ以テ二十年
半年分及ヒ十九年後半年分へ過リ徴稅報告スヘキヤ

第六項 客年十一月坤第一二八〇號ヲ以テ主稅局長通知過年度收入ノ内科目變更ニ依リ相當科目へ編入セシモノ假
令ハ二十年度ニ至リ十七八年度ニ屬スル缺損未納金補填下付ニ依リ納入セル職稅及ヒ酒造遺石稅 職稅ハ職
酒造遺石稅ハ釀造、蒸餾、ヲ收納報告書へ記入ル、時ハ通常過年度ト區別ノ高メ其事故備考へ記入スヘキヤ
再製酒稅、各別ニ編入

第七項 前條過年度收入ノ内科目隨止ニ依リ舊稅追納ノ項ヲ設ケ舊稅名ヲ目トシ納入セシ十八年度地券印稅ノ如
キハ地租收納報告表へ編入スルモ穩當ナラサルモノニ付舊稅追納トシ別ニ收入報告表ヲ製ハヘキモノナルナ

第八項 本年八月十二日付坤第一二〇九號ヲ以テ主稅局長ヨリ照會有之候過年度收入金報告表申道徴金減額ノ一欄
有之候處右追徴金減額ヲ生スル場合不判然ニ付承知致度候

回答 二十年九月十六日

第一項 客月二十七日付正誤ニ由リ既ニ御了知ノ事ト存候

第二項 第三項及ヒ第六項第七項御見込ノ通り

第四項 收納報告表ノ賦課額及ヒ收納既未濟報告表、稅額ハ必ス稅表額ニ符合ヲ要シ候故ニ官損金アリ徴收額表ニ
就キ減額相成候トモ右兩表ノ額ハ減除セサル方ニ有之候

但收納既未濟報告表御送付後ニ於テ生セシ差異ハ第二項ノ通り追報告ニ不及 此表ニ限り差 異アル儘關ク儀ニ有之候

第五項 前項ニ因リ御了解可相成事

●收納既未濟報告表調製方ニ付三重 縣ヨリ大藏省へ問合(二十年十月二十一日 同月二十八日官報)

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

本年七月貴省第五十號訓令租稅計算整理順序中租稅收納未済報告表ハ是迄各項毎別表ニ開製出来候處租稅報告表様式中報告表調製心得ニ別紙ニ開製スヘキ明文ヲ無之ニ付テハ便宜且勞費ヲ省クメ已後ハ納期ヲ同シスルモノハ各項ニ区分シ併セテ一表ニ開製差出スヘキヤ

回答 二十年十月二十六日
見込ノ如ク取計フヘシ

●歳入報告書式ノ件(福井縣)照會明治廿一年四月十一日

今回大藏省令第貳號訓令第十二號但書ニ該ル書式御領布相成候ニ付テハ解釋上疑義ニ涉ル應有之則左記ノ件ハ向郡長へ訓示ノ都合モ有之義ニ付至急御明示有之度

一 第一部歳入報告書ノ附記ニ「第十八號第二十號甲書式ヲ合シテ云々」トアル以上ハ別段令込ナキモノト雖モ歳入歳出納規則第六十七條ハ自ラ消滅ニ歸シタル義ナル故

二 同報告中過年度歳入ハ專ラ未納額ニ登記シテ未納額ノ追徴ニシテ誤謬發見等ニテ既往ヘ納リ追徴ノ分ハ限外ナリト解釋シ可然義

三 同書中未納額トハ賦稅額ニ對スル收入未済高ナルハ明了ナリト雖モ時ニ徵收額ノ内過納納アリテ徵收額ニ對シテ後未タ下戻ニ計算上却テ過納トナルトキハ如何整理スヘキヤ又假令ハ甲郡役所ノ報告ニハ未納金十圓ナルモ乙郡ハ過納納アル爲メ金一圓徵收過トナル場合ニ於テ其過未納ト差引金九圓トナスカ如キハ允當ヲ得サル様存候

四 歳入報告書追加ニ表記スヘキ年月ハ徵稅令書ヲ發シ若クハ税金徵收ノ現年月ヲ記載スル義ナルヤ又ハ豫定納期ノ年月例ハ事故アリ廿一年三月ニ於テ徵收シタタ記スヘキ義ナル故

五 訂正表中ノ「増」ト「歳入報告書追加」ノ金額ハ概シテ官ヘハ等シク増額ナラン然レニ「追加報告書」ト「訂正表」ノ「増」トチ要セラルハ如何ノ成立チヲ押ハ判然其區別チナスヘキ哉「二」ノ通例ヲ御垂示アリタシ

六 訂正表中ノ摘要ニ「目」チ要セサルヤ果シテ然ラハ其金額ハ源チ「項」ノ合計額ヲ據ル義ナル故
七 前額第二ニ限外ナリト解釋スル義往ヘ納リ追徴ノ分ハ如何整理スヘキヤ

八 前月未納越屆及ヒ徵稅額ノ内不納處分ノ上官損ニ歸シタルトキハ該金額ハ如何整理スヘキ哉

(大藏省主計局)回答 明治廿一年四月廿四日

第一 御見解ノ通

第一 誤謬發見等ニテ既往ヘ納リ追徴ノ分モ過年度歳入トシテ御取扱可相成義有之候

第三 前段過納ノ分ハ未納額ノ欄内ヘ朱書スヘキ義ニ有之候後段乙郡ニ於テ徵收過云々ハ本頁アルヘカフサレコトト存候尤モ乙郡ニ於テ前段ノ如キ朱書トスヘキモノアルニ依リ起リタル徵收過ニ有之候ハ甲郡未納ト差引相成ル可ク候

第四項 徵稅額ノ追加ハ徵稅令書ヲ發布シタル現年月ヲ記載シ徵收額ノ追加ハ税金收入ノ現年月ヲ記載可相成候

第五項 訂正表中ノ増ハ報告ノ誤謬ニ出テシモノニシテ追加表ノ増ハ全ク報告誤ニ係ル分ヲ指シタル義ニ有之候

第六項 訂正表表中ノ摘要ニハ款項目共記載相成度候

第七項 第二項ニテ御了知可相成候

第八項 徵收額訂正表ヲ以テ減額可相成義ニ候

●歳入決算報告書書式中ノ件(福岡縣)問合明治二十一年九月二十五日

本年御省訓令第三十二號歳入決算報告書式申歲入豫算増減表ノ儀者勅令若クハ法律ニ據リ増減シタルモノヲ記入調製スヘキモノニシテ其増減ナキ場合ハ決算報告表ノ豫算現額ト同數ナル豫算原額ヲ記入スルニ止リ其他ニ記入ヲ要スルモノモ有之間數被存候條若シ御差支無之候ハ増減ナキ場合ハ該表進達セサル様致度

追而増減表調製ニ當リ其増減ナキ税目ハ該表ヘ記入セサルモ御差支無之義
(大藏省主計局)回答 明治二十一年十月十三日

右ハ御意見ノ通ニテ可然尤モ此場合ニ於テハ決算報告表紙ニ(限額定額ニ對シ増減ナキヲ以本邊據理現ノ欄内ニハ我定額ヲ掲ク)ト御記載相成度且御追番ノ趣ハ差支候條御記載可有之候

●第二部歳入現金收入整理簿ノ件(島根縣)問明治二十一年九月十一日

第十二類 租稅及貸紙幣公債區町村費

本年(三月)御省訓令第十三號ヲ以テ第二部歳入月割額整理簿被檢ニ付第二部歳入報告書其他整理方違違(本年四月官報第千四百四十二號)ヨリ御省主計局長へ照會ノ處右報告書ハ徵收額整理簿ヲ以テ調製方云々御回答相成然ルニ第二部歳入中現金収入(地券下付書替手數料トモ)ニ屬スル部分ハ徵收額整理簿へ登記シ難キ筋ニテ整理上並支條條別紙模本(別紙模本略之)ノ通り現金収入整理補助簿本年度以降新設方御承認相成度

追テ客年一月御省訓令第一號ニヨリ地券下付書替手數料現金八月長ニ於テ納付書ヲ以テ金庫へ納入スヘキモノニ付現金受拂簿へ登記セサルモ本文補助金へハ登記ノ額爲念副申候也

(大蔵省)指令 明治廿一年九月二十六日
伺ノ趣第二部歳入中現金収入ノ分(地券下付書替手數料トモ)ハ二十一年度以降徵收額整理簿ニ登記(管方貸方トモ)整理スル儀ト心得ヘシ

●歳出支拂案内書差引表送付方ノ件(靜岡縣)照會明治二十一年十二月十八日

本年三月御省訓令第十號ニ依リ歳出報告書ハ添付シテ差出シ候國庫金出納所又支拂案内書差引表ノ儀ハ支拂案内書受領高ヲ元受トシ之ニ對シ現金支拂額並ニ差引未拂額ノ掲記セシモノニシテ案内書受領書ノ當月ニ於テ添付現金支拂ハサルトキハ更ニ其翌月ノ差引表ニ於テ前月分ノ案内書ニ對スル現金支拂額トシテ其月ノ案内書受領書ト區別シテ之ヲ掲ケ猶未拂アルトキハ更ニ其翌月ノ差引表ニ之ヲ掲ケルモノニ有之故ニ會計整理期限後即翌年度九月以後ハ縣廳ニ於テ支拂案内書ヲ發セサルモ出納所ニ於テ前月受領ノ案内書ニシテ前月中現金支拂未済ノモノアルトキハ前月ノ追補ニ屬スル分トシテ其月ノ差引表調製出納所ヨリ送付シ來ルモノ右ハ出納所ノ現金支拂ヲ示シタル迄ニ止マリ候儀ニ有之且ツ歳出報告書へ差引表ヲ添付スル縣廳支拂切符發行高ト出納所案内書受領高ト差違無之ヲ取スルカ爲メニシテ出納所ニ於テ現金支拂ノ有無ヲ調査スルノ主意ニ無之ト存シ候ニ付右前月ノ追補ニ屬スル差引表ハ出納所ヨリ送シ來ルモ縣廳ヨリハ御省へ進達シハ不及儀トハ存シ候

(大蔵省主計局)回答 明治二十一年十二月二十四日

當月支拂案内書發行無之前月若クハ前々月發行ノ支拂案内書ニ對シ出納所ニ於テ現金支拂高ヲ掲ケ送付相成候儀適合ニ於テハ該表ハ直ニ當局へ御送付相成候儀ト御承知有之度

●決算報告書書式凡例ノ件(新潟縣收稅長)問合明治二十一年十二月十五日

本年六月大蔵省訓令第二十二號ヲ以テ制定相成候豫算決算報告書凡例中初項ニ豫算増減報告書増減トハ勅令若クハ法律ニヨリ増減セシモノヲ指シスヘシト有之右ハ元屬縣廳管轄東部原郡管轄ニ屬セラルレ同郡ニ對スル豫算其當時増減表トシテ増額致量ナリ如キモ勿論勅令ニヨリ増減セシモノトシテ取扱可然哉

(大蔵省主計局長ヨリ新潟縣知事へ)回答 明治二十二年一月十四日

貴縣收稅長ヨリ御問合ノ趣了承右凡例第二項ノ主意ハ勅令又ハ法律ニヨリ直チニ豫算ニ増減ヲ生スルモノ即チ税則ノ新設改正時ノ場合ヲ指示シタル儀ニシテ管轄等ヨリ増減ヲ生スルモノノ如キハ此限外ニ有之候尤管轄等ニヨリ増減ヲ生スルモノト雖モ決算報告書ノ原豫算額ヲ變更スル儀ニハ有之候ハ凡例第一項ノ原豫算額ヲ分劃引續タルモノニ付之レテ甲縣ノ原豫算額ヨリ減シ乙縣ノ原豫算額ニ併合スルモノニシテ前件トハ專自カラ區別有之候間右様御了知相成候

●歳入月額豫算表調製方ノ件(澁信省會計局)照會明治二十二年一月十七日

毎年度歳入月額豫算表ノ儀ハ歳入取扱順序第十條第十七號乙書式ニヨリ各出納所限リ毎款項目ニ區分シ月別ケ豫算書式ニ有之條處二十一年度以降歳入報告書書式改正相成且ツ各出納所ヨリ送付セル歳入金毎月報告書モ款項ニ止マリ月分ケ記載被隨從ツテ二十二年歳入月額豫算表調製ニ際シ毎出納所毎二月分ケノ調製ナヌト不容異ニ付テハ各出納所毎款項ニ區分シ月分ケヲ以テ調製可然哉

(大蔵省主計局)回答 明治二十二年一月二十六日

各出納所毎二月別ヲ以テ款項ニ留メ調製ノ儀差支無之候

●地割矯正等ノ件(富山縣收稅長)質議明治二十二年四月二十二日

第一項 地割調査事業完了ノ今日ニ至リ地割等慣習ヲ矯正セント出願セル村方有之事實ニ付調査ヲ遂ケ候處地割調査ノ當時尙舊慣ヲ將來ニ遵守セント村內決中告ニス然ルニ今般町村制實施ニ付町村分合成分ニヨリ其分屬ノ村方ニ於テ舊村ノ内約履行ナラサルヨリ斯ク出願セシモノニシテ今更不都合ニハ候得共會テ何例指令ノ主意ニ基キ

縣限、特許ヲ與ヘ處分濟御屆可然哉

但本文特許ヲ與ヘキモノトスルトキハ今後同様出願ノモノアルトキ其時々特許可然哉
第二項 撤回水害ノ爲メ荒地ノ地盤錯亂シ地盤復舊能ハス現地ニ訂正既ニ情願ノ村方有之前項ニ準シ特許ヲ與ヘ可然哉

第三項 土地所有者ノ移轉スハ買入及其解約ニヨリ登記所ノ通知ヲ土地登記所管廳ヘ受理セシメ日ヲ所有者ヲ移轉名換ノ分界トナシ登記所訂正後租スヘキ哉右ハ所有ノ權利義務ニ一大關係ヲ有スル領ニ付種メ置候度
第四項 本年訓令第十五號第三條(第二條ノ場合ニ於テ府縣知事對テ)通過ヲ得タルトキハ直ニ土地登記簿地圖及ヒ地租登記簿ヲ整理スヘシ)ニ據リ土地登記簿等整理濟直ニ町村役場ヲ經テ國人又ハ國人ニ通過セシメ又ハ願書ヘ指令ヲ附シ下付スヘキ哉

第五項 本縣ハ從來ノ地券登記ニ修補ヲ加ヘ土地登記簿ニ換用ナラサルニ付新開ノ事由ヲ具シ今同知事ヨリ及上申御允許ノ上ハ從來ノ地券登記ハ地租改正以後ノ沿革ハ之レニ訂正テ加ヘス所有物トシ費却ノ處分ヲナシ其費用ハ地方稅經濟ヘ指繼クヘキヤ將テ該登記簿ハ素々地券登記印稅ノ支拂ニ屬セシモノニ付國庫ノ雜收入トナシ納付セシムヘキ哉

(大藏省主稅局)回答 明治二十二年五月一日

第一項 租完了ノ今日ニ至リ出願セシ理由ヲ具シ別段知事ヨリ御上申相成リ可然哉
第二項 荒地年期中ノ地ニ條件ハ年期限、廢條例ニ據リ相當ノ御處分相成可然無年期限ニ條件ハ前項同様御取扱相成ヘシ

第三項 登記ノ日ヲ記入シ可然哉

第四項 從來ノ順序ト格別異ル領無之ニ付便宜御取扱相成可然哉

第五項 退テ何分ノ御御答及フヘシ

●官民有未定地徵稅區分ノ件(香川縣)伺明治二十二年四月八日

本縣下十二郡中ニ官民有未定ノ土地アリ其起因性質ヲ調査スルニ明治九年改租ノ際舊券狀ノ下付ナク又ハ舊地番不分明ニシテ該地沿革ノ知ル可カラサル等總テ所屬ノ明瞭ナク欲キシ地所ハ概シテ所有未定地ノ名義ヲ以テ之テ改租ノ簿冊ニ記載シ改租事務ノ整頓ヲ告タリ爾來變遷繼ニ於テ民有地ト爲スヘキモノハ其置左ノ置シ處分ヲ了シタリト雖モ其置左ノ不充分ニシテ直ニ民有地ニ屬シ難キモノハ猶以役所所屬ニ從事セシメタリシテ以テ處分後今日本縣ニ至リ目下本縣ニ於テ其完了ヲ爲スヘキニ歸著セリ然ルニ從來本行ニ於ケル賦稅中度ノ區分ヲ見ルニ其未定地ニシテ民有地ト爲スヘキモノハ源ア明治九年ニ過リ賦稅シ來リ候手續ニシテ實際經營ヲ欲ケルモノ、如シ例トナレハ本件ノ如キ、察シニ所屬未定ノ土地ニ係ルヲ以テ其處分ヲ決定セシ時ニ於テ始メテ官民有ノ區分ヲ斷定スヘキモノナレハ其決定以前ニ過リ賦稅スルノ道理ニ乏シク全ク他ノ未定地(改租ノ際已ニ民有ニ歸著シタルモノ他ノ事故ノ徵收シ能ハ)ノ類ト其起因ヲ異ニスルモノナリ且ツ取扱上別ニ據ルヘキノ法令無之勞本件ノ如キハ無論許可ノ年ヨリ賦稅スヘキハ順序ノ宜シク然ラサルヲ得サルモノト信認致候一體本件ハ向キニ變遷縣ニ於テ地租取扱同時ニ實地検査ヲ經民有地ニ編入スヘキ見込ノ者ナリ則チ其當時變遷縣ヨリ引續事務中ノ一事件ニシテ要スルニ目下本縣ニ於テ處分終了時期スヘキモノニ有之候既アハ右等ノ分ニシテ自今民有地ト爲スヘキ分ハ民地籍人許可ノ年ヨリ賦稅取扱候致度

(大藏省)指令 明治二十二年五月七日

本年法第百九號國稅徵收法第十七條ニ依リ處分スヘシ

●歲出承認額整理簿記載方ノ件(嶋根縣)問合 明治二十二年五月二十九日

歲入歲出計算簿規程中歲出承認額整理簿ノ儀ハ毎款各月ニ分類(但金庫別ニ管轄方ハ明治二十一年八月六日御省部可濟)登記スヘキ處規ニ候處本年度以降經常歲出第一部第三部及臨時歲出ノ三部ニ分テ分配布候官內務書記官ヨリ通牒ノ趣、有之候ニ付以候登錄方ノ總テ每主管廳每部各月毎金庫ニ分類シ致整理可然哉

(大藏省主計局)回答 明治二十二年六月七日

御申越ノ如ク配布セラレタル場合ニ於テハ主管廳每部各月毎金庫別ニ口坐テ分類整理相成候ア可然

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

●收稅部出張所取扱事務ノ件(千葉縣收稅長)問合 明治二十二年六月七日
 去月二十二日附ナ以テ御送付ノ收稅部出張所事務概目第四項ニ土地臺帳ノ原簿ヲ下付シ其手数料ヲ徴收スル事ト有
 之候處右ハ從前ノ通商人歳出納則第十六條但書ニ據リ現金ヲ收入シ歳入取扱順序第四十五條ニ據リ納付書ヲ以
 テ金庫ヘ納付セシムヘキ儀ト相考候ヘ共其收入ノ報告書即歳入ハ出張所結メ收稅長ヨリ直チニ本會計主務官ニ送
 出サシメ同官ニ於テ他ノ免許及手数料ノ類ト併セテ歳入報告書ヲ製シ進達スヘキヤ又ハ右報告ハ收稅部ニ於テ取扱
 フコト、シ他ノ免許及手数料ノ類ト分離シ別ニ報告書ヲ製シ進達スヘキ儀ニ候哉
 (大藏省主稅局) 明治二十二年六月十五日
 右ハ前段御意見ノ通

●第一部歳入帳簿記載ノ件(奈良縣)上申 明治二十二年六月十三日
 第一部歳入帳簿第二整理簿ノ儀ハ十九年十二月御省訓令第五十九號各縣計簿規程第三條ニヨリ一部區限リ記
 載セルヲ以テ各郡役所ヨリ毎表内縣(郡)別仕簿書ヲ製シ整理致シ來候處來ル七月以降收稅部出張所ヲ設ケ國稅徵收
 事務取扱候ニ付テハ出張所ハ郡別ニ整理スルヲ以テ之カ本部即チ收稅部ニテテハ郡別記載ノ必用ニ據リ之ニ付第二
 整理簿ハ各目ヲ各出張所毎ニ分類シ夫々報告書ヲ得テ記載候トキハ雙方ニ於テ少カサル勞費ヲ政省候別段御支障
 ノ無之候ハ、前陳記帳方御承認相成度
 (大藏省)指令 明治二十二年六月二十九日
 上申ノ趣開庭

●租稅外諸收入報告書中下戻金ノ區畫削除ノ件(福井縣)問合明治二十二年六月十三日
 本年三月二十九日貴省訓令第十六號ヲ以テ歳入過誤納下戻金ノ儀ハ年度ノ内外ニ拘ハラヌ給テ新拂戻及掛金ヲ以
 テ支出方ヲ委任ヤラレ候ニ就テハ二十一年三月省令第一〇改正ノ第二十號乙式第一節歳入報告書中下戻金ノ欄内
 ハ自然不用ニ属スヘキモノト存候果シテ然ラハ右報告書中ノ區畫ヲ削除シ差支無之儀
 (大藏省主稅局)回答 明治二十二年六月二十一日
 右御意見ノ通御計相成可然候
 ●徵稅令書發付方分任ノ件(埼玉縣)問合明治二十二年九月二十四日(電報)

國稅徵收法中令書ヲ發スルハ府縣知事ト改メラレタリ右ハ收稅部出張所長ニ分任シ送支ナキヤ
 (大藏省)指令 明治二十二年九月二十六日(電報)
 知事ノ名ヲ以テ收稅部出張所ニ其取扱ヲ爲サシムヘシ

●他廳委託徵收金ノ件(栃木縣收稅長)照會 明治二十二年十月十六日
 一租稅金ノ徵收方申願收稅部出張所ヨリ乙種收稅部出張所ヘ委託アリタルトキハ本令大藏省訓令第三十九號ニヨリ
 收入官吏ニ於テ之ヲ徵收シ金庫ヨリ差出シタル參照簿類ヲ添ヘ其旨乙種出張所ヨリ直ニ甲種出張所ヘ通知スル儀
 ナル哉
 一前項然リトセハ通知ヲ受ケタル甲種出張所ニ於テハ徵稅簿リ計簿及毎月收入報告書等ニ某縣某出張所ニ委託收入
 セシ旨摘要中ニ記載スル儀ナル哉
 一該委託金徵收ニ對シ金庫ヨリ知事ヘ差出ス承認書ハ乙種知事ニ於テ承認ナラス儀ナル哉
 一該委託金町村長ノ徵收スヘキ税金ナルトキハ町村長ヲシテ徵收セシムル儀ナル哉又ハ直ニ收入官吏ニ於テ徵收ス
 ル儀ナル哉
 町村長ヲシテ徵收シシムルモノトセハ委託ヲ受ケタル乙種徵稅役ヨリ交付金ヲ下付スル儀ナル哉
 (大藏省主稅局)回答 明治二十二年十月二十九日

第一項 本廳ヲ經由スヘシ
 第二項 某縣ヘ委託收入セシ旨御記帳可然
 第三項 御見込ノ通
 第四項 他管廳ヘ徵收方ヲ委託スルモノハ徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ發付セシ以後ニ係ルモノナルヲ以テ此場合
 ニ在テハ受託廳ノ收入官吏ニ於テ直ニ徵稅ノ手續ヲ爲スヘキモノトス
 其徵稅令書若クハ徵稅傳令書ノ發付以前ニ係ルモノハ舊類ヲ乙種ヘ引續キ乙種主務官トシテ徵稅ノ手續ヲ爲スヘキ
 モノトス

第百八章 外國ニ輸出スル物品海關稅免除

朕藥材其他無稅輸出ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

明治二十一年十二月十八日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
大臣伯爵松方正義

勅令第八十三號 (會報十二月十九日)

外國ニ輸出スル左ノ物品ハ明治二十二年一月一日ヨリ海關稅ヲ免除ス

但課稅ヲ要スルトキハ六箇月前ニ之ヲ公布スヘシ

一 藥材 樟腦ヲ除ク 製藥、染料、彩料、阿膠、魚膠、蠟燭、黑類、印肉、洗粉、石鹼、齒磨粉、靴墊

一 醫術用諸品、學術用諸品、香類、化粧用品

一 織物、編物、組物、縫絲、網絲、釣絲、弦線、網繩類

一 反古類

一 工作ヲ加ヘタル木材木片及板

一 金屬製ノ線釘箔及薄延板

一 寶石、印材、玻璃、琥珀、雲母、石綿、石、土、砂、湯ノ花

一 灰類、セメント、コーク、團炭、油煙、木炭薪

一 山藓、山藓絲、綿 其類ヲ除ク 麻苧

一 草木ノ皮根、穗、莖、花、及、脂、絲、瓜、竹材、竹皮、棕櫚皮、蘇鐵葉

一 柿澁糰、糖、熟艾、楨肌、漿粉

一 穀、蔬菜、果實、植木、苗、種子

一 穀、蔬菜、果實、幹、根等ヲ以テ製シタル食物、罐詰及瓶詰食物

一 菌類 椎茸ヲ除ク

一 菓子、酒類、酢、醬油、油類、製造烟草

一 搾粕類

一 禽獸蟲類、卵類、獸肉、獸脂、乾酪、乳油、蜂蜜

一 骨、角、羽毛、介殼、齒、牙、蹄、魚、唇、鯨、鬚、珊瑚、貝珠

一 生魚、鱈節

一 海草 昆布、刺昆布、石花菜、及、藻、天、ヲ除ク

第百九章 北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則

明治十年八月十一日
第五十六號布告

明治八年(二月)第十四號布告北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則別冊ノ通改正本年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

別冊

北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則

第一條 北海道諸產物 礦物、穀類、酒類、蠟、卵、紙、生、糸、器具ヲ除ク 各府縣へ輸送ノ節ハ官私用品 陸海軍用ノ品ヲ除ク 別ナク出港稅トシテ其原價百分ノ四ヲ貸主ヨリ下條ニ掲載スル一ノ船政所ニ納ムヘシ

但本文ノ稅金ハ船長ニ於テ取纏メ 外國船ヲ以輪送ノ節ハ貸主 納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 船政所有之各港

渡島國龜田郡函館港

同 國松前郡福山港

同 國檜山郡江差港

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

後志國小樽郡小樽港 同 國壽郡壽都港 釧路國厚岸郡厚岸港

左ノ十一ヶ所ニ於テ毎年五月ヨリ十月マテノ間船政派出所ヲ置キ船政所同様ノ事務ヲ取扱フヘシ
第十三号第三十三號布告ヲ以テ本文(十ヶ所)トアル(十一ヶ所)トシ(石狩)ノ次(増毛)ノ一項ヲ加ヘ
同第五十一號布告ヲ以テ各項ノ部(根室港)ノ一項ヲ加ヘ(派出所)ノ部(根室)ノ一項ヲ除キ(根中)
ノ一項ヲ加フ十四年第六號布告ヲ以テ(津輕郡福山港)ヲ(松前郡福山港)ニ改メ(福山郡吉岡)ヲ(上磯郡常呂)
ヲ(上磯郡石別)ニ改メ(津輕郡江真町)ヲ(松前郡江真町)ト改メ十八年第四號布告ヲ以テ船政派出所ノ部ニ釧路花咲ノ二箇
所ヲ増シ同年第十九號布告ヲ以テ各港ノ部(室蘭港)ヲ廢
シ(室蘭市)鬼鹿利尻ノ三箇所ニ船政派出所ヲ増設ス

渡島國松前郡吉岡 同 國松前郡江真町 同 國爾志郡熊石
後志國古平郡古平 同 國岩内郡岩内 同 國余市郡余市
同 國久遠郡久遠 石狩國石狩郡石狩 同 國余市郡余市
同 國留萌郡鬼鹿 日高國浦河郡浦河 天鹽國増毛郡増毛
釧路國釧路郡釧路 同 國厚岸郡厚岸 北見國利尻郡利尻
同 國紗那郡紗那 同 國厚岸郡厚岸 根室國花咲郡花咲

第三條 諸産物ノ原價ハ右各港ニ於テ毎月上中下旬三度賣買相場ヲ蒐集シ之ヲ査定スヘシ

但相場詳ナラサル物品ハ賣買仕切狀ヲ檢査シテ之ヲ定ムヘシ

第四條 諸船舶各府縣下ヨリ北海道へ入船スルハ船免狀或ハ船稅鑑札ヲ添ヘ第一號書式ノ通其港津船政所或ハ地方役所^{又ハ區長役}場以下同シ^{場以下同シ}へ速ニ届出ヘシ

但北海道産物ニ類似ノ品物ヲ青森秋田兩縣下等ヨリ回漕スル分ハ其品名數量ヲ詳

記シタル仕出場ノ送狀或ハ賣買仕切狀ヲ添届出ヘシ

第五條 北海道各港津ヲ回漕スル諸船舶ハ出帆ノ節甲港船政所或ハ地方役所へ申出改所役所ニ於テハ第二號書式ニ法リタル檢印帳ヲ付與シテ回漕セシムヘシ其船乙港へ入津セハ乙ノ船政所或ハ役所へ速ニ檢印帳ヲ納メ置キ出帆ノ節乙港ノ檢印ヲ乞フテ携帶スヘシ^{丙丁ノ港出}_{モ亦之ニ準ス}

但回漕數月ニ涉ル船モ該年中ハ一ノ檢印帳ヲ用ヒシメ翌年ハ更ニ之ヲ付與スヘシ

第六條 諸船舶北海道内ヨリ各府縣へ向ケ回漕ノ節ハ第二條ニ掲クル各港ノ内何レ

一港へ入船シテ其船政所へ檢印帳ヲ還納シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港納稅目錄

二通ヲ差出シ産物積載セサル節ハ第四號甲書式ノ出帆届二通ヲ差出スヘシ改所ニ於

テハ審査ノ上産物積載セタルハ定則ノ税金ヲ領収シ第三號乙ノ書式ニ法リ産物積載

セサルハ第四號乙ノ書式ニ法リ與書シテ一通ハ留置キ一通ヲ下付ノ出帆差許スヘシ

但許可ヲ得タル後都合ニ依リ三日以内ニ出帆セサル船ハ更ニ其旨ヲ届ケ出ツヘシ

第七條 船政所ナキ地方ヨリ産物積取直ニ各府縣へ輸送セント欲スルモノハ其積受ノ

地へ航行ノ節第二條ニ掲クル各港ノ内何レカ一港へ入津シ豫メ其積取ルヘキ産物ノ

高ヲ計算シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港稅前納目錄二通ヲ差出シ船政所ニ於テハ

前納目錄ノ高二從ヒ定則ノ税金ヲ領收シ同號乙ノ書式ニ法リ與書シテ一通ハ留置キ

一通ヲ下付シテ直ニ差許スヘシ

但本條許可ヲ得テ其地ニ到リ産物積取ノ節ハ其地方役所ニ申立檢査ヲ受クヘシ役

所ニ於テハ出港稅前納濟ノ目錄ニ照較シテ之ヲ檢査シ若シ產物不足ノ節ハ其由ヲ詳記セル書面ヲ右目錄ニ添ヘテ船長ヘ下附シ船長之ヲ翌年七月迄ニ發キニ納稅ノ船改所ヘ差出スニ於テハ過納ノ金額下戻スヘシ

第八條 出港稅納濟ノ諸物產都合ニ依リ第二條ニ掲クル各港ノ内ヘ揚陸スルキハ該港船改所ヘ願出ヘシ改所ニ於テハ現品審査ノ上稅納濟ノ目錄ヲ引上ケ稅金下戻スヘシ但出港稅ヲ收納シタル港内ニ於テ難破ノ災ニ罹リ稅納濟ノ產物流沒シタル分ハ實際檢査ノ上稅金下戻スヘシ

第九條 各港船改所及役所ハ休日ヲ除クノ外毎日午前九時ヨリ午後四時迄船舶出入ノ事務取扱フヘシ元諸貨物船積卸ハ日出ヨリ日沒迄ヲ限リトス

但臨時出入港ノ手數ヲ請ヒ或ハ時限外ニ貨物ヲ積卸セント欲スル者ハ其事由ヲ具シ船改所或ハ役所ヘ願出ヘシ

第十條 諸船舶出港稅未納或ハ納稅目錄外ノ產物ヲ窃ニ積載各府縣ヘ輸送セント謀リ又ハ府縣下ニ於テ陸揚スルモノハ科料トシテ船長ヨリ其物品原價其積載スル地方發賣ノ價格ヲ以テコレヲ定ム十分ノ二及出港稅ヲ徵收スヘシ

第十一條 各港船改所及役所ニ於テハ每船ノ出入ヲ審査シ若シ此規則ニ循ハサルモノアリテ其踪跡詳ナラサルキハ開拓使ヨリ直ニ其船主ノ本管廳ヘ通報シ本管廳ニ於テハ出港稅及科料ヲ徵收シ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ同使函館支廳ヘ送付スヘシ但北海道回漕中暴風等ノ難ニ罹リ止ヲ得スシテ直ニ府縣下ヘ入船スルモノハ本條

ノ限ニアラサル故其事由ヲ具シ檢印帳ヲ添ヘ速ニ其地方廳ヘ届出ヘシ地方廳ハ事實篤ト取札ノ上疑ナキニ於テハ其現存スル物品ノ出港稅原價ハ其入船シタル地方發賣ノ價格ヨリ其運賃ヲ除キテ定ムヲ徵收シテ本文同様送付スヘシ

第十二條 出入港ノ届及檢印帳ノ納受ヲ等閑ニスルモノ或ハ許可ヲ得スシテ時限外ニ荷物ヲ積卸シスルモノハ左ノ算則ニ從ヒ船長ヨリ科料ヲ徵收スヘシ

日本形船 五十石マテ 金拾五錢

五十一石以上十石コトニ壹錢ヲ加フ

外國形滿船 三十噸マテ 金五拾錢

三十一噸以上十噸コトニ拾七錢ヲ加フ

同風帆船 三十噸マテ 金三拾錢

三十一噸以上十噸コトニ拾錢ヲ加フ

第十三條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ訴出ル時ハ犯人科料ノ半額ヲ實トシテ與フヘシ(書式略ス)

○北海道ニ於テ臘虎並溫肺獸ノ獵獲ヲ禁ス明治十七年五月二十三日第拾六號布告自今北海道ニ於テ臘虎并溫肺獸ヲ獵獲スルヲ禁ス犯ス者ハ刑法第三百七十三條ニ照シテ處斷シ仍ホ其獵獲物ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

但農商務卿ノ特許ヲ得タル者ハ此限ニアラス 右奉 勅旨布告候事

收税委員ハ各營業人ノ税金ヲ徵收シ之ヲ國庫金出納所ニ納ムヘシ意納者アリタルトキハ之ヲ郡區長ニ届出ヘシ

第十二條 郡區長ハ前條ノ届出アリタルトキハ其意納者ノ營業ヲ停止シ先ツ其水産物ヲ公賣シ仍ホ營業ニ使用スル器具、船舶、建物、及海産乾場ヲ公賣スルコトヲ得但公賣ニ關シテハ明治十年第七十九號布告ヲ適用ス

第十三條 第八條ノ組合ニ加入セスシテ水産物ノ營業ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ其水産物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徵ス

第十四條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十五條 水産稅ノ納期及此稅則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第十六條 從前現品定稅ヲ徵收シ又ハ現品稅ヲ徵收セス若クハ無稅ニシテ明治十五年ヨリ同十七年マテ三箇年間ノ產出高詳カナラサルモノハ當分其營業人各自ノ現產出高ニ就キ第六條ノ稅品拂下平均代價ヲ以テ價額ヲ定メ其百分ノ五ヲ税金トシテ徵收スヘシ但明治二十年以後三箇年ヲ經過シタル上ハ大藏大臣ニ於テ本稅則ニ據リ改正スヘシ

第十七條 前條ノ營業人ニ關シ特ニ明文ヲ掲ケサルモノハ第十條ノ税金ニ係ル事項ヲ除クノ外總テ此稅則ニ從フヘシ

第十八條 第十六條ノ營業人ニシテ其水産物ノ產出高ヲ偽リ通稅シタル者ハ其通稅高

三倍ノ罰金又ハ科料ニ處シ其水産物ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其代金ヲ追徵ス但自首スル者ハ其税金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第十九條 明治十年第五十六號布告同十七年第四號布告同年第十二號布告及從前北海道物產稅ニ關スル命令規則ハ此稅則施行ノ日ヨリ廢止ス

○北海道水産稅則施行細則 二十年四月十九日 大藏省令第六號

今般勅令第六號ヲ以テ北海道水産稅則公布相成候ニ付施行細則左ノ通之ヲ定ム

北海道水産稅則施行細則

第一條 水産稅ノ納期及ヒ其納額割合ハ左ノ如シ但組合會ノ評決ヲ以テ每納期ノ納額割合ヲ繰上ケ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其繰上ケヘキ割合ヲ定メ郡區長ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

渡島國 後志國 石狩國(石狩郡) 天鹽國 北見國

第一期 六月一日ヨリ 六月三十日限リ 百分ノ四拾

第二期 八月一日ヨリ 八月三十一日限リ 百分ノ四拾

第三期 十月一日ヨリ 十月三十一日限リ 百分ノ七

第四期 十二月一日ヨリ 十二月三十一日限リ 百分ノ七

第五期 翌年三月一日ヨリ 三月三十一日限リ 百分ノ六

膽振國 日高國 十勝國 釧路國 根室國 千島國 石狩國(石狩郡)

第十二類 租及貨紙幣公債區町村費

二十一年五月
大藏省令
第四號ヲ以テ
第一條中
改正增加

第一期 六月一日ヨリ 百分ノ五
 第二期 八月三十一日限リ 百分ノ二十
 第三期 十月三十一日限リ 百分ノ二十五
 第四期 十二月三十一日限リ 百分ノ二十五
 第五期 翌年三月三十一日限リ 百分ノ二十五

第二條 稅則第十六條ニ該當スル水産稅ノ稅期ハ左ノ如シ
 第一期 三月一日ヨリ 六月十六日ヨリ
 第二期 五月三十一日ニ至ル 六月十六日限リ
 第三期 七月三十一日ニ至ル 八月十六日限リ
 第四期 九月三十日ニ至ル 十月十六日限リ
 第五期 十一月三十日ニ至ル 十二月十六日限リ
 翌年二月末日ニ至ル 翌年三月十六日限リ

第三條 收稅委員ハ稅則第十六條ニ該當スルモノ、外毎年水産物毎種類産出ノ終リタルトキ其組合ニ於テ産出ノ水産物總高並價額ヲ調査シテ取調書ヲ製シ戶長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ届出ヘシ但其産出ノ季節ヲ限ラサルモノハ毎年四月九月ノ兩度ニ其前月マテノ總高ヲ取調フルモノトス

第四條 稅則第十六條ニ該當スル水産物營業人ハ第二條期限内ニ産出シタル水産物ヲ一種類毎ニ取調毎期ノ翌月三日以内ニ其組合收稅委員ニ届出ツヘシ

第五條 收稅委員ハ第四條ノ届書ヲ調査シテ取調書ヲ製シ奥書捺印ノ上毎期ノ翌月七日以内ニ戶長ヲ經由シテ之ヲ郡區長ニ差出スヘシ

第六條 郡區長ハ第五條ノ取調書ニ據リ稅則第十六條ニ該當スル水産物營業人ノ納稅額ヲ算出スヘシ但三ヶ年平均相場分明ナラサル地ハ其近接地ノ三ヶ年平均相場ニ據ルヘシ若シ其平均相場ヲ得サルトキハ本地ト近接地ノ其年平均相場ニ據ルモノトス

第七條 水産稅ノ徵收ハ北海道廳長官ノ命令ニ據リ郡區長ヨリ各組合收稅委員ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス

第八條 各組合收稅委員ハ郡區長ヨリ徵稅令書ヲ受ケタルトキハ其組合中壹人別納額元帳ニ據リ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ稅金ヲ取纏ムヘシ

第九條 各收稅委員ニ於テ取纏メタル稅金ハ翌日マテニ之ヲ國庫金出納所ニ納付シ若クハ戶長ニ委託シテ之ヲ該所ニ納付スヘシ但相當ノ保護法ヲ設クルトキハ納期中ニ限り壹千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之ヲ其收稅事務取扱所ニ留ムルコトヲ得

第十條 郡區長ハ第七條ニ據リ各組合收稅委員ニ對シテ徵稅令書ヲ發スルトキハ總テ歳入取扱順序第二章ニ準據シ取扱フヘシ

第十一條 各組合收稅委員ハ徵稅傳令書ヲ製シ各納稅者ニ交付シ稅金取纏メノ上之ヲ納付シ又既納稅金拂戻ヲ要スルトキハ總テ歳入取扱順序第三章ニ準據シ取扱フヘシ

第十二條 各組合收稅委員ニ於テ各納稅者ヨリ取纏メタル稅金ヲ便宜ニ依リ戶長ニ委託シテ納付セントスルトキハ徵稅令書ヲ受領セシ際其旨郡區長ヘ届出ツヘシ

第十三條 郡區長ハ第十二條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ戸長ニ命令シテ其税金ヲ預
カテシノ國庫金出納所ニ納付セシムヘシ

第十四條 戸長ハ郡區長ノ命令ニ依リ各組合收稅委員ヨリ税金納付ノ委託ヲ受ケタル
トキハ歳入取扱順序第六十六條第六十七條第六十八條ニ準據シ取扱フヘシ

第十五條 水産稅徵收ニ關シ第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第
十四條ニ掲グル外ハ總テ歳入歳出納規則及歳入取扱順序ニ據ルヘシ

第十六條 第三條水産物ノ總高取調ニ關シ水産物營業人ニ於テ其產出高ヲ偽リ又ハ收
稅委員ノ調査ヲ拒ムトキハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス但其產出高ヲ偽リタル者
自首スルトキハ其罰ヲ問ハス

第十七條 水産物營業人ニ於テ第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ壹圓九拾五錢以下ノ科
料ニ處ス

第百十一章 酒造稅則 明治十三年九月二十七日
第四拾號布告

今般酒造稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候
條此旨布告候事

(別冊)

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ届出酒造場一箇所毎ニ

免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 酒酒酒其他釀造
シタルモノヲ云フ

二類 蒸餾酒 燒酎酒類再釀酒其他(十五年第十七號布告ヲ以
テ(檢附)ノ下六字ヲ加フ)

三類 再製酒 燒酎味淋白酒等釀造酒ノ酒類ヲ調和シ
又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ 十五年第六十一號布
告ヲ以テ全條改正

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付 金三拾圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付 金四圓

二類壹石ニ付 金五圓

三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セズ 十五年第六十一號布告
ヲ以テ本項以下追加

清酒 百石

濁酒 拾石

一類 清酒濁酒 二類 三類 五石

新ニ酒造營業者ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ匿キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシム
十五年第十七號布告ヲ以テ本條ヲ刪除シ同年第六十一號布告ヲ以テ更ニ追加

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルガ或ハ代替改名轉居セシ片ハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石高ハ左ノ三期ニ納ムヘシ
十五年第十七號布告ヲ以テ(第一期中ヨリ)ノ下(三月卅一日)ヲ(二月中)(第二期四月)ヲ(三月)(六月卅日)ヲ(六月)ト改正ス

第一期 四月三十日限

第二期 十月一日ヨリ二月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

七月三十一日限

第三期 三月一日ヨリ六月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

十月三十一日限

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受ケヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納税ス

十五年第六十一號布告ヲ以テ本項但書共追加ス

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙

十九年十二月九號令第七十九號ヲ以テ十月三十日ヨリ十月三十一日限ト改ム
 十六年第四十三號布告ヲ以テ租稅官吏ニ於テ犯罪ノ場所ヲ立入許所ニ爲スルヲ得ヘシム

存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上検査ヲ受ケヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税

ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒類ヲ二類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類スル時

ハ造石税ハ其變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ

納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受ケヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ

検査ヲ受ケヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ヘ申出検査ヲ受ケ

ヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製

成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ

免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハズ其仕込タル酒
及其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒造用諸器械ハ使用以前管廳ハ申出検査ヲ受ク其買取與貸借ハ其時々管
廳へ届出ツ可シ十六年第十六號布
告ヲ以テ全條改正

造酒着手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ノ酒造場外ニ移ス
コトヲ許サズ

酒造用諸器械ヲ賣買讓與貸與及所持主へ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラズ檢
査済ニ係ル造石税ヲ完納スヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒必ズト販賣スルヲ許サズ

但事故アリテ酒必ズトノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣渡スハ此限ニ非ス
十五年第十七號布
告ヲ以テ但書追加

第二十二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ
製造スル爲メ酒造場ニ貸スヲ許サズ十五年第六十一號布
告ヲ以テ全條改正

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サズ同
検査既済ノ酒類へ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サズ

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サズ

第二十五條 造酒蒸溜器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出

開緘ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受タル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造リ方法
共届出ヘシ

但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳へ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載
シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ
免許税額ニ倍ノ金額ヲ科シテ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金
額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ハタル者
ハ其鑑札取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケスノ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ
追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ上同

第十二類 租税及貨紙幣公債區町村費

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三
倍ノ金額ヲ科スヘシ十五年第十七號布告ヲ以テ但書ヲ刪除シ
同第六十一號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

第三十三條 檢査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル
金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹
圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス十五年第六十一號布告ヲ以テ全條ヲ改正シ十六年
第十六號布告ヲ以テ(第十四條)ノ下六字ヲ削除ス

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓
以下ノ罰金ニ處ス十五年第六十一號
布告ヲ以テ追加ス

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收
ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス十六年
第六號布告

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三
圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追
徴スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス十五年第六十一號布告
ヲ以テ本條以下ヲ追加

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ
用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其
營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條 自家用料ノ類酒(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ)ヲ製造スル者ハ管廳ヘ届出製造免許證
札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ十五年第六十一號布告ヲ以テ
附則ヲ改正追加ス

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石(二圓以上製造スル者
ハ其總石數ヲ合算ス)ヲ超ユルヲ
得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セ
シ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第八條 第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ
仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

第一百二十章 酒造稅則附則明治十九年七月廿八日
勅令第六十號

除酒造稅則附則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年七月二十八日

勅令第六十號

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
大臣伯爵松方正義

明治十五年^{十二}第六十一號布告酒造稅則附則左ノ如ク改正シ明治十九年十月一日ヨリ施行ス

酒造稅則附則

- 第一條 自家用料ノ酒類飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ製造セント欲スル者ハ其旨管轄ヘ届出
免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ム可シ
- 第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテテ以テ一期トス
- 第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス
- 第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス
 - 一 酒類受_御賣營業者
 - 一 飲食店又ハ旅館屋營業者
 - 一 前二項ノ營業者ト同居ノ者
- 第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算スヲ超ユルヲ得ス
- 第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及ヒ容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡讓渡タル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其未ダ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡讓渡讓渡タル者ニ同シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○ 酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類製造者ハ該稅則

ニ準據ス十六年十二月十八日
第四十二號布告

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒類稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ検査未済ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

右奉 勅旨布告候事

○酒造制限石高ヨリ減却スレハ翌期營業ヲ許サス

明治十六年十月二十三日
大藏省第六十九號府縣(根室札幌沖繩ノ三縣ヲ除ク)

酒造稅則第四條第二項ニ據リ酒類製造免許ヲ受タル後非常ノ災害ニ罹リ酒類釀造元米諸器械等ヲ減損スルノ類ニシテ實際止ヲ得サル事故アルモノヲ除クノ外徒ラニ種々ノ口實ヲ設ケ制限石高ヨリ減却セシモノハ翌期營業ノ免許ヲ與ヘサル儀モ可有之候條詳細其事由ヲ具シ見込相立稟議スヘシ此旨相達候事

○朝鮮國ニ於テ製造シテ輸入スル日本酒ニ海關稅ヲ徵收ス

朕朝鮮國ニ於テ製造シテ我國ニ輸入スル日本酒ニ海關稅ヲ徵收スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年七月二十八日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文
外務大臣伯爵井上 馨
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十一號

朝鮮國ニ於テ製造シテ日本國ニ輸入スル日本酒類ニハ當分ノ內左ノ割合ヲ以テ海關稅ヲ徵收ス

釀造酒一石ニ付

金四圓

蒸溜酒一石ニ付

金五圓

再製酒一石ニ付

金六圓

○自家用料酒類製造者心得

十九年八月二十四日
大藏省令第六十七號

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

第一項 酒造稅則附則第一條ノ屆書ニハ該期造酒ノ種目及製造見込石高ヲ記シテ差出

ヘシ

第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造向ヲ増減スルニハ其時々管轄ノ届出

ヘシ

第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管轄ニ届出再渡

又ハ書換ヲ請フヘシ

第五項 第一項免許届書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル

第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○沖繩縣酒類出港稅則

朕沖繩縣酒類出港稅則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治廿一年三月廿一日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第十二號(官報三月廿二日)

沖繩縣酒類出港稅則

- 第一條 沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類一石ニ付金三圓ヲ賦課ス
- 第二條 出港稅ヲ徵收スルタメ那覇港ニ船政所ヲ設置ス
- 第三條 荷主ハ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキ出港稅ヲ船政所ニ納メ船積免狀並領收證ヲ受ケ船積スヘシ
- 第四條 船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船政所ニ届出ヘシ
- 第五條 那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ
- 第六條 沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ檢査スルコトアルヘシ
但其官吏ハ主任官タル證票ヲ携帶スヘシ
- 第七條 出港稅ヲ納メス酒類ヲ他府縣へ輸出セントシテ船積シ又ハ輸出シタルモノハ出港稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス
- 第八條 第四條ノ届出ヲナサ、ル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第九條 主任官吏ノ檢査ヲ拒ム者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十條 此稅則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十條 前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

第十一條 此稅則ハ明治廿一年十月一日ヨリ施行ス

○沖繩縣酒類出港稅則施行細則

二十一年七月七日
大藏省令第七號

本年三月勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則施行細則左ノ通相定ム

沖繩縣酒類出港稅則施行細則

第一條 酒類ヲ他府縣へ輸出スル者ハ少ナクトモ出港廿四時以前ニ左ノ項目ヲ記載シタル書面ニ稅金相添ヘ那覇船政所へ申出其酒類ノ檢査ヲ請ヒ船積免狀及稅金領收證ヲ受クヘシ

- 一 酒類ノ種目及石數
- 一 出港稅額
- 一 容器ノ種類及箇數
- 一 荷主ノ族籍住所姓名
- 一 船名及船長姓名
- 一 出港地名

第二條 船政所ハ酒類ヲ檢査スルニ當リ前條ノ書面ニ照シ石數不相當ト認ムルトキハ每容器ヲ開キ實量スルコトアルヘシ

第三條 第一條ノ場合ニ於テ稅金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ樹量ヲ合計シ合位ニ

金員ハ厘位ニ止メ以下切捨ルモノトス
 第四條 主任官船舶ノ檢査ヲナシ犯罪ヲ發見シ若クハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコトアルヘシ
 第五條 出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○輸出酒類戻稅規則

朕輸出酒類戻稅規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽

明治二十一年七月十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
 大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第五十四號(官報七月十二日)

輸出酒類戻稅規則

第一條 內國ニ於テ造石稅ヲ賦課シタル酒類ヲ外國ニ輸出スルトキハ輸出港稅關ノ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ヲ通過シタル證憑ヲ得テ之ヲ輸出港稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請フヲ得但其證憑ヲ得タル後滿三ヶ年以内ニ差出サ、ル者ハ其効力ヲ失フ、シ

第二條 造石稅ノ下戻ヲ受タル酒類ヲ本邦ニ輸入シタルトキハ輸入港稅關ノ檢査ヲ受ケ陸揚ノ際其戻稅ハ之ヲ還納スヘシ

第三條 本則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 本則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

○輸出酒類戻稅規則施行細則

二十一年八月三日
 大藏省令第八號

本年七月勅令第五十四號輸出酒類戻稅規則施行細則左ノ通相定ム

輸出酒類戻稅規則施行細則

第一條 酒類ヲ外國へ輸出セントスルモノハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數輸入地名積入船名等ヲ記載シタル書面ヲ輸出港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査済ノ證明書ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ外國ニ輸入シタルルハ該港ノ陸揚免狀及輸出港稅關ノ證明書ニ必ス在留本邦領事ノ檢印ヲ受ケ當初輸出ノ稅關ニ申出テ造石稅金ノ下戻ヲ請フヘシ

第三條 外國ニ輸出シ造石稅下戻ヲ受ケタル酒類ヲ更ニ輸入スル時ハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數ト當初稅金ノ下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記載シタル書面ヲ輸入港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケ造石稅金ヲ還納スヘシ

第四條 造石稅金下戻及還納ノ際石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ヘシ

第百十三章 酒造稅則取扱心得書

沖繩札幌稅室
 ノ四縣ヲ除ク

十七年八月三十日大藏省
 令第六十四號逓送府縣(函館)

明治十三年(十一月)當省乙第三十九號ヲ以テ酒造稅則取扱心得書相達候處爾後該稅則

第十二類 租稅及貨紙幣公債區村町費

改正追加相成候ニ付右取扱心得書別冊之通改正候條本年十月一日ヨリ之ニ照準シ取扱
フヘシ

但別冊ハ主税局ヨリ送付スヘシ

右相違候事

(別冊)

酒造税則取扱心得書

第一項 免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ主税局へ申出之ヲ受取置クヘシ

第二項 免許鑑札記載方ハ第一號離形ノ如シ

第三項 酒造場ハ倉庫ノ棟數ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一ヶ所トシ

免許鑑札ヲ授與スヘシ

但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査済ノ酒類亦ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止ルモ

ノハ酒造場ノ附屬トスルヲ得ヘシ

第四項 免許鑑札ハ其年一期有効ノ者トス故ニ引續キ免許ヲ請フモノアルハ其初授

與シタル鑑札ヲ差出サセ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印ヲ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ

但裏面餘白盡キタルハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第五項 免許證印ハ左ノ離形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ

明治何年一期

酒造免許ノ證

細輪廓字 体裕 書印 肉朱

寸法 豎巾曲尺一寸四分 横巾曲尺四分

第六項 引續營業ヲサントスルモノハ毎年十月一日マテニ出願セシムヘシ之ヲ過ク
レハ都テ新規ト心得ヘシ

第七項 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願

出シメ會社ヲ設ケ營業ヲナスモノハ頭取ノ名ヲ以テ願シムヘシ

但免許鑑札面ニハ誰外何人ト記シ又ハ頭取ノ名ヲ記載スヘシ

第八項 十五年第六十一號公布以前ヨリ引續營業スルモノハ甲種トシ該公布以後營業

スルモノハ乙種トナシ取扱フヘシ

但乙種ニ授與スル免許鑑札ニハ人名ノ肩ニ乙種ノ二字ヲ記入シ又酢元用酒類ヲ製

造スルモノハ酢元用ノ三字ヲ冠スヘシ

第九項 税則第五條代人ハ其營業熟知ノモノヲ以テ定メ實印ヲ捺シタル委任狀ヲ附與

セシメ其人名ヲ届出シムヘシ

但幼少其他事故アリテ後見人ヲ置クハ委任狀ヲ附與スルノ限ニアラズト雖モ後

見人事故アリテ代人ヲ置クハ本項ニ據リ後見人ヨリ委任狀ヲ附與セシムヘシ

第十項 税則第六條免許鑑札賣買讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルハ雙

方連署ノ書面ニ鑑札ヲ添ヘ甲管廳 賣渡讓渡人ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳 買受讓

在ノ添翰 該期免許納済且免許ハ 管廳ヘノ取置タル旨ヲ記スヘシ 所在ノ管廳ヲ作リ之ヲ下渡シ乙管廳ニ於テ甲管廳ノ添翰ニ據リ

書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ

但酒造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管廳ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

第十一項 廢業ノ者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ
第十二項 廢業并書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ十年當省乙第七號ニ據
リ不取纏無之様消却スヘシ

第十三項 稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ハ其造石ニ制限ナシト雖モ一期製造見込
種目石數等總テ稅則第二十六條ニ依リ届出シムルハ勿論一期製造ノ分ハ其石數翌期
十月中ニ届出シムヘシ

第十四項 稅則第二十六條造酒見込ノ種目トアルハ清酒濁酒焼酎酒精再溜酒精白酒冰
淋銘酒ト其種目毎ニ掲記セシメ同條但書見込石數ノ増減ハ勿論其造方法ノ變換トモ
届出テシムヘシ
但銘酒ハ直シ酒保命酒桑酒養老酒菊酒紫蘇酒ウラレ酒南蠻酒等各其酒名ヲ分配セ
シムヘシ

第十五項 稅則第二十七條酒造ニ屬スル倉庫納屋等ノ諸建物ハ其構造詳細繪圖面ヲ製
シ且諸器械ノ員數トモ取調免許ノ節之ヲ差出サシムヘシ
但増減及變換等アルキハ其時々更ニ之ヲ差出サシムヘシ

第十六項 稅則第二十八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製セシムヘシ
但石數ハ最初届出ノ見込高ヲ掲記シ増減アルキハ其時々紙札ヲ貼付シ之ヲ更訂セ
シムヘシ

免許鑑札番號

第何號

清酒 何石造
白酒 何石造

何府縣區
何郡町村番地

何某

寸法壺巾曲尺三尺横巾製酒種類ノ

數ニ依リ適宜ニ定ムヘシ

釀元用酒類ヲ製造スルモノ釀元

用何酒何石造ト掲記スヘシ

第十七項 營業者ノ屬籍住所ト酒造場ト甲乙兩管廳ニ交渉スルモノハ都テ酒造場所在
ノ管廳ニ於テ免許鑑札ヲ授與シ酒造檢査及徵稅方等取扱フヘシ

第二款 諸器械調査

第十八項 稅則第二十條第一項酒造用諸器械中桶類ノ新製修繕ヲ届出ルキハ其時々主
任官員出張シテ左ニ掲グル所ノ丈量法及算則ニ據リ詳密ニ調査ヲ遂ケ桶ノ側面ヘ左
ノ件々ヲ掲載シ管廳ノ烙印ヲ爲スヘシ
但文字ハ磨滅消除セサルモノヲ以テ之ヲ書記スヘシ

番号

口徑 何寸
胴徑 何寸
底徑 何寸
深サ 何寸
石數 何石
調査ノ年號月日
調査人官姓名

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

酒造桶類丈量法

口徑 口頭ヨリ一寸 胴徑 口底徑 底徑 底面何レモ 内測ニテ縦横 十 圖ノ如ク度リ此縦横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前後左右中心等何レモ底面ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ
但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乗シ甲トス
胴徑ト底徑ノ和ヲ自乗シ乙トス
口徑ト底徑ノ和ハ胴徑ヲ乘シ丙トス
甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇・〇四〇三八四四 乘率ノ一位ヲ石位トシ丈位尺度ヲ乘ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス 之ヲ二ニテ除シ其容量ヲ得ル
但合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

第十九項 甕類及ヒ胴張桶其他異様ノ桶類ニシテ前項丈量法及算則ニ據リ實量ヲ得難シト認ムルモノハ便宜適當ノ方法ヲ以テ之ヲ査定スヘシ

但甕類番号石數等ハ木札ニ書載シ之ヲ正面ニ附シ置カシムヘシ

第二十項 桶甕類ノ番號ハ倉庫ノ數ト酒類ノ種別トニ拘ハラズ總テ酒造場一ヶ所毎ニ起号シ桶甕類ノ總數ニ應シテ其順次ヲ定ムヘシ
但桶甕ノ外諸器械ハ番号ヲ附スルニ及ハスト雖モ管轄ノ烙印ヲ捺シ得ルモノハ之

二十一年四月二十六日
令第六號
修正
第二十項

ニ烙印ヲ爲スヘシ

第二十一項 柏桶水桶等ノ類ニシテ全ク酒類ヲ容レサル分ハ丈量ニ及ハスト雖モ番號ヲ記載シ之レニ烙印ヲ爲スヘシ

但酒造場内ニ於テ酒類ヲ容ル、桶甕類ハ都テ丈量ノ調査ヲ受ケシムヘシ

第二十二項 調査濟ノ桶甕類買賣讓與貸借又ハ返却スルルハ其旨雙方連署ノ書面ヲ以テ届出サセ其買賣讓與スルモノハ主任官員出張ノ上其桶甕類、番號ヲ書換其貸借スルモノハ假順番號ヲ記載シ其營業者ニ非ラサルモノハ賣渡スカ又ハ破解スルモノ桶側面記載ノ件々ヲ削除スヘシ

第二十三項 稅則第二十條二項ハ事故アリテ一時酒造場外へ移スモノヲ謂フ此場合ニ於テハ其移スヘキ事故及場所トヲ調査シ不取締ナシト視認ルモノニ限リ聽許スヘシ

第三款 器械封緘

第二十四項 稅則第廿五條器械ノ封緘ハ各府縣ニ於テ豫メ一定ノ方法ヲ相立テ捺リ器械ハ酒槽ノ樋口并男柱ノ孔蒸溜器械ハ兜釜等緊要ノ箇所ハ嚴重ノ封緘ヲ爲スヘシ

第二十五項 前項封緘用紙ハ管轄ノ印章ヲ捺シタルモノヲ用ヒ且封緘ノ每次請書ヲ差出サシムヘシ

第四款 造石検査

第二十六項 造石検査ヲ爲スヘキ酒類ハ桶甕トモ口頭ヨリ一寸ヲ減シ容レ置カシメ毎桶甕トモ記載ノ石數ニ據リ査定スヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第二十七項 前項記載ノ石數ニ充タサルモノハ其現在入貨ノ石數ニ據リ左ノ算則ヲ以テ調査スヘシ(此項中入貨脚徑以上端浦石數ノ算出法)入貨脚徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス(此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ脚徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シテ乙トス)假定ノ底徑ト

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇〇四〇三八四四(乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス以下準之)乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入貨脚徑ヨリ以下ニ在ルキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス(此口徑ヲ求ムルニハ入貨脚徑口徑トシ入貨脚徑ニ滿サルモノハ脚徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シニ倍シ全深ニテ除シ之レニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス)假定ノ口徑ト

假定ノ口徑ト底徑ト和ヲ自乘シ甲トス
假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シテ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及〇〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第二十八項 稅則第十九條ニ據リ酒造中ハ何酒類ヲ問ハス調査スルキニ付酒もど及ヒ膠トモ前以テ申出サシメ必ス之レカ検査ヲ爲スヘシ
但造石検査ノ際参照ノ爲メ左ニ掲グル所ノ諸帳簿ハ公業者ヲシテ必ス開製シ詳密記載セシムヘシ

酒造米元帳 仕込帳 酒粕目方帳 蒸溜帳 酒藏出帳 酒賣上帳

第二十九項 酒類ノ火入洋引ハ造石検査ノ後之ヲ爲サシムヘシ

第三十項 造酒中他家ノ酒類ヲ買入ル、モノハ時々其石數ヲ届出サシ時宜ニヨリ之ヲ

検査スヘシ

第三十一項 稅則第十五條検査濟ノ酒類ヲ變製(稅則第二條一類ノ酒ヲ二類ニスルルハ該條ニ據ルヘシト雖モ一酒類中ノ製變ニ類ニスルノ類ニ係ルルハ單ニ其變製シタルモノニ就テ課稅ノ石數ヲ査定スヘシ)

第三十二項 稅則第十六條非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ水火震災並腐敗等人爲ヲ以テ防禦スヘカヲサルモノニ限ルモノトス此場合ニ於テハ其實況ヲ詳明シタル書面ヲ以テ届出シメ時日ヲ遷サス主任官員出張シ實際詳密ニ検査ヲ遂ケ事實相違ナシト認認ルルハ造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十三項 前項検査セシ酒類ヲ變製セント欲スルモノハ更ニ變製酒ノ種目并石數ヲ届出サセ製成ノ上尙之ヲ検査スヘシ

第三十四項 検査濟ノ酒類並古酒買入酒等ヲ約漉ニスルルハ其時々届出サセ検査ヲ爲シ尙製成ノ上之ヲ検査スヘシ

但製成上増石スルモノハ其石數ニ課稅スヘシ

第三十五項 濁酒白酒ハ都テ膠ノ儘ニテ検査シ造石稅ヲ査定スヘシ

第三十六項 稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ハ造石検査ニ及ハスト雖モ取繕ノ爲メ主任官員出張便宜之ヲ點檢スヘシ

第三十七項 十六年第四十二號公布第三項ニ據リ管庫へ届出ヘキ製酢ハ取締ノ爲メ主任官員出張便宜之ヲ點檢スヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第五款 課税區別

第三十八項 造石税納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スルモノハ檢査酒類ニ係ル造石税ハ其前之ヲ完納セシムヘシ

第三十九項 營業中都合ニ依リ未製成ノ酒類ヲ販賣スルモノハ其旨届出サセ檢査ノ上其石數ニ應シ税則第二條ノ類別ニ據リ課税スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ同業者ニ賣渡スルハ雙方連署ノ書面ヲ以テ届出シムヘシ尤モ甲乙兩管廳ニ交渉スルモノハ製成ノ酒類ヲ檢査シ及其石數ニ係ル造石税徵收方等ハ買受人所在ノ管廳ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第四十項 税則第十八條造石税免除ノ酒類ハ西洋模製ニ係ル葡萄酒ノ類麥酒ノ類トス其疑似ニ涉ルモノハ製造方法ヲ詳記シ當省ヘ稟議スヘシ

第四十一項 造酒見込石高及酒造場員數并檢査濟石高犯則人員等ハ第二號第三號第四號離形ニ倣ヒ一ヶ月毎ニ報告表ヲ調製シ翌月十五日限り差立主税局ヘ送付スヘシ

第四十二項 造石見込高並ニ其原貨品目ハ第五號離形ニ倣ヒ報告表ヲ調製シ左ノ期限ノ通差立主税局ヘ送付スヘシ
(全上達ニ據リ第五號離形ハ)
報告表第八號ニ改定ス)

- 第一回 十月ヨリ十二月マテノ分 一月十五日限り
- 第二回 十月ヨリ四月マテノ分 五月十五日限り
- 第三回 十月ヨリ八月マテノ分 九月十五日限り

第四十三項 免許鑑札受拂ハ每一期第六號離形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌期十一月十五日限り差立主税局ヘ送付スヘシ
(全上達ニ據リ第六號離形ハ)
報告表第九號ニ改定)

第四十四項 免許造石税ハ每一期第七號第八號離形ニ倣ヒ税表ヲ調製シ翌期十一月十五日限り差立主税局ヘ送付スヘシ
(全上達ニ據リ第七號離形ハ税表第
六號ニ第八號ハ全第七號ニ改定)

第四十五項 税則第十八條造石税免除ノ酒類種目石數ハ每一期第九號離形ニ倣ヒ報告表ヲ調製シ翌期十一月十五日限り差立主税局ヘ送付スヘシ
(全上達ニ據リ第九號離形ハ)
報告表第十號ニ改定)

第七款 自家用料酒類

第四十七項 自家用料酒類免許鑑札ハ酒類製造營業免許鑑札ノ離形ニ依リ府縣廳ニ於テ調製ノ上酒造營業者ニ準シ之ヲ下渡スヘシ

但鑑札面酒類製造免許鑑札トアルヲ自家用料酒類製造免許鑑札ト記載スヘシ
第四十八項 自家用料酒造製造ノモノハ其種目及造石高ヲ管廳ヘ届出サシムヘシ
但造り高ノ増減及其種目ノ變換等ハ其都度届出サシムヘシ

第四十九項 自家用料酒類ハ時宜ニヨリ實地檢査ヲ爲シ其不取締之レナキ様取計フヘシ
第五十項 自家用料酒類製造免許鑑札料ノ徵收及造石檢査ノ場合ニ於テハ酒造營業者ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

第五十一項 自家用料酒類製造免許人員ハ第十三號離形ニ倣ヒ一ヶ月毎ニ報告表ヲ調製シ翌月十五日限り差立主税局ヘ送付スヘシ(十八年大藏省第七十四號達ニ倣ヒ)
 第五十二項 自家用料酒類製造免許鑑札料及造石高ハ第十四號離形ニ倣ヒ每一期分ヲ調製シ翌期十一月十五日限り差立主税局ヘ送付スヘシ(全上達ニ倣ヒ第十四號離形ハ報告表第十三號ニ改定)

第一號離形

地方管廳ノ押切印

主税官長割印

第何號

酒造場

國郡區町村番地

酒類製造營業免許鑑札

何府國郡區町村番地

年月日

何之誰

免許ノ年月日

十四年大藏省乙第十一號達ヲ以テ右鑑札見本頒布アリ鑑札表面輪廓楕圓色細紋中櫻花ノ摸樣中央酒類云々ノ上菊桐摸樣及ヒ大日本帝國政府ノ文字横書シアリ裏面輪廓細紋四隅ニ桐ノ摸樣中央野齒共ニ色表面ニ同シ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

○北海道酒造稅則

朕北海道ノ内從來酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ之ヲ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年九月二十八日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

法律第二十四號 (官報九月三十日)

北海道ノ内明治十三年九月第四十號布告酒造稅則ヲ施行セサル地方ニ本年十月一日ヨリ本則ヲ施行ス但其稅率ハ當分左ノ通定ム

酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付

金貳拾圓

酒類造石稅

一類一石ニ付

金貳圓

二類一石ニ付

金三圓

三類一石ニ付

金四圓

稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

●北海道酒造稅則施行細則

二十二年十月二十五日
大藏省令第十四號

本年九月法律第二十四號稅則施行細則左ノ通定ム

酒造稅則施行細則

第一條 酒造營業ノ免許ヲ得ントスル者ハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟敷ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ願出ヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢

査濟ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏スルニ止マルモノハ酒造場ノ附屬トスルコトヲ得ヘシ

第二類 引續酒造營業ヲ爲サントスル者ハ毎年十月一日マデニ願出ヘシ

第三條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスル者ハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出

會社ヲ設ケ營業ヲ爲サントスル者ハ頭取ノ名ヲ以テ願出ツヘシ

第四條 酒類ノ火入滓引ハ造石檢査ノ後之ヲ爲スヘシ

第五條 檢査酒ノ酒類並古酒買入酒等ヲ粕澁セントスルトキハ其時々届出檢査ヲ受ク

ヘシ但製成ノ上増石スルモノハ其石數ニ課稅スルモノトス

第六條 營業中都立ニ依リ未製成ノ酒ヲ販賣スルモノハ其届出檢査ヲ受クヘシ

第七條 稅則第十六條非常ノ損害ニ罹リタル酒類アル場合ハ其實況ヲ證明シ直ニ管廳ニ届出ツヘシ

第八條 造石稅納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スル者ハ檢査濟酒類ニ係ル造石稅ハ其節之ヲ完納スヘシ

附 則

第九條 第二條願出ノ期限ハ本年ニ限り來ル十一月三十日迄トス

● 伺指令

● 酒造免許鑑札記載方ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年六月廿七日

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

客第六十一號公布以前免許ヲ受ケタル酒造營業人ニ限リ規則第四條二項三項適用ニ及ハサルニ付テハ其區分分明ナラシメン爲メ同第六條第七條ニ仍リ鑑札發換又ハ再渡ヲ要スルトキハ其鑑札面ニ何年何月日免許何年何月日發換又ハ再渡ト記入シ可然ヤ

但第六十一號公布以後免許ノ者ト雖モ本文同様記入スヘキヤ
右相伺候也

指令 十六年八月十四日

同之趣六拾一號公布以前免許ノ者ト新規營業者トノ區別ハ鑑札面記入ニ及ハス帳簿上ニ於テ分明ナラシムル限
ト可相心得事

但新規營業者ト雖モ翌期引續ノ者ハ規則第四條三項ノ制限ニ攝ラシムルニ及ハス

●酒造營業引續ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ同十六年九月五日

酒造營業鑑札ヲ返納セスシテ居タルモノ翌期中ニ引續キ營業出願スルトキハ新規ト見做スノ限ニ非スヤ右相伺候也

指令 十六年九月七日

十月一日迄ニ出願スルモノニ非サレハ引續キ營業ト爲スノ限ニ非スニ日以後ニ出願スルモノハ新規營業ト心得
ヘシ

●水戸始審裁判所檢事ヨリ酒造規則其他ノ儀ニ付司法省ヘ請訓十六年八月廿日

第一條 酒造規則第三十一條及第三十六條中賣捌代金追徴ノ明文有之右追徴金ハ本犯已ニ之ヲ發償シ完納スル能ハ
サルモハ其資力取調ノ上身代限ノ處分ニ及フヘキ哉

第二條 檢察官ノ上告ニ係リ保釋ヲ得タル犯人又罪ヲ犯シ審問ノ爲メ拘留セラレ尋テ刑ノ旨據テ受テ其執行ヲ終リ
タル後上告ニ係ル事件判決トナリ其刑重キヲ以テ已ニ役過スル日數ヲ控除スル時右審問ノ爲メ拘留セラレタル日
數モ亦刑期ニ通算スヘキ哉刑罰法第五十一條第二項上告中拘禁ヲ受ケタル日數ヲ刑期ニ通算スルハ畢竟犯人原裁判
ニ服從シ上告中原裁判言渡ノ爲メ拘留セラレタル犯人ノ自ラ求ムル所ニアラサルヲ以テテ故ナラン然ラハ則上告

中他ノ犯罪ノ爲メニ拘留セラレタルハ其原裁判言渡ニ因ルニアラスモ上告ノ事件ニ關セサルモノニシテ犯人自ラ
求ムル所ナリ尋常上告中拘留セラレタルモノトハ大ニ性質ヲ異ニシ其日數ハ刑期ニ通算スヘキモノニアラザル
思考致候得共疑義ニ涉リ候條此段仰内訓候也

右内訓 十六年九月十八日

第一條 本犯既ニ追徴スヘキ金額ヲ發償シ完納スル能ハサルモハ檢事ヨリ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求ス
ヘシ

第二條 前段見解ノ通

●福島始審裁判所平支應檢事ヨリ酒造規則ノ儀ニ付司法省ヘ請訓十六年九月十日

第一條 酒造規則附則第三條ニ自家用料酒ハ一期製清高壹石ヲ超過スルヲ得ス若シ之ヲ超スルモハ總シ本則ニ從
ヘシトアレハ壹石以上ノ釀造免許稅造石稅其他稅本則營業者同様ノ規則ニ依ルヘキ者ニ御座候哉

第二條 自飲酒壹石以上釀造免許ヲ得本則ノ規則ニ依ルト雖モ名義ハ自飲酒ナレハ賣ルヲ得サル者ニ御座候哉

第三條 自飲酒壹石以下釀造免許ヲ得タル者切カニ壹石以上釀造シタル者ヲ發見シタルモハ已ニ免許ヲ得タル壹石
以下ヲ引去リ假令其密造シタル石高壹石以上ニ及フモ附則第八條ニ照シ罰料沒收等 所分ヲ爲メヘキ者ニ御座
候哉

第四條 或ハ前第三條ノ如キ犯罪者ハ其超過スル石高壹石以上ハ本則ニ依リ壹石以下ハ附則ニ照シ罰スヘキ者ニ御
候哉

第五條 或ハ自家用料酒壹石以上釀造ノ免許ヲ得タル者ハ本則ノ規則ニ依ルト雖モ素日ヨリ營業者ニアラサレハ其罰
則ハ總テ附則第八條ニ照シ罰スヘキ儀ニ御座候哉

右ハ先般ヨリ釀度相伺候得共何分不了解ノ原有之由テ奉仰内訓候也

内訓十六年十月六日

第一條見込ノ通

第二條 營業者ト同一ノ免許ヲ得本則ニ從ヒタ上ル以ハヨリ開闢ヲ得ヘキ者トス
 第三條 初ヨリ開闢クノ目的ニ出テタル者ハ見込ノ通
 第四條 前條指令ニ因リ了解ス可シ
 第五條 自家用料ノ目的ニ出ルト雖モ釐石以上ヲ製造セントスル者ハ免許ヲ得且故查テ受ケル等總テ本則ニ從ハサルヲ得ケル者ニ付既ニ免許ヲ得タル以上ハ其犯則ニ付テモ亦本則ニ依ラサルヘカラス
 右及内訓候也

●滋賀縣ヨリ司法省へ酒造器械ノ封緘ヲ破棄シタルモノ法律適用ノ儀司法省へ請訓 十六年十月廿五日

酒造營業者ニシテ同稅則第二十五條ニ據リ酒造器械へ主任官吏施シタル封緘ヲ私ニ破棄シタルモノハ刑法第百七十四條ヲ適用シ過誤等ニテ封緘ヲ毀損シ夫レカ届出ヲ怠リ再封ヲ請ハサルモノハ酒造稅則附則第三十五條ヲ適用スヘクヤ或ハ酒造器械ノ破棄ハ總テ同稅則ヲ以テ論スヘキモノナルヲ疑國ヲ生シ候間仰御明示候也
 内訓 十六年十一月七日
 請訓ノ趣後段見解ノ通

●酒造稅則附則違犯者處分方之儀ニ付愛媛縣ヨリ司法省へ伺 十六年十月十二日
 第一條 甲者自家用料酒製造免許ヲ受ケ自分割限以内ヲ製造シ尙若干之餘石アルヲ以テ乙丙ノ七フニ任セ自家ニ於テ製造爲致タルモノアリ甲乙丙之製造石高ヲ合算乙丙ハ免許ヲ受ケメシテ製造シタルモノニ付酒造稅則附則第一條違犯者トシ同則第八條ニ照シ處分スヘキハ勿論ニ候得共甲ハ免許札ヲ得自家ニ於テ製造シタルモノナルヲ以テ同則中之ヲ處罰スヘキ正條ナシ刑法第百九條ニ據ントスルモ甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又誘導指示シタルモノニアラズ右處分方如何相心得可然哉
 但甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シタルモノハ下條ニ依リ處分スヘキ哉
 第二條 甲乙丙竊ニ組合テ爲シ甲ノ名面ヲ以テ自家用料酒製造ノ免許ヲ受ケ甲家ニ於テ分割限以内ノ種類ヲ製造シタルモノハ甲ヨリ器具ヲ給與又ハ誘導指示シタルト否チ不問甲ハ刑法第百九條ニ乙丙ハ附則第一條ニ照シ處分スヘキモノト相心得可然哉

右至急御指押ヲ仰キ候也
 指令 十六年十一月十三日
 伺ノ趣第一條第二條共甲ハ乙丙ト共ニ酒造稅則附則第八條ニ依リ處分セサルヘカラス但第一條ハ甲ニ於テ製造ニ關係セス單ニ自家ニテ製造セシメシノヨニ止マンハ刑法第百九條ニ依リ乙丙ノ從犯トシテ處分ス可キ者トス
 ●滋賀縣ヨリ自家用料酒ノ儀ニ付司法省へ請訓 十六年十一月十九日
 本月十五日第百十六號官報中愛媛縣ヨリ貴省へノ伺仍チ別紙寫之通稱ケ有之右御指令ニ甲ハ乙丙ト共ニ酒造稅則附則第八條ニ據リ處分セサルヘカラスト有之其甲者ハ該附則第何條ノ違犯者ニシテ第八條ノ罰令ニ該ルモノナルヲ疑國ヲ生シ候間御指令ノ御旨趣請訓候條御明示被下度候也
 内訓 十六年十二月十二日

愛媛縣ヨリ酒造稅則附則違犯者處分方ノ儀ニ付伺
 第一條 甲者自家用料酒製造免許ヲ受ケ自分割限以内ヲ製造シ尙若干之餘石アルヲ以テ乙丙ノ七フニ任セ自家ニ於テ製造爲致タルモノアリ甲乙丙ノ製造石高ヲ合算乙丙ハ免許ヲ受ケメシテ製造シタルモノニ付酒造稅則附則第一條違犯者トシ同則第八條ニ照シ處分スヘキハ勿論ニ候得共甲ハ免許札ヲ得自家ニ於テ製造シタルモノナルヲ以テ同則中之ヲ處罰スヘキ正條ナシ刑法第百九條ニ據ントスルモ甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又誘導指示シタルモノニアラス右處分方如何相心得可然哉
 但甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シタルモノハ下條ニ依リ處分スヘキヤ

別紙
 請訓ノ趣甲ハ乙丙カ無懸札ニテ製酒スルニ加功セシ者ナルニ因リ乙丙ト共ニ同稅則附則第一條ニ違背セシ者ニシテ第八條ニ依リ處分ス可キ者ト心得ヘシ此旨及内訓候也

●滋賀縣ヨリ司法省へ酒造器械ノ封緘ヲ破棄シタルモノ法律適用ノ儀司法省へ請訓 十六年十月廿五日
 酒造營業者ニシテ同稅則第二十五條ニ據リ酒造器械へ主任官吏施シタル封緘ヲ私ニ破棄シタルモノハ刑法第百七十四條ヲ適用シ過誤等ニテ封緘ヲ毀損シ夫レカ届出ヲ怠リ再封ヲ請ハサルモノハ酒造稅則附則第三十五條ヲ適用スヘクヤ或ハ酒造器械ノ破棄ハ總テ同稅則ヲ以テ論スヘキモノナルヲ疑國ヲ生シ候間仰御明示候也
 内訓 十六年十一月七日
 請訓ノ趣後段見解ノ通
 ●酒造稅則附則違犯者處分方之儀ニ付愛媛縣ヨリ司法省へ伺 十六年十月十二日
 第一條 甲者自家用料酒製造免許ヲ受ケ自分割限以内ヲ製造シ尙若干之餘石アルヲ以テ乙丙ノ七フニ任セ自家ニ於テ製造爲致タルモノアリ甲乙丙之製造石高ヲ合算乙丙ハ免許ヲ受ケメシテ製造シタルモノニ付酒造稅則附則第一條違犯者トシ同則第八條ニ照シ處分スヘキハ勿論ニ候得共甲ハ免許札ヲ得自家ニ於テ製造シタルモノナルヲ以テ同則中之ヲ處罰スヘキ正條ナシ刑法第百九條ニ據ントスルモ甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又誘導指示シタルモノニアラス右處分方如何相心得可然哉
 但甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シタルモノハ下條ニ依リ處分スヘキヤ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第二條 甲乙丙類ニ組合テ爲シ甲ノ名面ヲ以自家用料酒製造ノ免許ヲ受ケ甲家ニ於テ制限以内ノ酒類ヲ製造シタルハ甲ヨリ器具ヲ給與又ハ誘導指示シタルト否チ不問甲ハ刑法第百九條ニ乙丙ハ附則第一條ニ照シ處分スヘキモノト相心得可然哉
右御指揮ヲ仰候也

指令 十六年十一月十三日

何之類第一條第二條共甲ハ乙丙ト共ニ酒造規則附則第八條ニ依リ處分セサルヘカラス但第一條ハ甲ニ於テ製造ニ關係セズ單ニ自家ニテ製造セシメシノミニ止マンハ刑法第百九條ニ依リ乙丙ノ從犯トシテ處分スヘキ者トス

●自家用料酒廢棄ノ儀ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺 十六年十二月十八日

自家用料酒非常(風水火災)ノ災害或ハ廢敗ニ罹リタル石數其期中代料トシテ再ヒ製造スルヲ得ヘキヲ廢棄以テ出ル損失賠償ニ屬スル分ハ前次ニ據ラサルヲ右日下調査上呈報ニ依リ候節至急御指揮相成度也

指令 十七年一月九日

申出ノ通

但非常災害ノ實況及ヒ廢敗酒トモ検査ヲ受ケシムヘシ

●醸造營業者ノ儀ニ付京都府ヨリ大藏省ヘ伺 十七年一月廿九日

第一條 醸造營業者醉元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造規則一ケ所毎ニ免許證札ヲ下付スヘキ儀ニ有之哉果シテ然ラハ該證札ハ府廳ニ於テ國稅徵收課ノ内ヲ以テ調製シ下付シ可然哉

第二條 前條酒類造石稅ノ第一類相當課稅シ可然哉

第三條 醉元ニ供スル酒類製造スル者醉製成ノ上届出シハ開置候迄ニシテ其石數ノ検査ヲ要スルニ不及儀ト相心得可然哉

第四條 酒造營業人ヨリ検査済廢酒免除 造石稅 買入醉元酒類ニ活用スル場合ニ於テハ其石數ヲ査定シ課稅致シ可然哉

指令 十七年二月十三日

第一條 前段申出ノ通後廢證札ノ儀ハ酒造免許證札ニ醉元用ノ二字ヲ冠ラセ下付スヘシ

第二條 酒造規則第二條中ノ各類別ニ據リ課稅スヘシ

第三條 申出ノ通

第四條 課稅ノ限ニアラス

但其廢敗酒ヲ燒酎等ニ變製シテ醉元ニ供スルモノハ此限ニアラス

●兵庫縣ヨリ大藏省ヘ酒造規則第十三條及第二十三條第二項ノ儀ニ付十六年一月十三日付何第五條但書ニ對シ同年四月一日付ヲ以テ指令及ヒ置キ申出右ノ混和ノ所爲過誤ト故造トナ同ハ各本條ニ據リ處分スト更正スル旨ヲ本月五日十七年六月同省ヨリ正ニ該縣ヘ達シタリ

右参照

兵庫縣ヨリ大藏省ヘ酒造規則第十三條第二十三條第二項ノ所爲處分力ノ儀ニ付伺(簡鏡)

第五條 稅則第十三條(検査未済ノ酒類)検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ(第二十三條第二項)検査済ノ酒類(検査未済ノ酒類)検査未済ノ酒類ヲ混和スル者ハ事實相似タル所爲ニシテ甲ハ總石數ノ納稅ニ止リ乙ハ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收セラルトナテ假令第二十三條ノ所爲アルモ第十三條ノ所爲ニ由供スルハ必然ナリ且検査酒類ノ桶瓶等既ニ入替變換セシ上ハ検査上他ニ證左ノ證明スヘキモノナシ此場合ニ於テハ一ニ酒造人ノ申立ニ任セ處分スヘキナ

但本分甲乙其犯情故意ト過誤トノ別ナク各本條ニ據リ處分スヘキナ

明治十六年一月十三日

指令

検査ノ上其實況ナキモノハ申出ノ通

但特種販賣ヲ謀ルノ故意ヲ以テ検査済未済ノ酒類ヲ混和シタル者ハ稅則第三十二條(酒類)隠蔽シタルモノハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル稅石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ(ニ據リ其他ハ申出ノ通)

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

明治十六年四月十一日

●酒類造石稅前納ノ儀ニ付新潟縣ヨリ大藏省ヘ伺 十八年三月四日

爰ニ酒造營業人アリ稅金納期日前酒類造石稅一時即納(例ヘハ一期中二三期ヲ合併セテ納ムルノ類)致度旨付スル
并ハ開屆總テ一期ヘ領收シ不苦哉

指令 十八年三月十三日

伺之趣申出ノ通取計不苦候事

但收稅ニ係ル諸證書切符等ニハ都テ第何期ヘ一時上納ト加付スヘシ

●酒稅稅則附則中疑義ノ件ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年八月十三日

勅令第十六號改正酒造稅則附則中疑義ノ條左ニ相伺フ (十九年八月廿七日官報)

十九年八月廿七日官報

一規則第四條ニ飲食店トアルハ料理屋鮮魚醬菜屋肉肉魚介割烹屋天蘇雜屋其他水茶屋等ノ如キ來客ノ需メニ應

シ酒肴ヲ出スモノハ名稱ノ如何ニ拘ハラズ酒テ合著シタル儀ナルヤ

一同條旅館屋トアルハ下宿屋船宿等モ合著シタル儀ナルヤ

指令 十九年八月廿四日

兩條共伺ノ通

但第ニ條下宿屋船宿等ニシテ單ニ其客室ヲ貸シ又ハ乘船ノ取扱ノミヲ業トスルモノハ此條ニテラス

●酒保販賣ノ物品課稅ノ件千葉縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年七月六日

東京警察佐倉管所及ヒ國府警務團等ニ於テ酒保賣人ヲ選定シ酒類其他雜草菓子小間物等ニ至ル迄管内ニ於テ
販賣セシメ且行軍ノ節ハ之レヲ隨ヘ兵士ノ需用ニ應ジシムルノ命令ヲ爲シタル趣然ルニ其請賣人ニ於テハ陸軍ノ命

令ナルヲ以テ各種稅則ノ範圍外ト心得營業免許ヲ得サルモノ之アルヤノ由ニ付收稅吏ヲシテ管所及警務團ヘ同合セ

シニ右ハ陸軍歩兵內務省中酒保ヲ置クノ條項ニ基キ適宜人選ニテ販賣ヲ命シ尤モ日當ヲ給スルニ非ラズ其仕入代價

ヨリ幾分ノ利潤ヲ得セシムル方法ナル趣就テハ該用連即チ請賣人ノ如キハ一已ニ營業ヲナスモノニ付附稅アルモノ

指令 十九年七月十四日

但當内ニ立入り檢査ヲ爲スヲ要セス

地方稅アルモノハ之ヲ賦課スヘキハ勿論ニ之レアルヘク果シテ然ラハ該管所及警務團ヘ照會ノ上隨時檢査員ヲ派遣

シ管内ノ販賣場ニ就キ物品ヲ檢査セシメ差支ナキヤ右ハ爾リ本縣下ノミナラス各縣及兵營ニ於テモ同條ノ設ケア

ルモノト想像致ス依テ取扱方一即相伺フ

指令 十九年七月十四日

但當内ニ立入り檢査ヲ爲スヲ要セス

同ノ趣酒保ニ於テ販賣スル物品ノ請賣ヒナ爲ス者ハ其居宅ニ就キ差支相當ノ證札下附スヘキ旨ト心得ヘシ

第百十四章 醫藥營業稅則 明治十三年九月二十七日

醫藥營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別冊)

醫藥營業稅則

第一章 免許證札 營業稅

第一條 凡ソ醫藥ノ製造酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇

所毎ニ免許證札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醫藥營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置

キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債町村費 二百一

十六年第四
十三號布告
第百
廿三號

第十二類 租稅及貨紙幣公債町村費

二百一

醫麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ十五年第六十二號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醫麴賣捌所ト書シタル標札ハ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戸外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケス醫麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ忘ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 醫麴營業場ノ中ニ於テハ製造受賣醫麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類酒類ヲ製造スルヲ許サス同上本條以下四條ヲ追加ス

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不倫罪及ヒ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用

ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條 醫麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

○醫麴營業稅則取扱心得十三年十一月二十四日 大藏省乙第四十號達

本年九月第四十一號ヲ以テ醫麴營業稅則御布告相成候ニ付右取扱心得書別紙ノ通知定候條此旨相達候事

(別紙)

醫麴營業稅則取扱心得書

第一款 營業免許

第一項

免許鑑札ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ主稅局ヘ申出之ヲ受取置クヘシ(本條中主稅局主八年大藏省第七號達ニ依リ改正以下皆同)

第二項

免許鑑札雛形及ヒ其記載方ハ第一號圖式ノ如シ

第三項

製造場ハ倉庫ノ棟數ニ拘ラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ免許鑑札ヲ授與スヘシ

第四項

免許鑑札ハ其年一期有効ノモノトス故ニ引續キ免許ヲ請フモノアルキハ最初授與シタ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

ル鑑札差出サセ其鑑札ノ裏面ヘ該期ノ免許證印第五項鑑札ノ如シ捺シ再ヒ之ヲ授與スヘシ
但鑑札裏面餘白尽キタルトハ更ニ新鑑札ヲ授與スヘシ

第五項

免許證印ハ左ノ離形ノ如ク各府縣廳ニ於テ調製スヘシ

但其證印方郡區長ヘ委任ノ向ト雖モ各府縣廳ニ於テ之レヲ調製シ相渡スヘシ

明治何年一第
醫麴營業免許之證

細輪廓 角切 字体楷書
印肉朱 寸法豎巾曲尺壹寸四分
横巾曲尺四分

第六項

稅則第六條免許鑑札買賣讓與ノ節其書換方若シ甲乙兩管廳ニ交渉スルハ雙方連署ノ書面ニ免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳買渡讓與人ニ出願セシメ甲管廳ニ於テハ乙管廳買渡讓入所ノ添翰該期免許稅納濟且免許鑑札ノ添翰ハ取置キタル官明記スヘシヲ作り之ヲ下渡シ乙管廳ニ於テハ甲管廳ノ添翰ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ

第七項

但製造場轉換ノ爲メ鑑札書換方兩管ニ交渉スルモノモ本項ノ手續ニ據ルヘシ

廢業ノ者ハ其届出ノ節免許鑑札ヲ返納セシムヘシ

第八項

廢業並ニ書換等ノ返納鑑札ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ十年當省乙第七號達ニ據リ不取細無之様消却スヘシ(十年大藏省乙第七號ヲ以テ諸鑑札類廢業代換等ニテ營業人ヨリ返戻ノ分其外モ後來使)

第九項

稅則第八條戶外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ離形ニ倣ヒ調製セシムヘシ

寸法豎巾曲尺三尺

横巾曲尺八寸

免許鑑札ノ番號

第何號
醫 麴 賣 捌 所
何府郡區
何町村
何 某

第十項

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

稅則第五條賣上帳簿差出シタル片ハ其記載ノ石數及ヒ購求者居所姓名等精取ニ檢査ヲ遂ケ檢印ノ上下渡スヘシ面シテ該帳簿ハ營業中之ヲ保存セシムヘシ

第十一項

營業取締ノ爲メ便宜ニ主任官出張シ之ヲ點檢スヘシ

第二款 申服期限

第十二項

稅則第四條販賣見込ノ石數ハ每一期分第二號離形ニ倣ヒ右數表ヲ調製シ其期十一月十五日限り差立テ主稅局ヘ送付スヘシ(十八年大藏省第七十四號通ニ據リ傳)

但本文届出ノ後其増減ハ三ヶ月毎ニ取纏メ製表ノ上翌月十五日限り差立主稅局ヘ送付スヘシ

第十三項 (此項十八年大藏省第六十五號通ノ旨趣ニ據リ消滅)

第十四項

免許鑑札受拂ハ每一期分第四號離形ニ倣ヒ計算表ヲ調製シ翌期十月十五日限り差立テ主稅局ヘ送付スヘシ(全上通ニ據リ第四號離形ハ報告表第十五號ニ改定)

第十五項 (此項十五年大藏省第三十七號通ヲ以テ削除)

第十六項

營業稅ハ每一期分第六號離形ニ倣ヒ稅表ヲ調製シ翌期十月三十日限り差立テ主稅局ヘ

送付スヘシ(全上通ニ據リ第六號離形ハ稅表第八號ニ改正)

第十七項

販賣シタル石數ハ每一期分第七號離形ニ倣ヒ石數表ヲ調製シ翌期十一月十五日限り差立テ主稅局ヘ送付スヘシ(全上通ニ據リ第七號離形ハ其様式ヲ示ササ)

第一號離形

主稅官ノ割印	
第何號	製造場
國郡區町村番地	何府郡區番地
何縣國町村番地	何之能
年月日	免許ノ年月日
地方管廳ノ押切印	
鹽麴製造營業免許鑑札	

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

(十四年大藏省乙第十一號達ヲ以テ右鑑札見本頒布アリ鑑札表面輪廓綠色細紋四隅ニ菊花ノ模様中央醬題云々ノ上黒色菊桐ノ模様及ヒ大日本帝國政府ノ文字横書シタリ裏面輪廓細紋四隅ニ櫻花ノ模様中央野書トモニ色表面ニ全シ)

第一百十五章 煙草稅則 明治二十一年四月六日 勅令第二十號

朕煙草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治廿一年四月六日

内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
大藏大臣 伯爵 松方正義

勅令第二十號(宣稱四月七日)

煙草稅則

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス
煙草製造人

葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者
煙草仲買人

葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者
製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者
煙草小賣人

第二條 製造煙草ヲ煙草製造又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者
煙草營業者ヲナサントスル者ハ管應ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケハ

シ但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡癩ナルルハ後見人ヲ立ツヘシ
第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲナシ此稅則ヲ遵守スヘキヲ

證約スル爲メ證約狀ヲ管應ニ差出スヘシ
證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

證約金 營業場一箇所毎ニ 五十圓以上
煙草製造人此規則ヲ犯シ證約ニ背キタル片ハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金
ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲナシ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲナサシムル片ハ管
廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受クル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢

煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一ヶ年金拾五圓

煙草仲買營業稅 營業場一ヶ所ニ付一ヶ年金拾五圓

煙草小賣營業稅 營業場一ヶ所ニ付一ヶ年金五圓

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半分ハ一月三十一日限後半分ハ七月三
十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クル片ハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘ
シ

第八條 煙草製造人煙草ヲ製造シタル片ハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼
用スヘシ

第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消
印スヘシ

第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚
免狀若クハ其他證憑トナルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港
ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ
受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スル片ハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニ
アラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙
草ヲ買受借受讓受クルヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受クルハ此限ニ非ス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルヲ
得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルヲ
得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノタメナリトモ煙草ヲ製造スルヲ得ス
煙草耕作人ニ限リ自用ノタメニ煙草ヲ製造スルヲ得ト雖片之ヲ賣渡貸渡讓渡ス
ヲ得ス

第十七條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受
 ◎借受讓受クルヲ得ス
 第十八條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解錠毀損シタル製造
 煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲナスコトヲ得ス
 第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解錠毀損シタル製造煙草ヲ煙草營
 業者ヨリ買受クルヲ得ス
 第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲナスコトヲ得ス
 第二十一條 煙草印紙ハ管轄ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルヲ得ス
 第二十二條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之
 ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ
 第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲシタル者ハ通脫ニ係ル營業稅三倍ノ罰
 金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製
 造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及ヒ器械ヲ沒收ス
 第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯
 罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス
 第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ヲニ記載ヲナスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタ
 ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス
 第二十六條 第四條第廿一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ忘リタル者ハ二圓以上

二十圓以下ノ罰金ニ處シ第廿一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス
 第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草
 ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲
 買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ
 係ル煙草ヲ沒收ス
 第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ
 仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及ヒ物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械
 ヲ沒收ス
 第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解錠毀損シタ
 ル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消費シタルトキハ其
 代金ヲ追徵ス
 第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
 第三十二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタル者ハ其營業者ヲ處罰ス
 煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘡啞ニシテ此稅則ヲ犯シタル者ハ其後見人ヲ處罰ス
 第三十三條 煙草印紙ノ種類及ヒ此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
 第三十四條 此稅則ハ明治廿一年七月一日ヨリ施行ス

附則

第卅五條 沖繩縣及ヒ東京府管下小笠原伊豆七嶋ニハ當分此稅則ヲ施行セス
但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルルハ此稅則ニ從フヘシ

第卅六條 此稅則布達以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル
者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ツ可シ

第卅七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ
證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第卅八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人
ニ委託シ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第卅九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ
賣捌クヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委託シ又ハ
自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

○煙草稅則施行細則 二十一年四月廿六日
大藏省令第三號
今般勅令第二十號ヲ以テ煙草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通相定ム

煙草稅則施行細則

第一條 稅則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ツル者ハ其營業ニ
關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受ケタル後
異動ヲ生シタルルハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第二條 稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人、器械ノ員數及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ
北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數坪數ニ拘ハラズ證約金
額ヲ増減スルヲアルヘシ證約ノ手續及ヒ證約狀ノ様式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條 煙草製造又ハ煙草仲買營業免許ヲ受ケタルモノハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ
圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人、弟子、職工ノ數(職工ハ其住所凡テ其府縣ノ租稅檢
査員派出所ニ届出ツヘシ但異動ヲ生シタルルハ其時々之ヲ届出ヘシ)

第四條 稅則第二條但書及第卅六條ノ場合ニ於テ左ニ掲クル者ハ後見人ト爲ルヲ得
ス

- 一 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者
- 一 身分限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條 稅則第卅六條第卅七條ノ手續ヲ履行セサルルハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第六條 煙草營業者場外ニ住居スルトキ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理人
タルハキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏名ハ
租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第七條 稅則第四條ノ仕入出賣ヲナスヲ得ル家屬雇人ハ其營業者ト同居常住ヲナス
者ニ限ル

第八條 煙草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

二十一年九月
大藏省令
第十號ニテ
又ハ煙草ニ
關スル六字
ヲ仲

黑色	一枚	二厘
淡赭色	一枚	三厘
黄色	一枚	四厘
赭色	一枚	六厘
萌黄色	一枚	八厘
淡青色	一枚	壹錢
茶褐色	一枚	壹錢貳厘
淡紅色	一枚	壹錢六厘
桔梗色	一枚	壹錢八厘
橙黄色	一枚	貳錢
老綠色	一枚	貳錢四厘
濃青色	一枚	三錢
淡黑色	一枚	三錢貳厘
黄綠色	一枚	四錢
嬌栗色	一枚	四錢八厘
紫色	一枚	六錢
朱色	一枚	六錢四厘
赤色	一枚	八錢

第九條 製造煙草ノ包裝每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻煙草每一包(函)ニ付

百 八 六 五 四 三 二 十 五 八
 匁 匁 匁 匁 匁 匁 匁 匁 匁 匁
 入 入 入 入 入 入 入 入 入 入

卷煙草每一包(函)ニ付

二百 百 五十 二十 十 六
 本 本 本 本 本 本
 入 入 入 入 入 入

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り又

ハ紙包入りトシ其包裝ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固着シテ貼用印紙ヲ破損セサレハ煙草ヲ取り出スヲ得サル様ニ密封スヘシ

製造煙草每箇ノ^{標目}本數定價氏名住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ包裝ノ表面ニ記入スヘシ

第十一條 煙草印紙ハ數枚連貼スルヲ得

第十二條 製造煙草一箇ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルキハ二厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス

第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條 煙草營業者ハ既ニ用キタル煙草印紙又ハ其包裝ヲ所持スルヲ得ス又何人

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

ニテモ之ヲ買買シ若クハ讓渡讓受ヲナスヲ得ス

第十五條 煙草營業者ハ商品見本トシテ毎種刻煙草五匁紙卷煙草十本葉卷煙草五十本ニ超ヘサル包裹ヲ切抜キ之ヲ店頭ニ陳列スルヲ得

第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺七分以上ノモノヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十七條 煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖モ總テ煙草稅則ニ從フヘシ

第十八條 煙草製造人、仲買人ニシテ葉煙草ヲ買入レ又ハ預リタル片ハ壹俵、壹カマスニ又ハ壹束毎ニ其葉ノ種類、量目、及ヒ預入レタル番號、年月日、預ケ主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル標札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條 煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ届出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルヲ得ス但葉取リ葉拵又ハ賃卷ノ爲ニ煙草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條 煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スル片ハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條 煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 葉煙草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷送主ノ氏名住所

一 製造煙草ノ種類、包裹ノ區別、箇數、荷送主ノ氏名住所

第二十二條 煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲナス毎ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

一 印紙賣渡ノ年月日

一 印紙ノ種類、每數

一 賣捌人ノ氏名住所

第二十三條 輸出製造煙草ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類、箇數、定價、印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦タ同シ

第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 送狀ヲ添付セサル煙草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルヲアルヘシ

第二十六條 代替ノ片若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタル片ハ管廳ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

一 代替書換ハ六十日間

一 其他ノ書替再渡ハ十日間

第二十七條 煙草稅則及此規則ニ掲グル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條 煙草營業者廢業ノ節ハ租稅檢査員派出所ニ届出其製造器械ニハ當該官吏ノ

封印ヲ受クヘシ

第廿九條 第九條第十條第十四條第十九條第廿條第卅條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第廿一條第廿二條第廿六條第廿七條第廿八條第卅一條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第卅條 稅則第卅八條及第卅九條第二項ノ場合ニ於テ烟草營業者包裹ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スル片ハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第卅一條 從來免許ヲ受ケテ烟草營業ヲナス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條ノ第三條ノ届出ヲナスヘシ

○烟草稅則取扱方要領

二十一年四月二十七日
大藏省訓令第二十二號

烟草稅則改正ニ就キ其取扱方要領左ノ通心得ヘシ

烟草稅則取扱方要領

- 第一款 吸烟ノ用ニ供スル烟草類(混和製ノ諸品トモ)ハ總テ稅則ニ照シテ之ヲ取扱フヘキモノトス
- 第二款 左ノ事項ハ從來各府縣ニ於テ經驗セル取締規則其他ノ慣例ヲ參酌シ改正規則ノ精神ニ基キ適當ノ取締ヲ施スヘキモノトス
- 一 葉烟草ノ取締即チ檢證封印等ノ方法ヲ施ス
- 一 收穫ノ調査ヲ施ス

一 質、抵當ニ係ル烟草ノ受授及撥業者所持ノ烟草賣捌方ニ就テ取締ヲ施ス

一 烟草製造ニ關スル場所ニ取締ヲ施ス

一 烟草製造器械ノ取締即チ烙印等ノ方法ヲ施スコト

一 内國産製ニ非ル烟草ノ取引賣買貸借等ニ就テ取締方法ヲ施ス

第三款 稅則第四條仕入出賣ノ免許鑑札ニハ各其受免許人ノ居籍、氏名、年齢、免許ノ番號及其年月日ヲ記載スヘシ

第四款 製造烟草ノ包裹ニ各種ノ商標、彩紋、裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任ス但豫メ其見本ヲ租稅檢査員派出所ニ届出置カシムヘシ

第五款 天災其他抗拒スヘカラサル事故ニ罹リ烟草營業者所持ノ烟草包裹及其貼用印紙毀損又ハ汚染セル場合ニ於テハ當該官吏其事實ヲ審明シタル上特ニ其印紙ノ交換ヲ許スヘシ但交換ノ手續ハ別ニ告示スヘシ

○烟草營業者及烟草印紙賣捌人ニ於テ帶印紙角印紙

ニ交換請求方

二十一年五月一日
大藏省告示第五十九號

烟草營業者及ヒ烟草印紙賣捌人ニ於テ本年七月一日ニ持越シ未タ使用セサル帶印紙ノ損傷汚染ナキモノハ角印紙ト引換ヲ請フヘシ

一 烟草營業者及ヒ烟草印紙賣捌人ハ該帶印紙ノ種類枚數仕譯書並ニ之レト引換ヲ請ハントスル角印紙ノ種類枚數仕譯書ヲ作り本年七月十日限郡區役所ニ呈出スヘシ

第十二類 二種稅及貨紙幣公債區町村費

一第一項ノ期限内ニ仕譯書ヲ差出サス又ハ第二項ノ期限内ニ現品引換ヲ申出サハモノニハ引換ヲ許サス

○煙草稅則中證約狀調製手續

二十一年四月三十日
大藏省告示第五十八號

本年四月勅令第二十號煙草稅則第三條ニ據リ管廳ニ差出ス證約狀ノ調製手續左ノ如シ

證約狀調製手續

第一項 證約狀ハ左ノ様式ニ據リテ調製シ煙草製造營業出願ノ際願書ト共ニ差出スヘキモノトス

第二項 證約金額ハ管廳ノ指示スル所ニ從ヒテ掲記スルモノトス

第三項 證約狀ノ保證人ハ最寄郡區内ニ住シ正實ニシテ同府縣内ニ於テ所得稅ヲ納ムル資産アル者二名以上ヲ要ス

證約狀

一金何十圓也

一私鐵煙草製造營業御許可相成候上ハ左ノ事ヲ確守スル爲メ前項ノ通證約金額ヲ掲記シ保證人ト共ニ署名調印ノ上證書ヲナスコト如件

第一款 營業上ニ關スル法律規則ヲ遵守シ正實ニ營業ヲナスコト

第二款 此證約ニ違背シ前記證約金額ノ一部又ハ其全部ヲ徵收セラル、ルハ徵收御達ノ日ヨリ五日以内ニ無相違完納スヘキ事

第三款 前款日限内ニ證約金ヲ上納セサルルハ連署ノ保證人ニ於テ直ニ本人ニ代リ

辨納可致事

右之通相違無之候也

年 月 日

何府何郡何町	何府何郡何町	何府何郡何町
何縣何區何村	何縣何區何村	何縣何區何村
何本 人	何 某 人	何 某 人
何 某 印	何 某 印	何 某 印
何府何郡何町	何府何郡何町	何府何郡何町
何縣何區何村	何縣何區何村	何縣何區何村
何保證人	何保證人	何保證人
何 某 印	何 某 印	何 某 印

何府何郡何町
何縣何區何村
何保證人

○各種煙草印紙ノ形質彩紋ハ現行ノモノ全様

二十一年六月二十五日
大藏省告示第八十五號

明治二十一年(四月)大藏省令第三號煙草稅則施行細則第八條ノ各種印紙(煙草印紙)ノ形質彩紋ハ現行ノモノニ同シ

○煙草印紙交換手續

二十一年七月二日
大藏省告示第八十九號

煙草稅則改正ニ付煙草印紙交換手續左ノ通之ヲ定ム

印紙交換手續

第一條 製造營業者天災其他抗拒スヘカラサル事變ニ罹リ其所持スル製造煙草ノ包裝若クハ其包裝ニ貼用シタル印紙ヲ毀損若クハ汚染シタルルハ其損失ニ係ル印紙ノ價

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

格一口壹圓以上ノ者ニ限ル印紙交換ヲ請求スルヲ得

第二條 印紙交換ヲ請求セントスル烟草營業者ハ其天災其他抗拒スヘカヲサル事變ニ罹リタル年月日場所實況及損失ニ係ル印紙ノ價格ヲ記載シ所在租稅檢査員派出所ニ差出シ其審明ヲ受クヘシ

第三條 租稅檢査員其事ヲ審明シ印紙交換ヲ許可スヘキモノト認ムルハ損失ニ係ル印紙ヲ毀却シ其烟草ニ封印ヲ施シ烟草營業者ヲシテ其交換ヲ要スル印紙ノ種類枚數仕譯書ヲ調製セシメ其餘白ニ審明ヲ證シ年月日官氏名ヲ記載シ官印ヲ押捺シテ之ヲ烟草營業者ニ下戻スヘシ

第四條 烟草營業者ハ前條印紙種類枚數仕譯書ヲ所在郡區役所ニ差出シ交換ヲ請求スヘシ

第五條 印紙交換ノ價格割合ハ左ノ如シ
損失ニ係ル印紙ノ價格 下付スヘキ額印紙ノ價格

- 一 貳拾圓未満壹圓ニ付 八拾錢
- 一 貳拾圓以上壹圓ニ付 八拾五錢

第六條 郡區役所ニ於テハ第三條ノ審明書ヲ調査シ前條ノ割合ニ據リ新印紙ヲ下付スヘシ

第七條 烟草營業者新印紙ヲ請取リタルハ租稅檢査員派出所ニ申出第三條烟草封印ノ解除ヲ請ヒ包裹ヲ改施シ印紙ヲ貼用シ更ニ檢査ヲ受クヘシ

○舊裝置烟草ノ帶印紙交換手續 二十一年八月二十一日 大政省告示第百七號

本年六月三十日以前ノ舊裝置ニ係ル刻烟草ヲ結束シアル帶印紙ノ交換手續左ノ如シ

舊裝置烟草ノ帶印紙交換手續

第一款 烟草營業者ハ次ノ各款ニ從テ舊裝置烟草帶印紙ノ交換ヲ請求スルヲ得

第二款 本年六月三十日以前ノ舊裝置ニ係ル刻烟草ヲ結束シアル帶印紙ニシテ左ノ資格ニ合スルモノハ其印紙ノ價額一口拾圓以上ヲ取總メタル分ニ限リ新印紙ト交換スルヲ許ス

- 一 刻烟草ヲ結束セル儘ニシテ毫モ再用ノ疑ナキモノ
- 一 毀損又ハ汚染セサルモノ
- 一 裝置完全ニシテ且其製造ノ年月日ヲ鮮明ニ記載シアルモノ
- 一 稅則違背ノ虞ナキモノ

第三款 交換ヲ請求セントスルモノハ本年十月五日限リ其舊裝置烟草ノ枚數各束ノ數量區分及ヒ之ヲ結束セル帶印紙ノ各種類枚數價格仕譯書ヲ調製シテ所管租稅檢査委員派出所ニ差出シ其審明ヲ受クヘシ

第四款 租稅檢査員ハ其事實ヲ審查シ交換ヲ許スヘキト認ムルモノハ請求人ニ指示シテ直チニ稅則第三十九條第二項ニ從テ改裝及ヒ印紙更貼ノ手續ヲ履行セシムヘシ

第五款 前款ノ場合ニ於テ改裝及ヒ印紙更貼ノ手續ヲ直チニ履行シ難キ片ハ請求人ハ其事由ヲ租稅檢査員ニ申立テ其烟草ハ封印ヲ受ケ更ニ日ヲ期シテ手續ヲ履行スヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第六款 第四款又ハ第五款ニ依リ履行スヘキ烟草改装及ヒ印紙更貼ノ手續ハ租稅檢査員ノ指示スル所ニ從フヘシ

第七款 前欲ノ檢査ヲ了ヘタルハ租稅檢査員ハ其舊印紙ニ封印ヲ緘シ第三款ノ仕譯書餘白ニ審明ヲ證記シ年月日官氏名ヲ署シ官印ヲ押捺シテ之ヲ請求人ニ下渡スヘシ

第八款 第三款ノ仕譯書中ニ於テ交換ノ格ニ合ハサルモノヲ混記シアル場合ニハ租稅檢査員ハ其書面ヲ訂正シタル上前款ノ手續ヲ爲スヘシ

第九款 請求人ハ第七款ノ仕譯書審明證ヲ所管郡區役所ニ差出シテ印紙ノ下付ヲ請フヘシ

郡區役所ハ前項ノ仕譯書審明證ニ照シ後款ニ掲クル所ノ割合ニ據リテ新印紙ヲ請求人ニ下付スヘシ但下付スヘキ新印紙ノ種類ハ郡區役所ノ便宜ニ隨フモノトス

第十款 印紙交換ノ價格割合左ノ如シ

- 一 舊印紙ノ價格 下付スヘキ新印紙ノ割合
- 一 每一口百圓未滿 百分ノ九十二
- 一 每一口百圓以上 百分ノ九十三

第十一款 第三款ノ期限以內ニ請求手續ヲ爲サ、ルモノハ交換スルコトヲ許サス

○烟草耕作人届出及右取纏方

烟草耕作人ト非耕作人トノ區別ヲ明カニスルハ稅則上緊要ノ事件ナルカ故ニ右耕作人ノ届出ハ各地方收稅部出張處ニ於テ之ヲ取纏メ稅則執行上ノ要用ニ供スヘシ尤モ右届出取纏メ方ハ各地ノ事宜ニ應シ簡便ヲ量リ之ヲ施行スル儘ト心得ヘシ

● 同指令

● 無印紙烟草賣捌ノ別ニ付山口縣ヨリ大藏省ヘ伺 (廿年七月廿三日 (全年八月四日官報))

烟草製造營業人毎印紙刻烟草ヲ所持シタルコト發覺裁判所ニ於テ裁判ノ末之ヲ没収スルノ旨渡チナシタルニ被告ハ其裁判ニ服セス上告チナシタル處大審院ニ於テ原裁判ノ破棄シ更ニ同院ニ於テ該烟草ハ被告ニ還付セラレタリ然レド被告即チ營業人ハ發覺確定以前已ニ廢業シタルニヨリ還付セラレタル烟草ハ更ニ亦營業免許ヲ得サレハ賣捌ノ途ナキハ承知スト雖モ營業稅及ヒ印紙買入ノ等ノ責力ナキヲ以テ特別賣捌ノ權限出候モノ之レアリ右ハ一則許可相成ラサルモノノ如クニ候得共又實際ノ事實ヲ勘考スレハ今之レヲ許川セサルハ實際賣力ナクシテ營業稅金及ヒ印紙ノ買入ノ等ニ差支アルハ如何モヘカラス已ムナク廢業スルノ外之ナキモノノ如ク然ルハ實ニ固然ノ次第ノミナラス取纏上ニ於テモ亦甚不取締ノ場合モ可任之勞以テ此處分方チ考按スルニ買受人ハ製造營業人ト認テ以テ其買入ノ願出サセ特別ニ許可ヲ與ヘ買受人ニ於テ相當印紙貼用販賣セシムルハ實際取テ不都合モ無之存シラレ候右類別モ無之ニ付相伺候

指令 二十年八月一日

伺ノ如

● 烟草稅則第三項證約金ノ件(山口縣)伺明治廿一年六月十三日

勅令第二十號改正烟草稅則第三條第三項ニ據レハ製造營業人ヨリ證約狀ヲ發シ若シ稅則ニ觸レ其他證約ニ違行スル事アルトキハ其證約金ノ全部又ハ一部ヲ徵收可致答ニテ其徵收金ハ第二部減入ニ編入スヘキ續御省主務局ヨリ御送付ノ開答書中ニ相見候得共相當ノ科目無之何レノ編入可致哉猶又右ハ科料則金ヘ其性質類似ノモノニ付没入處出納規則第十六條ニ可成モノト相心得可然哉

(大藏省) 指令 明治廿一年六月廿九日

伺ノ趣ハ雜收入ノ款辨償金ノ項證約金ノ目ヲ以テ整理スヘシ但該金徵收方ハ申出ノ趣

第百十六章 證券印稅規則

明治十七年五月一日

第一號布告

明治七年(七月)第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年(七月)第百二十號布告ハ同口ヨリ廢止ス
右奉 勅旨布告候事
(別冊)

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證券帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證券帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類	左ニ掲クル所ノ證券帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラズ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得	同	同
一 當座預リ金引出小切手	印稅五厘 一委任狀	同	同
一 金高記載ナキ約定證文	同 錢 二遺物證文	同	同
一 跡式讓證文	同 錢 二讓與證文	同	同
一 期限ヲ定メサル預リ金證文	同 錢 二耕地小作證文	同	同
一 雇人請合狀	同 錢 二金高記載ナキ諸物品預リ證文同	同	同
一 金高記載ナキ諸物品借用證文	同 錢 二地所預リ證文	同	同
一 諸物品切手	同 錢 一借地證文	同	同
一 買賣仕切書	同 錢 一保險證文	同	同

一 諸會社株券 同 壹錢 一送金手形 同 壹錢
 一 金錢通帳 一年以内 同 壹錢 一 金錢判取帳 同 貳拾錢
 一 結社約定書 同 壹錢
 但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證券帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ
 左ニ掲クル所ノ證券ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 一 營業ニ關スル送狀 印稅壹錢 一 營業ニ關スル請取書 同 壹錢
 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證券ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ
 但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ
 一 金錢借用證文 一 地所買賣證文
 一 金高記載アル諸物品預リ證文 一 金高記載アル諸物品用證文
 一 諸物品賣買證文 一 金錢定期預リ證文
 一 金高記載アル諸般ノ契約證書
 一 金高壹圓以上貳拾圓未満 印稅壹錢 金高貳拾圓以上五拾圓未満 同貳錢
 一 金高五拾圓以上百圓未満 同 四錢 金高百圓以上百五拾圓未満 同六錢
 一 金高百五拾圓以上貳百圓未満 同 八錢 金高貳百圓以上三百圓未満 同拾壹錢

租稅及貨紙幣公債區町村費

金高三百圓以上四百圓未滿 同 拾四錢 金高四百圓以上六百圓未滿 同貳拾錢
 金高六百圓以上八百圓未滿 同 廿六錢 金高八百圓以上千圓未滿 同卅貳錢
 金高千圓以上千四百圓未滿 同 卅八錢 金高千四百圓以上千七百圓未滿 同三十二錢
 金高千七百圓以上貳千圓未滿 同 五拾錢 金高貳千圓以上貳千五百圓未滿 同六拾錢
 金高貳千五百圓以上三千圓未滿 同 七拾錢 金高三千圓以上三千五百圓未滿 同八拾錢
 金高三千五百圓以上四千圓未滿 同 九拾錢 金高四千圓以上 同壹圓
 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 金高百圓未滿 印稅四 錢 金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ
 一 金錢當座預リ證文 一 質物預リ證
 金高壹圓以上貳拾圓未滿 印稅壹 錢 金高貳拾圓以上 同貳 錢
 右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 金高百圓未滿 印稅貳 錢 金高百圓以上 同四 錢
 一 爲替手形 一 荷爲替手形 一 約束手形
 金高五拾圓未滿 印稅壹 錢 金高五拾圓以上百圓未滿 同貳 錢
 金高百圓以上貳百圓未滿 同 四 錢 金高二百圓以上五百圓未滿 同八 錢
 金高五百圓以上千圓未滿 同 拾五錢 金高千圓以上二千圓未滿 同廿五錢
 金高貳千圓以上 同 五拾錢
 第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ

照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノ
 ハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス
 第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用
 シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消
 印スヘシ
 第六條 印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム
 第七條 印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クヲ得ス
 第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送り狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘシ
 第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス
 一 官廳ヨリ差出ス證書帳簿
 一 官吏准官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事
 スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書
 一 國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書
 一 國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿
 一 金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス證書
 一 諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人へ差出ス請取證書
 一 罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書
 租稅及貨物稅公債區町木費

第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限滿數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手

形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證入トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○證券印紙及手形用紙種類定價

明治十七年五月一日
第拾號布達

今般第十一號布告ヲ以テ認券印稅規則改正後ニ付テハ印紙及ヒ手形川紙ノ種類定價左ノ通り相定ム

但印紙ハ當分ノ内新舊取交貼用スルコトヲ得

紙	赭色	定價 五 厘	橙黃色	同	壹 錢
	芙蓉色	同 貳 錢	萌黃色	同	五 錢
	桔梗色	同 拾 錢	青色	同	貳拾五錢
	淡黑色	同 五拾錢	赤色	同	壹 圓
手形印紙					
老綠色	定價 壹 錢	桔梗色	同	貳 錢	
淡黑色	同 四 錢	橙黃色	同	八 錢	
淡赭色	同 拾五錢	淡紅色	同	貳拾五錢	
淡青色	同 五拾錢				

右布達候事

○證書帳簿用紙貼用ノ様式
明治十七年五月十日
大藏省第五十六號告示
 本年五月第十一號布告證券印稅規則改正相成候ニ付證書帳簿へ印紙貼用ノ様式左之通相定候條此旨告示候事

金高記載證書印紙貼用様式

證書差出人ノ印

證

印紙 印紙

一金何百何拾圓

右者、

年月日 何、誰印

何ノ誰殿

同上

證書差出人ノ印

證

印紙

一金何圓何拾錢
 一金何拾圓

合金何拾圓何拾錢

右者、

年月日 何、誰印

何ノ誰殿

租稅及貨紙幣公債區町村費

十七年第八
十八號同省
告示ヲ以テ
(期限)ノ下
(本年限)下
アルヲ(何
年)云々ト
証正

金高記載ナキ證書印紙貼用様式

證書差出人ノ印

何證文ノ事

印紙

今般何々、

年月日 何ノ誰印

第一類帳簿印紙貼用様式

帳簿主ノ印

印紙

印紙

此帳簿附込期限 何年何月ヨリ何年
何年何月マテ

紙數何百何拾何葉

年月日 何ノ誰印

第二類帳簿印紙貼用様式

帳簿主ノ印

印紙

印紙

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限 何年何月ヨリ何年
何年何月マテ

紙數何百何拾何葉

年月日 何ノ誰印

第一類第二類帳簿附込印紙貼用様式

帳簿主ノ印

印紙

印紙

印紙

印紙

此帳簿附込期限 何年何月ヨリ何年
何年何月マテ

此帳簿附込見積金何千圓

附込期限 何年何月ヨリ何年
何年何月マテ

紙數何百何十何葉

年月日 何ノ誰印

○當座預引出小切手押印出願及納稅手續 明治十七年六月十八日
大藏省第七十五號告示

當座預金引出小切手押印出願及納稅手續左之通相定候條此旨告示候也

一當座預金引出小切手ニ稅印押捺ヲ請フトキハ其枚數ヲ詳記セル書面へ小切手ヲ添へ主稅局へ差出スヘシ

(雛形略之)

○證券印稅規則中當座預リ金引出小切手押印稅徵

收方東京府各區役所ニ於テ取扱ハシム 十九年四月十日
大藏省告示第三十一號

證券印稅規則第二條第一類證書中當座預リ金引出小切手押印稅徵收方是迄當省ニ於テ取扱タル處明治十九年度以後右徵收ハ當分ノ内東京府各區役所ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

右告示ス

○稅印小切手捺換等ノ件 二十年六月十七日
大藏省令第十號

明治十二年第三拾壹號布告ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケタル小切手並十七年第十一號布告ニ依リテ押印ヲ受ケタル引出小切手未タ使用セサルモノニシテ銀行會社ノ合併其他ノ事故ニ由リ不用ニ屬スル分ハ更ニ稅印ノ捺換ヲ請フコトヲ得但十七年七月以後ノ押印

ニ係ルモノハ手數料トシテ壹割ヲ減シ即チ舊小切手百枚ニ對シ新小切手九拾枚ノ割合ヲ以テ稅印ヲ捺換スルモノトス

○證券印稅檢查規程 明治十七年八月
大藏省第六十號達府廳

本年(五月)第十一號布告ヲ以テ證券印稅規則改正相成候ニ付右檢查規程左ノ通相定ム右相達候事

證券印稅檢查規程

第一項 府縣收稅官吏ハ明治十七年第十一號布告證券印稅規則第八條ニ記載セル證書帳簿ノ檢查ヲ行フヘシ

第二項 檢查ヲ分テ二ト爲シ一ヲ定期檢查トシ一ヲ臨時檢查トス

第三項 定期檢查ハ毎年四五六ノ三ヶ月間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢查ハ該檢查ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ行フヘシ

第四項 檢查員ヲ派遣スルニハ府縣管内ヲ數部ニ區畫シ每部其擔當員二名以上ヲ定ムヘシ

第五項 檢查員ハ其擔當部内ノ商況戶數及路程ノ遠近ニ應シ一町村若クハ數町村ヲ以テ一區トシ區内ノ便宜ヲ量リ檢查場ヲ設ケヘシ

第六項 檢查員ハ豫シメ檢查日割ヲ定メ其日割及前條檢查場ヲ其區内ノ町村ニ告知スヘシ

第五條 前條豫算ヲ以テ配付又ハ分配ヲ受ケタル印紙類其年度内ニ於テ支出ニ至ラサルモノハ之ヲ其翌年度ノ元受ニ組入ルヘシ

一日配付又ハ配分シ若クハ既ニ賣下ケラレタル印紙類還納或ハ交換ニ由リテ收納セラレタルモノハ更ニ之ヲ其收納年度ノ元受ニ組入ルヘシ

第六條 印紙類ハ總テ印紙類會計官吏ノ保管ニ付スヘシ

第七條 印紙類出納ノ命令ヲ發スルトキハ出納命令官出納命令書ヲ調製シ印紙類會計官吏ニ交付スヘシ

出納命令書ニハ印紙類ノ種類員數年月日仕向先又ハ仕出元ヲ記載シ出納命令官署名捺印スヘシ

第八條 印紙類會計官吏印紙類受納ノ命令ヲ承ケタルトキハ出納簿ニ登記シ現印紙類ヲ收納シ其命令書ニ何月何日收納済ト朱記シ捺印シテ之ヲ保存シ收納證書ヲ調製シ印紙類出納命令官ニ差出スヘシ

印紙類會計官吏印紙類ヲ收納スルトキ現印紙ノ種類員數ヲ受納命令書記載ノ種類員數ニ對照シ異同アルトキハ假ニ之ヲ保管シ假證書ヲ調製シテ印紙類出納命令官ニ差出シ其命令書ノ訂正ヲ請求スヘシ

第九條 印紙類出納命令官前條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ相違ヲ生シタル事實ヲ審明シ受納命令書ノ誤寫ニ係ルトキハ印紙類會計主務官ヲシテ訂正受納命令書ヲ調製シテ印紙類會計官吏ニ交付シ假保管ニ係ル印紙類受納ノ手續ヲ爲サシムヘシ

若シ其事實受納命令書ノ誤寫ニ非ルトキハ其印紙類仕出元ノ印紙類出納命令官ニ報告シ其審明ヲ得テ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十條 印紙類會計官吏印紙類支出命令書ヲ得タルトキハ出納簿ニ登記シ現印紙類ヲ支出シ支出命令書ニ何月何日支出済ト朱記シ捺印シテ之ヲ保存スヘシ

第十一條 印紙類會計官吏印紙類ノ送達ヲ運送會社等ニ委託スルトキハ其支配人若クハ代理人ヲシテ其印紙類ノ種類員數ヲ調査セシメ領收證書ヲ徴シタル後之レカ荷造ヲ爲サシメ其筒數及送出ノ月日ヲ印紙類會計監督主任ニ報告スヘシ

第十二條 印紙類會計官吏印紙類ヲ支出シタルトキハ其印紙類ノ種類員數ヲ仕向先印紙類出納命令官ニ報告スヘシ

第十三條 第四條ニ依リ請求セル印紙類到達シタルトキハ印紙類出納命令官ハ第七條ノ手續ヲ爲シ印紙類會計官吏ノ收入證書ヲ得タル後仕出元印紙類出納命令官ニ領收證書ヲ差出スヘシ

第十四條 印紙類ノ荷物ハ運送會社ノ支配人若クハ代理人立會ノ上開封シ印紙類ノ種類員數ヲ調査シ領收證書ヲ交付スヘシ

若シ其種類員數ヲ仕出元印紙類會計官吏ヨリ報告シタル種類員數ニ對照シ異同アルカ又ハ損傷ノ印紙類アルトキハ立會人ヲシテ封印ヲ爲サシメ且其證明書ヲ徴シ假リニ之ヲ保管シ證明書ノ原本ヲ添付シテ之ヲ印紙類出納命令官ニ報告シ出納命令官ハ之ヲ仕出元印紙類出納命令官ニ報告シ其審明ヲ得テ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十五條 印紙類會計官吏ハ帳簿記載ノ結果ニ據リ日計表ヲ調製シ且其保管ニ係ル印紙類ノ種類員數ヲ其現在高ニ對照シ印紙類會計監督主任ノ承認ヲ受クヘシ

第十六條 印紙類會計官吏其保管ニ係ル印紙類ノ種類員數ヲ帳簿記載ノ結果ニ對照シ異同アルカ又ハ毀損ノ印紙類アルコトヲ發見シタルトキハ印紙類會計監督主任ノ立會ヲ得テ之ヲ精査シ其種類員數ヲ別段ノ帳簿ニ登記シ其事由ヲ具シテ大藏大臣又ハ府縣知事ノ指揮ヲ請フヘシ

第十七條 第九條第二項第十四條第二項第十五條ノ手續ヲ了シタルトキハ過剩ニ係ル印紙類ハ元受ニ立テ亡失毀損及不足ニ係ル印紙類ハ損失拂ニ立テ會計ヲ整理セシムルモノトス

第十八條 物品會計規則第十四條第十五條印紙類ニ係ル府縣及府縣及府縣收稅部出張所ノ報告書計算書ハ府縣知事取纏メテ之ヲ送付スルモノトス

第十九條 物品會計規則第十五條第二項但書印紙類ニ係ル計算書調製ノ命令府縣及府縣收稅部出張所ニ於ケルモノハ府縣知事ニ委任ス

第二十條 物品會計規則第十一條ノ現品照合第十七條ノ計算書下檢査ハ大藏省ニ於ケルモノハ中稅局長之ヲ施行シ府縣及府縣收稅部出張所ニ於ケルモノハ府縣知事之ヲ執行スヘシ

第二十一條 印紙類會計官吏ノ身元保證金額ハ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム
大藏省印紙類會計官吏 五百圓以下百圓以上

府縣印紙類會計官吏

府縣收稅部出張所印紙類會計官吏

貳百圓以下五拾圓以上
百圓以下拾圓以上

身元保證金ニ代用スル公債證書及土地ノ價格ハ隨時指示スル所ニ從フモノトス

第二十二條 物品會計規則第十條第十四條印紙類ニ係ル出納簿報告書及此規程ニ掲ケル張簿命令書及ヒ證書ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條 此規程ハ國稅ニ關スル諸鑑札標札ノ出納ニモ之ヲ適用ス

○印紙類出納規程法様式

二十二年九月廿四日 北海道廳 府縣神尾

明治二十二年八月二十七日大藏省訓令第五十八號印紙類出納規程第二十二條ニ據リ諸様式別冊ノ通相定ム

(別冊略ス)

○印紙類出納證明程式

二十二年十一月二十八日 北海道廳 府縣神尾

印紙類出納證明程式左ノ通會計檢査院ニ於テ規定相成候條右ニ照準會計ヲ證明スヘシ

印紙類出納證明程式

第一條 物品會計規則第十五條ニ據リ印紙類會計官吏ノ證明スヘキ印紙類出納計算書

ハ大藏省主稅局於テハ第一條北海道廳府縣於テハ第二號府縣收稅部出張所島廳區郡役所於テハ第三號書式ニ依リ之レヲ調製スヘシ

第二條 印紙類出納計算書ニハ印紙類ノ種類ニ依リ類別シ印紙面價格ノ異ナル毎ニ之レヲ細記スヘシ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第三條 印紙類出納計算書ニ添付スヘキ證憑書類ハ左ノ各項ニ據ルヘシ若其原本ヲ提出シ難キ場合ニ於テハ當該官吏ノ保證アル謄本ヲ以テスヘシ

一 物品會計規則第六條ノ規定ニ據リタル命令書

大藏省主稅局ヨリ北海道廳府縣ヘ配付及北海道廳府縣ヨリ收稅部出張所島廳郡區役所ヘ分配ノ印紙類ニ對シテハ印紙類出納命令官ノ領收證書

三 亡失毀損ノ印紙類ニ對シテハ其種類員數及亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シ大藏大臣又ハ府縣知事ノ認定アル書類

第四條 證憑書類ノ編纂其他ノ事項ハ一般ノ物品出納證明程式第五第六第八條ニ據ルヘシ

(雜形略ス)

○印紙類出納規程中諸鑑札受拂報告書様式

二十二年十月七日
大藏省訓令第六十九号

北海道廳 府縣

本年八月本省訓令第五十八號印紙類出規程中諸鑑札受拂報告書様式左ノ通相定ム

(雜形略ス)

●同指令

●諸帳簿貼用印紙消印ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年八月九日

證券印紙稅規則第三則第二條ニ見預金高ラ帳簿ノ初丁ニ自記シ其金高ニ相當スル印紙貼用ノ上ハ必ス實印ヲ以テ開

印スヘキヲ會社ニ在テハ取引上社長若クハ頭取等ノ名義ヲ以テ取結ヒタル證書類ヘ貼用印紙ノ消印ハ其社長若クハ頭取ノ實印ヲ用フヘキニ個人共同結社セシモノナレハ會社名ヲ以テスル諸帳簿ヘ貼用印紙ノ消印ニハ其社ノ印形ヲ用フルモ差支ナキヤ右相伺候也

指令 伺ノ通 十六年八月廿二日

●長野輕罪裁判所檢事ヨリ證券印紙貼用方ノ儀ニ付司法省ヘ請訓

十六年十月九日

甲アリ借用證書ヲ乙ニ入金借申入タルニ乙ハ該證書ヲ受取り納ヲ細シ甲ニ金員貸與ヘリ後チ其證書ハ甲ノ所遺ナルヲ發覺シ乙ハ茲ニ始メテ其不正ナルヲ知リシモ締約ノ當初正當證書ト信シテ貸借セリ此ノ如キハ甲カ犯罪發覺ニ依リ後チ不正ノ證書ニ歸スルモ証書授受ノ當初ハ彼我對約ナルヲ以テ無論證書而金高相當ノ證券印紙ヲ貼用スヘキ筈ニテ自然貼用無之分ハ其證書効ト無効トチ不問現行證券印紙稅規則違犯トシ違則ノ罰金ヲ科シ可然哉違犯事件有之候條至急仰訓示候也

内訓 十六年十月廿二日

別紙請訓之趣設書ノ無効ニ屬スル場合ハ犯則ヲ以テ論スルノ限ニアラス此旨及内訓候也

●證券印稅規則中帳簿ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年一月廿八日

金高記帳アル封金ノ儘受取タルモノハ第一類金錢判取帳ヘ記載セシムヘキヤ檢査ノ際貼用印紙ヘ他ノ印章ヲ以テ開印シアルキハ後來ヲ戒メ更ニ實印ヲ押サシムヘキヤ

指令 十七年一月廿九日

前段金高記帳アル封金ノ儘受取ルモノハ物品取取帳ト認認メ荷物判取帳ヘ記載セシムヘシ
後段申出ノ通

●證券印稅規則ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年一月三十一日

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

設公債證券類ヲ貸借シ期限返却ノ節其借主ヨリ數許ノ謝金ヲ與フヘキ旨記載アル證文ハ證券印稅規則第二類第一條
二類中ノ金錢約定證文トシテ其謝金ノ額ニ應シ界紙又ハ印紙ヲ用ヒ無謝金貸借ノ分ハ其證文ニ證券面ノ金額ヲ記入
スルモ個ハ證券面ノ金額ヲ轉記シタルマテニテ實際取返ヲ爲スヘキ金額ニアラサルヲ以テ金額印稅之約定證文ト
シ總テ界紙ヲ用ヒ可然哉但公債證券類リ証文ノ儀モ本文ニ準シ可然哉
指令 同之通 十七年一月廿二日

● 證印稅徵收ノ儀ニ付山形縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年三月七日

地所賣買讓與等ニテ地券ヘ名面記入ノ儀出願ノ節破損或ハ虫蝕等ニテ記入スヘキ標無之場合ニ於テハ直ニ讓受人名
面ニ書換相渡賣買ニ係ル証印稅ノ徵收スヘキ哉又ハ目下所有者名面ニ書換ノ儀出願爲致更ニ賣買手續ヲナシ証印
稅ハ書換并賣買ニ係ル兩稅ヲ徵收スヘキ儀ニ有之候哉然ルモ明文無之依テ聊疑議ヲ生シ候ニ付相伺候也
指令 十七年三月十八日

何ノ趣前段申出ノ通賣買讓與ノ區別ニ據リ相當証印稅徵收スヘキ義ト可相心得事

米穀借用証文ハ、參印稅規則第一類相當印紙ヲ貼用スヘキ哉
指令 十七年六月十七日

新稅則實施後ハ金高記帳ナクハ第一類記帳アルハ第二類相當ノ印紙ヲ貼用スヘキ儀ト心得ヘン

● 證券印稅規則第二條第一類中送狀金高區別ノ儀ニ付山梨縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年七月廿八日

證券印稅規則第二條第一類ノ証書中營業ニ關スル送狀ニシテ金高五圓以上ノモノハ登錄印紙ヲ貼用スルノ制置ナリ
然ルニ右金高ハ其送狀ヲ副フヘキ物品ノ運賃ニ係ルカ又ハ運送スヘキ物品ノ代價ニ依ルカ
指令 十七年八月七日

● 證券印稅規則之儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年八月八日

其運送物品ノ代價ニ據ルヘキ儀ト心得ヘシ
證券印稅規則第一類期限ヲ定メサル預リ金証文ト第二類金錢當座預リ金証文トノ區分ハ利子ノ有無ニ仍テ區分スル

モノニアラス而シテ第三條(前條ニ掲クル所ノ証券帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當
ノ印紙ヲ貼用スヘシ)ノ明文アル上ハ証券差出人ニ於テ適宜ニ付記シタル名稱ニ仍リ印紙ヲ貼用セシムルモノニモ
アラス右ハ如何相心得然ルヘキ哉
指令 十七年九月五日

全ク貸借ノ性質ヲ帶ヒサルモノ即チ保證預リノ類ハ期限ヲ定メサル預リ金証文無定期預リ金ノ使用及利子等ヲ納
附スルモノハ金錢當座預リ証文ニ屬スル儀ト可相心得事

● 定備諸職工及小使等ノ給料并旅費受領書ヘ印紙貼用ノ件ニ付會計檢査院ヨリ太政官ヘ伺十七年九月十八日

各職作業場ニ於テ工事熟練ノ者或ハ學校卒業生ヲ採用シ他ノ技手同僚ノ勤務爲致其身分取扱ハ變更ト認ムヘキモノ
ニシテ事業上整理ノ都合ニ依リ其給料ハ職工給ノ名義ヲ以テ仕拂フ者(工部省等級ナル職工印)又官船定備ノ水火夫
及ヒ各職定備ノ給仕小使(給料月給ヲ給セス)若クハ旅費等受領證書ヘ證券印紙ヲ貼用セシムルハ貼用セス各職取扱
上區々ニ添リ且去ル十年九月工部省伺ヘ御指令ノ趣モ有之候處右ハ如何相心得可然哉
指令 十七年十月廿一日

同ノ新印紙貼用ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

● 印紙貼用之儀ニ付石川縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年十月七日

本縣管下金澤區共有積金ト稱ヒ區會議決ヲ以テ年々收支シ幣ニ其金ハ私立銀行ヘ無定期利付預メテ爲スモノアリ右
金取扱ハ都テ同區役所ニ於テ主管スルヲ以テ假令ハ人民共有金ト雖モ區長ノ職權ヲ以テ主管スル以上ハ印稅規則第
九條ニ依リ該證書印紙貼用ニ及ハス哉或ハ別ニ出納取扱ヲ命シタルモノニアラサル上ハ第二類ニ依リ相當印紙貼用
致サセ然ヘク儀ニ候哉
指令 十七年七月二十日

同之趣區長ヨリ發スル證書ハ印紙貼用ニ及ハス銀行ヨリ發スル證書ハ第二類ニ據リ相當印紙貼用セシムヘキ儀

第十二類 二租稅及貨紙幣公債區町村費

ト可相心得事

●證券印紙貼用方ノ儀ニ付農商務省ヨリ太政官ヘ伺十七年十一月十七日

雇員等俸給旅費等ノ受取証書ニ証券印紙貼否ノ儀ハ去ル七月廿三日ノ伺濟ニ依リ致區分米俸處の役職在院ヘ御指令ノ趣ニ依レハ今後當省各局部定備ノ定夫團丁農夫收夫等ノ給料旅費其他手續報酬人民公用旅費ノ如キ支給金ニ係ルモノノ受取証書ハ總テ印紙貼用ニ不及儀ト相心得可然哉

指令 同ノ通 十七年十二月十二日

●官沒ニ係ル證券印紙處分ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺二十年一月二十六日

官國內得遺失物ノ中證券印紙(壹錢)一葉有之候處既ニ拾得ノ日ヨリ一年ヲ經過スルモ其事主不分明ニ付今則官沒ノ處分ヲナシタリ就テハ會テ御指令ノ旨ニ基キ該印紙ハ留メ置處分方相伺候

但爾後本文同様ノ件有之節ハ官沒ニ係ル郵便切手處分方ニ準シ不取締ノ儀無之候限リ燒却處分致度

指令 二十年二月二日

伺ノ趣官沒ニ係ル印紙ハ不取締無之候其縣ニ於テ燒却スヘシ但書ハ聞置テ

●證券印稅ノ件ニ付靜岡縣ヨリ大藏省主稅局ヘ質議二十年四月十二日

證券印稅規則取扱備考中規則第二條第一類(金高記載ナキ約定証文)ノ注釋ニ本証書金高ノ全部又ハ幾分ノ返濟ヲ仲縮スル證書トアリ又第十七條注釋ニ至リ効用ヲ異ニスルモノトハ期限ヲ定メタル借用証文ニ對シ返濟期限ヲ仲縮スル證書トアリ而シテ返濟期限ヲ仲縮スルモノノ如キハ其權理義務ニ於ル甲乙ナキ積思量スルニ一ハ單ニ一類ニ屬シ一ハ二類ニ屬スルノ場合アルモノノ如シ果シテ然リトセハ齊シク返濟期限ヲ仲縮スルモノニシテ其第一類トナリ二類トナルノ區分如何ナル場合ニ於テ區分シ得ルヤ

回答 二十年四月十六日

證券印稅規則取扱備考中第十七條ノ注釋ト第一類中金高記載ナキ約定証文トノ注釋區別第十七條ハ第二類ノミニ對

シ掲ケタルモノニアラス第一類ト第二類ト證書ヲ總括シタル條ニテ則チ本條ノ注釋ニアル如ク金高ヲ記載セス單ニ返濟期限ノミ仲縮スルモノハ第一類ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用シ又増減シタル其金高ヲ記載シタルモノハ第二類ニ依リ相當印紙ヲ貼用セシムルノ意義ナリ

●印紙賣捌ノ件(靜岡縣伺)明治廿一年六月廿三日

本月十二日付官報第千四百八十四號ニ登載有之候靜岡縣伺證券印紙賣捌ノ件ニ對スル御指令ノ趣ニ依ルトキハ登記所ニ於テ差支ナキ以上ハ該印紙ニ限リ登記所人民控所ニ出張シ之ヲ賣捌カシムルヲ得候處登記事務治安費列所ニ於テ取扱候場所ニ限リ訴訟用印紙ヲ併セテ賣捌カシメハ一層人民ノ便利トナルノミナラス該印紙ヲ賣捌スルノ益ナキニ至リ候儀ニ付御差支無之候ハ、御許可相成度候

(大藏省) 指令 明治廿一年六月廿七日

伺ノ通

●積荷證書印紙貼用ノ件新潟縣ヨリ大藏省主稅局ヘ照會十九年四月九日

海運營業者アリ荷主ヨリ貨物ノ運送ヲ依託セントキ別紙一號二號ノ如キ證書ヲ發セリ然ルトキハ該證書ノ性質ハ專ラ運送ノ目的トシテ依賦セシモノナレハ假令他ノ性質ヲ含有スルモ之ヲ送狀ノ部類ニ編入スヘキヤ又ハ其運送ノ目的トスルモ貨物到達マテノ間ハ該社ハ荷主ニ對スル預リ主ナレハ之ヲ預証ノ部類ニ編入スヘキヤ(別紙略ス)

回答 十九年四月十九日

回漕營業者ヨリ發スル所ノ積荷證書印紙貼用ノ儀ハ其性質效用全ク送狀ト認メ取扱フヘシ

●證券印紙ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺十九年四月二十九日

茲ニ木綿問屋業ノ者アリ自己ノ店頭ニ於テ木綿仲買人ヨリ木綿購求ノ際其品位ヲ鑒定シ價格相協ヲ約定ノ上其價格等運納ナカラシメン爲メ買主ニ於テ一ノ帳簿ヲ製シ其初丁ニ直段決定ノ上ハ賣主ノ自筆ヲ以テ木綿ノ種目及直段ヲ記載シ買受人ニ差出シ印紙ヲ受ケタル後ハ何様ノ相違アルモ此帳簿ヲ確證トスヘキ旨ノ契約文言ヲ明記シ賣渡人數十名ヲシテ漸次記載セシメタル別紙寫ノ如シ斯ノ如キモノハ業ヨリ甲乙二名ノ間ヲ互交スル邊縁ニアラサレハ一

紙證書ニスヘキ性質ノモノト解釋セリ果シテ然ラハ假令便宜上ヨリ之ヲ帳簿ニナスモ毎廉ニ賣渡人ヲシテ相當印紙ヲ貼用スヘキハ當然ナルニ之ヲ貼用セスシテ既ニ授受使用セシモノハ賣主買主トモ證券印稅規則第二類請購品賣買証文ノ項ニ據リ同則第十九條ニ準據シ處分スヘキヤ

(別紙)

本給費附帳

此附帳簿ハ直段決定ノ上ハ自筆ヲ以テ種目及直段ヲ記載シ買受人ハ差出シ捺印ヲ受ケ通帳ヲ添ヘ帳簿ヘ可添付
從事然ル上ハ何種ノ相違有之候トモ此帳簿ノ記載ヲ確證ト可致候者也

年月日

某村

年月日

某 某 印

一長九反

○打付圓ニ付二反七歩六分

買受人ノ捺印

一同拾九反

同 人 印

○打付圓ニ付二反七歩五厘

(賣印ナキモノモアリ)

右正ニ賣附候也

(以下三百三厘附込アリ人員四十八人ナリ)

指令 十九年五月六日

何ノ趣規則第二類第五項ノ請購品賣買証文ヲ便宜ノ爲メニ種メ帳簿トナス者ハ其附込見積金高ニ隨ヒ帳簿主ニ於テ使用以前相當印紙ヲ貼用セシテ使用以前相當印紙ヲ貼用セシムヘシ

但印紙不貼用ニテ使用セシモノ處分ノ儀ハ申出ノ通

●證券印紙貼用方ノ件ニ付神奈川縣ヨリ大藏省主稅局ヘ照會 十九年五月十九日(十九年五月廿八日官報)

本月十八日官報中證券印紙貼用方ノ儀ニ付キ愛知縣ヨリノ同ニ對スル指令同テスルニ證券印稅規則第二類第五項ノ請購品賣買証文ヲ便宜ノ爲メ種メ帳簿トナスモノハ其附込見積金高ニ隨ヒ帳簿主ニ於テ使用以前相當印紙ヲ貼用セシムヘシトアリ就テハ客歲五月二日日本縣電報何(證券印稅規則中第一類第二類ノ證券帳簿トナシ數人ノ分ヲ附込ムモノハ同稅規則第三條ニ準據スヘキヤ)ニ對スル同月十六日電報何指令(本月二日電報證券印紙稅何ハ廉毎ニ稅率ニ照シ相當印紙貼用セシムヘシ)自然消滅候儀ナリヤ

回答 十九年五月二十二日

本月十八日官報中證券印紙貼用方愛知縣何并指令揭載アルニ付買辦客年五月二日電報何ニ對スル指令消滅云々了
承右ハ愛知縣ヘノ指令ハ第二類ノ證券ニシテ同項同稅率ノモノニ限リ附込見積金高ニ隨ヒ使用以前相當印紙貼用セシムヘシトノ旨趣ニアリ就テハ昨年五月二日電報電報何ニ對スル指令中前件旨趣ニ抵觸スル廉丈ハ自ラ消滅シタル儀ナリ

●買取主ヨリ差出入納稅證書ヘ印紙貼用ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺

十九年五月廿八日(十九年六月十一日官報)

明治六年(一月)第十八號太政官御達地所買入書入規則第六條ニ買入ノ地所ハ金主ニテ其地所耕作可致者ニ付テハ地租額役トモ地所金主ニ於テ可但租額其段管轄廳ヘ届出證書差出スヘシト之アリ候成十七年三月第七號布告地租條例第十二條ニ買入ノ土地ハ其買取主ニ於テ地租租納ムヘキ旨ノ明文之アリ加フルニ本年(三月)閣令第三號ヲ以テ歲入歲出納規則制定ニ付部長ハ同則第十九條ニ依リ徵稅令書ヲ發シ戶長ハ同則第二十條ニ依リ徵稅傳令書ヲ發スヘキ順序ニシテ管轄ニ於テハ證券ヲ差出サシムル必要之ナキニ付買入書入規則第六條但書ハ自ラ消滅ニ屬シタル儀ト心得然ルヘキヤ否ヤ相伺候處司法大臣ヨリ何ノ趣地所買入書入規則第六條ノ但書ハ消滅シタルモノニ非サル旨指令之アリ然ルニ地租ハ買入主ニ於テ可相納旨地租條例ニ明文之アル以上ハ管轄ト買取主ト別ニ契約ヲナスニ及ハサルハ勿論ニ付規則第六條ニ證書可差出トアルモ該證書ハ契約ノ性質ヲ有スルモノニ非スシテ賣地ヲ届出ルニ止マル者ナレハ証券印稅規則ノ範圍外トシ然ルヘキヤ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

指令 十九年六月四日
伺ノ通

●為換手形ノ件ニ付(愛知縣)ヨリ大藏省へ伺十九年六月十七日(十九年七月一日官報)
明治十七年(五月)第十一號布告證券印稅規則第三類中約東爲換手形ハ金高五十圓未満印稅壹圓ト之レアリ然ル二十年(十二月)第五十七號布告爲換手形約東手形條例第一章第四條ニ爲換手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者ト之アリ然ラハ爲換金高五圓以下ナルモノハ發行相成ラサル儘ニ候ヤ又ハ印稅規則改正ニ據リ自然條例中五圓以上ニ限ルノ明文ハ消滅シ候令二三圓ノ爲換手形ト雖モ五十圓未満ノ爲換手形用紙ヲ用ユル儘ト心得然ルヘキヤ
指令 十九年六月二十五日
伺ノ趣消滅セサル儘ト相心得ヘシ

●證券印紙稅規則ノ件(群馬縣)伺明治二十二年七月二日

町村吏員ノ擔任管掌スル事務ニ關シ財產ノ授受及ヒ契約ヲ爲ストキ用フルルテノ證券印紙ハ町村役場ノ名義ヲ以テスルモノト否トナ間ハス證券印稅規則第九條ニ依リ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セサルヤ町村制施行ニ付町村吏員トハ大ニ其趣ヲ異ニシ聊カ疑義ニ涉リ決兼候條何分ノ御指那相成度

(大藏省)指令 明治二十二年七月八日

伺ノ件ハ濶テ證券印紙稅規則ニ依リ相當印紙ヲ貼用セシムヘシ

●證券印稅規則ノ件(京都府)伺明治二十二年七月二十三日(內務大臣官報)

市町村ニ於テ管掌スル金錢ノ授受ハ獨リ市町村役ニ限ラス國稅地方稅ヨリ各種ノ寄託金ニ至ル迄其取扱フ處從前ノ區役所ノ長役場ニ於テスルト致テ異ナル處ナキニ制度改正後ハ之ヲ官廳視スルヲ得サルニヨリ隨テ金錢ノ授受及契約ノ證明等ニ用フル證券印紙ノ類ハ總テ明治十七年五月第十一號布告證券印稅規則ニ依ルヘキカ如シト雖モ畢竟スルニ現時ノ市町村役場ハ其組織ヨリ異ナレ其職務ニ於テハ從來ノ區役所ノ長役場ト大差ナキモノニ付實際上下等ノ取扱ハ無論該規則第九條ヲ適用スヘキ筋ニ候哉
追テ本文ノ件若シ規則第九條ヲ適用セサルモノトスルモ府下京都市ノ如キハ特例ノ制ニヨルモノニ付該區役所ノ

事務ハ獨リ市ニ屬スル事務ニ限ラス廣ク國及ヒ府ノ事務ヲ取扱ハシムルヲ以テ是等ハ特ニ本文見解ノ如ク相心得可然哉

(大藏省)指令 明治二十二年八月七日

本年七月二十三日附テ以テ證券印稅規則ノ體ニ付伺ノ件ハ濶テ同規則ニ依リ相當印紙ヲ貼用スヘシ但本省主管ニ付本省限リ指令ス

●總代人へ印紙類賣下ノ件(東京府)上申明治二十二年十一月十六日

印紙類賣下ノ體ハ授受ノ際此レカ取扱方最モ歸重ヲ要シ其種類枚數等ヲ詳記シテ限リナキナ期スルニハ之ヲ授クルモノノ之ヲ受クルモノ共ニ其幣價ヲ免レス殊ニ本府ノ如キハ一箇年ノ賣下高無慮七千万枚ノ多額ニシテ小數ノ官吏之ヲ取扱フモノナレハ多クノ時間ヲ要スモ亦止テ得サル事ニシテ其幅狭シ來ル賣捌人多クハ受取與者即チ察察幼見ノ齊ニシテ日々出頭賣下テ乞フモノ平均四十有餘人ノ多キニ上リ其受授ノ手續件數ノ細分スルニ隨テ鈔カラス之ヲ要スルニ官民共ニ容易アラサル手續ニ有之候處先般以來賣捌人中其最寄ニ於テ總代人ヲ設ケ諸印紙賣下ノ出頭ヲ爲シ申度旨ヲ以テ出候儀モ有之右總代人ニ於テ受取リタル印紙ヲ該同業者各自ニ分配シ各自ハ勿論規則ニ隨テ取扱フノ仕組ニシテ果シテ此ノ方法ヲ採レハ各自ノ拂受高ヲ列記セシ數十小口ヲ合計一括大口ト爲シ拂受スカ爲メニ印紙枚數ノ調査計算上ニモ非當ノ手續ヲ省キ前記官民ノ不便ハ大ニ之ヲ裁制スルコトヲ得ヘキ次第ニ有之印紙類賣下費捌規則ニ抵觸スルノ取モ無之設ト被存候ニ付別紙方法ニヨリ諸印紙賣下取扱度此段及上申候也
(別紙)

印紙類賣下總代人へ拂下方法手續見込

- 一 收稅部各出張所轄内ニ住居スル印紙賣捌人ノ便宜ニ由リテ協議中合ノ上一名乃至數名ノ總代人ヲ設ケ其總代人ヲ以テ印紙賣下ヲ請フコトヲ得
- 一 總代人ハ賣下請求者各自ノ委任狀ヲ所持スル者ニ限ル
- 一 印紙拂受願ハ各自賣下請求高仕書ヲ明記シ印紙ノ類別毎ニ區分シ例ヘハ證券印紙ハ證券印紙限リ烟草印紙ハ烟草印紙限リ合計シテ之ヲ一口ト爲シ代金ヲ上納シ印紙ヲ拂受タルモノトス

第十二類 租稅及貸紙幣公債區町村費

以上ノ手續ニ由レハ印紙賣捌人ニ於テ其他ヲ得ルハ勿論其授受ノ際收入官更ニ於テハ從前數十口ノ收入ナリト口トシテ收入シ覺下主任ニ於テハ是迄枚ツ、分チテ改十口ニ下付セシモノヲモ今後ハ之ヲ一口ニ認メテ下付スルカ故ニ大ニ手數ヲ減省スル見込ナリ

前項給代人ヲ設ケルト否トハ悉ヨリ賣捌人各自ノ便宜ニ出ルモノナルカ故ニ其總代人ヲ要セスシテ各自自由ニ拂受ヲ爲ス者セシアルヘキハ勿論ナリトス

之ヲ要スルニ本手續ノ旨趣ハ官民交互ノ便宜簡易ナ爾モノニシテ專賣的ノ弊ニ流レタルコトヲ豫メ注意スヘキハ最モ緊要ナリトス

右ノ通見込候御實際施行程驗ノ上加除ヲ要スル儀モ可有之候此段副申候也

(大藏省)指令 明治二十二年十一月二十八日

總代人へ印紙類賣下ノ件即置ク但取費ニ涉ルコトナキ様注意スヘシ

●印紙類出納ニ關スル件(福岡縣收稅長)同合明治二十二年十一月二十九日

一 本年御省訓令第五十八號印紙類出納規程第十八條ノ計算書様式ハ追テ御示シ相成候ヤ

一 前同條ノ計算書(下檢査結)報告書各出張所ノ分ハ取極メ其原本圖ノ分(別製)ト共ニ送付可然乎

一 物品會計規程第十五條ニ前略「證憑出納ヲ添ヘ」云々トアリ右ハ相當税金ヲ徵收セス即チ交換等ニテ交付シタルモノハミ支出命令書等ヲ添付シ税金徵收ノ上下付シタルモノハ即憑出納添付ニ及ハサルヤ

一 諸鐵札標札受拂ノ報告書計算書様式ハ別段御示シ相成候ヤ將チ印紙ノ様式ニ準テ開製スル儀ニ候ヤ

一 少量ノ印紙ハ(處分方與申ニ係ル印紙及ヒ稅上)是マテ郵便ニ托シ送付致來候成印紙類出納規程施行後ハ同規程第十一條前段ノ手續ヲ爲シ得サルノ如アリ然レニ郵便ニ托スル郵便ナルトキハ整支ナキヤ

一 本月御省訓令第六十五號改正ニ係ル印紙類出納規程第二十三條「標札」トハ御省訓令第五十九號別册様式日計表中ニ列記ノ諸鐵札而已ニ限ラス本廳限リ徵稅費ヲ以テ開製スル自家用料酒類製造免許鐵札及ヒ印紙類賣捌標札ノ類モ含有シタルモノノ如ク被考候果シテ然乎

(大藏省主稅局)回答 明治二十二年十二月五日

第一項第三項ハ印紙類出納證明程式ニ據リ御了解相成度

第二項計算書ハ御見込ノ通報告書ハ各出張所ノ分チ縣廳ニ取極メ之ヲ集計シテ御進達可相成候ト存候

第四項前段御見込ノ通

●總代人印紙類賣下ノ件(東京府)同明治二十三年一月二十二日

印紙賣捌人給代人ヲ選ミ印紙拂受ノ儀ハ豫テ御開置モ有之就テハ該總代人へ假令ハ一口五千圓賣下クヘキ場合ニ於テ該代金上納ノ際二千圓ハ現金ニテ即納シ殘リ三千圓ハ六名分五百圓ツ、ニ對スル公債該證書ヲ各自抵當トシ延納

御出候場合モ有之右ハ別段規程ニ抵觸ノ廉モ相見不申旁聞届不寄哉

(大藏省)指令 明治二十三年一月二十八日

印紙類賣下賣捌規程第十條但書ニ基キ開屆書シカラス

第百十七章 船稅規則 明治十六年四月十七日 第拾三號布告

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

右 奉勅旨布告候事

別冊 船稅規則

第一章 鐵札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鐵札ヲ乞フヘシ

第十二類租稅及貨紙幣公債區町村費

十三年度
省乙第二
三船運ナ
ア船車ニ
構ヲ加ヘ
額ニ増減
生シタル
税金徴收
百十八章
ノ四項

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繋場ヲ定メサル時ハ該船ニ出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繋場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ噸數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繋場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條 船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繋場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ
・西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年金拾五圓
同風帆船 同 金拾圓

日本形積石五拾石以上 同 金貳圓
同 積石五拾石未満 長^{自軸梁}三間迄ハ一年金三拾錢
至^{自軸梁}三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス
遊船 長^{自軸梁}三間迄ハ一年金五拾錢
但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ
但日本形積石五拾石未満ノ船並淨漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繋場所在ノ地方廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繋場ヲ變換シタル時ハ其旨定繋場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ
倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船
水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船
船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バッテリー」船ノ類
第二章 納稅

第十一條 税金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繋場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

第十二條 新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受ケル時該期ニ係ル税金ヲ上納スヘシ
第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ噸數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ噸數

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

賦金ニ隨ヒ税金ヲ納ムヘシ

第十四條 他管下ニ定埠場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ違譽ノ上其定埠場所在ノ地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ
第十五條 本籍管内ニ定埠場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ

第十六條 假鑄札ヲ受ケタル船舶定埠場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定埠場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ
第十七條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徵ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ其脫稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス
第十九條 免稅船舶ヲ有稅船舶ノ用ニ充テタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船舶ニ烙印ヲ受ケサル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯並ニ重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

○船稅規則取扱心得

大藏省第三十六号達
十六年六月六日

本年四月第十三號ヲ以テ船稅規則制定布告相成候ニ付右取扱心得別冊ノ通相定ム
但明治四年十二月廿六日達噸石數改方法則ノ外船稅規則ニ關スル從前ノ達ハ廢止ス
右相違候事

船稅取扱心得書

第一條 西洋形蒸氣船並ニ日本形積石五拾石以上ノ船蓋札ハ第一號離形ノ通日本形積石五拾石未満ノ船並ニ解漁船小廻船ノ遊船ノ蓋札ハ第二號離形ノ通府縣廳ニ於テ調製下付スヘシ

但假蓋札ハ離形蓋札ノ上ヘ假ノ字ヲ記入スヘシ

第二條 噸數ハ壹噸積石數ハ壹石間數ハ壹間ニ止メ其以下端數ハ切捨ツヘシ

第三條 規則第七條但書蓋札釘付ノ箇所及ヒ同第十條免稅印烙印記ノ箇所ハ該船舶ノ舳外部側面ニ之ヲ爲スヘシ

但烙印ハ從前離形ノ如ク府縣廳ニ於テ調製スヘシ

第四條 規則第三條ニ據リ檢査ヲ爲シ假蓋札ヲ付與シタルトキハ其旨定埠場所在ノ管廳ニ通知スヘシ其通知ヲ受ケタル管廳ハ直ニ其他ノ船籍ニ編入シテ該期ノ税金ヲ收入シ追テ木鑑引換相渡シタル上最前通知ノ管廳ニ報道スヘシ

第五條 船舶賣買讓與其他ニテ定埠場ヲ變換シ其新舊定埠場甲乙兩管廳ニ交渉スルトキ乙管廳ニ於テ其他ノ船籍ニ編入鑑札引換相渡シタル上ハ直ニ甲管廳ニ報道スヘシ

第六條 前二條ノ手續ニ依リ鑑札引換ノ節ハ更ニ該船ノ檢査ヲ要セス舊蓋札若クハ假蓋札ニ記載ノ噸石數又ハ間數等ニ據ルヘシ

但其返納セシ舊蓋札假蓋札ハ不取締無之擦消却シ最初下付シタル管廳ヘ返戻ニ及ハス

二十二年八月六日
令第五十號
第七條別

第七條 刪除

第八條 西洋形薩氣船ハ港灣湖川等ヲ運用スル小船ト雖モ總テ其噸數ニ依リ解漁船小廻船ハ積石噸五拾以上ト雖モ總テ其間數ニ依リ課税スルモノトス

第九條 港灣其他ノ海岸又ハ湖川等ニ碇泊又ハ繫キ置ク船舶ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

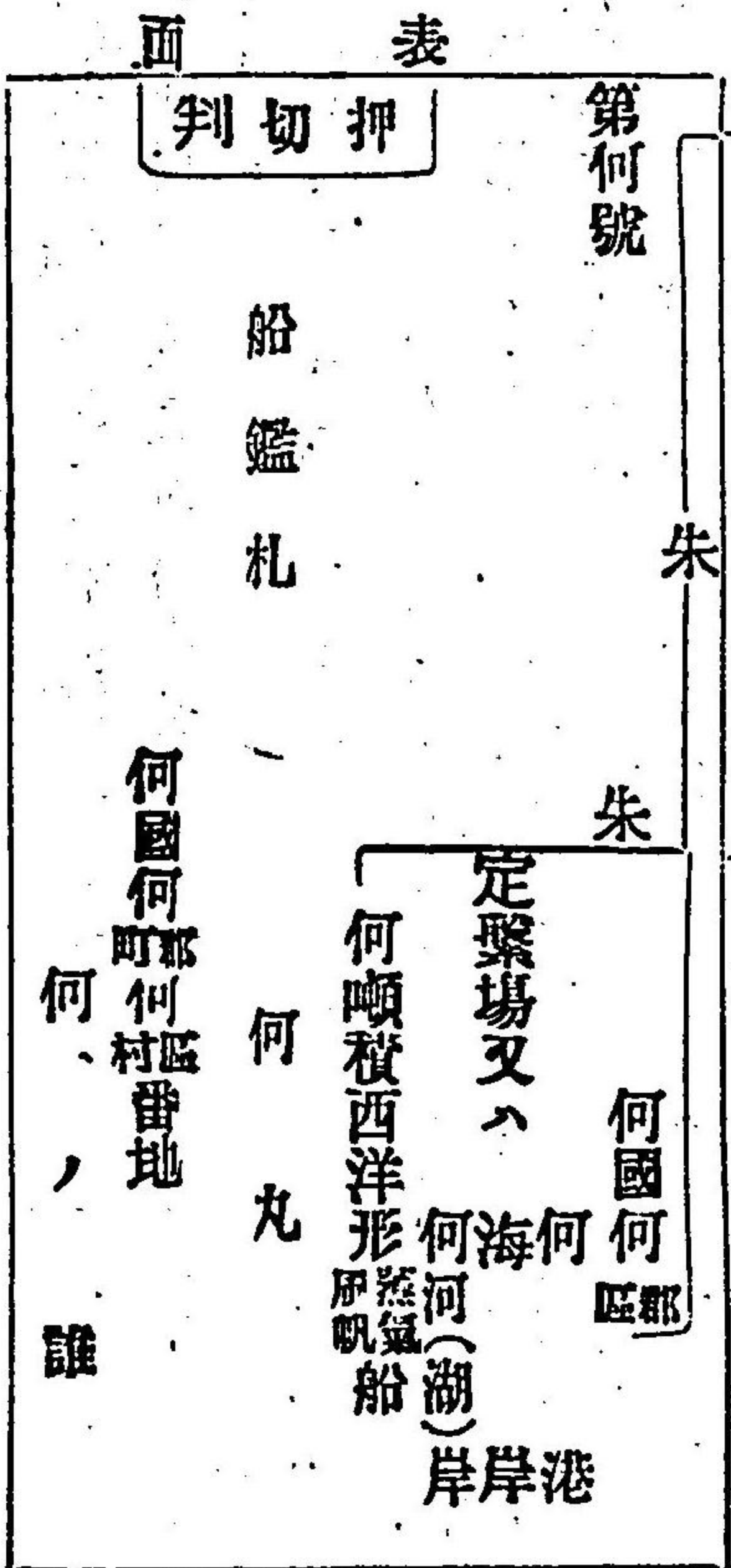
第十條 船税表及ヒ稅船員數表ハ第三號第四號離形ニ倣ヒ每半年分ヲ調製翌期七月卅一日限リ該地差立租稅局ヘ送付スヘシ

離形亦同シ

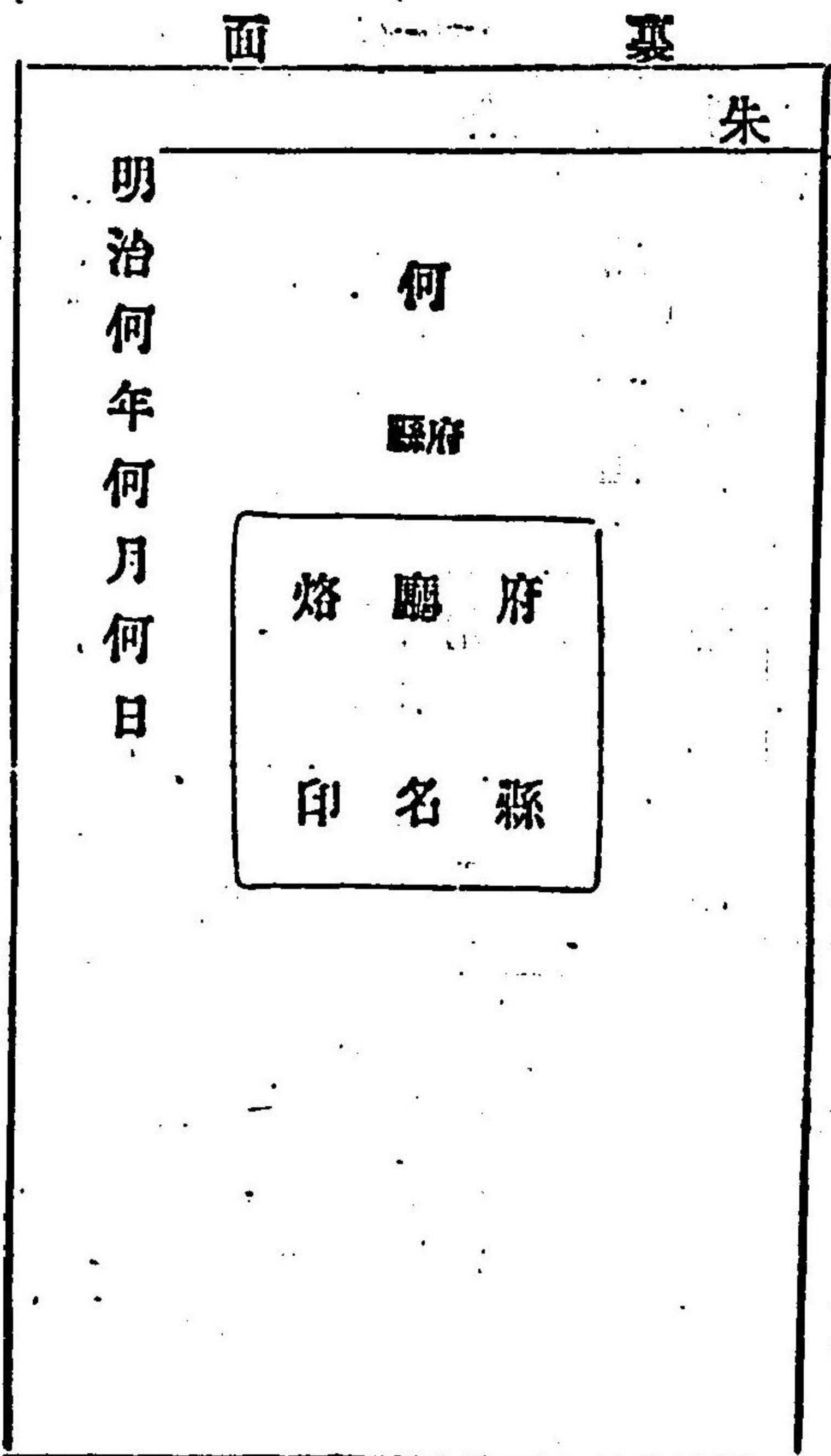
海岸又ハ何河(湖)岸ト書スルモノハ郡區ノ下其町村ヲ記スヘシ第二號

第一號離形 木札寸法曲尺豎五寸幅三寸厚サ及ヒ木品適宜

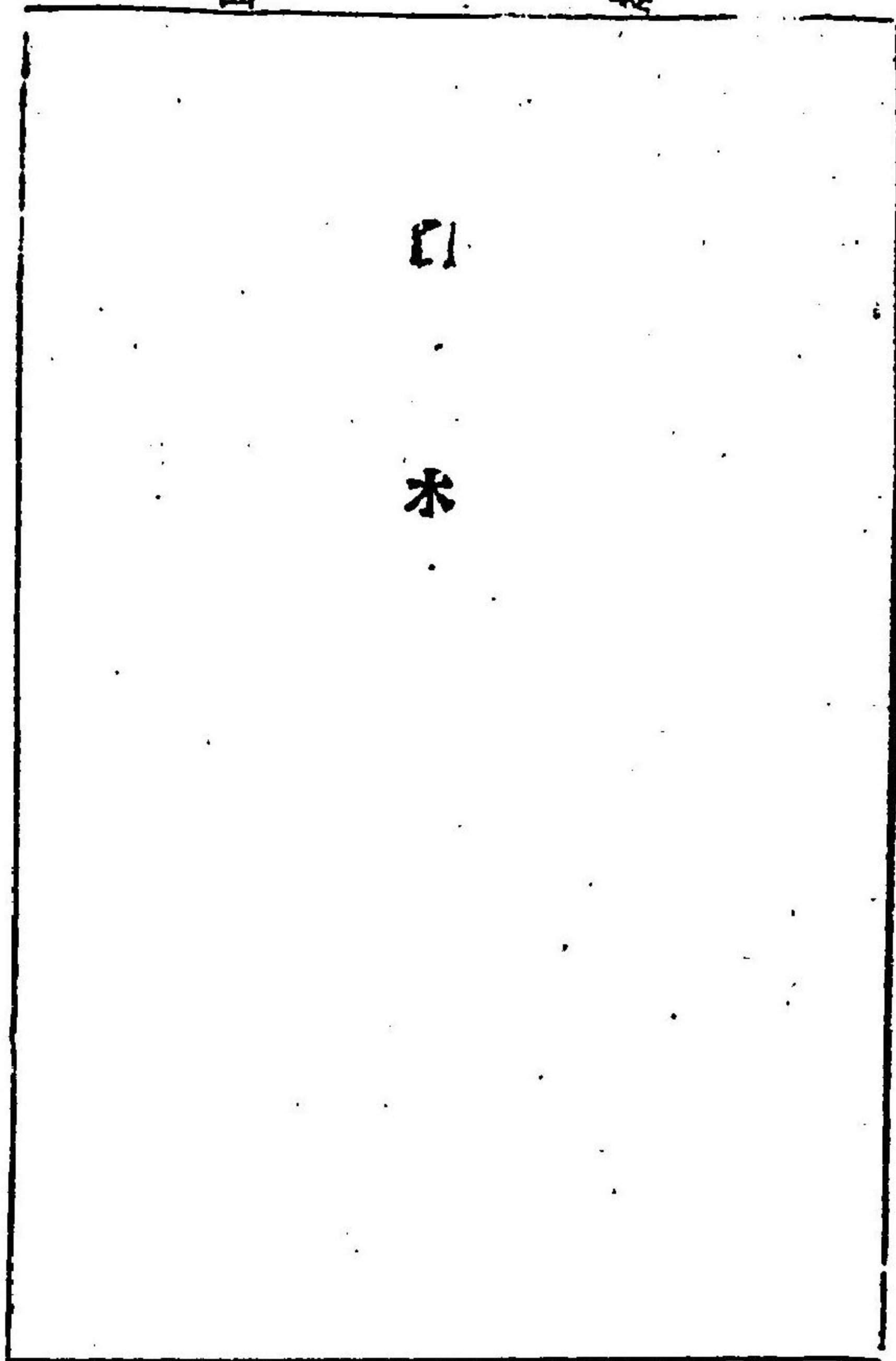
日本形船ハ何石積日本形船ト記スヘシ



鑑札下付ノ年月日第二號離形亦同シ



裏 面



第二號雛形

木札寸法其他前ニ同シ

表 面

押 切 判

第何號

船 鑑 札

府 縣 名 印

何國何區郡

定聚場又ハ海何岸港
何河(湖)岸

船 何 間
船 何 間
船 何 間

何國何區何町村番地

明治何年何月何日

何ノ誰

解漁船又ハ小廻船遊船ト記ス但日本形積石五拾石未滿ノ船ハ小廻船ト記スヘシ
一問未滿ノ船ハ一問未滿ト記スヘシ

石數區別	艘	數	積	石	數	稅	金	計	小	百	百	計	間	長	長	計	稅	金	計	總計	西洋形蒸汽船ノ部
遊船ノ部																					
五十石未滿船ノ部																					
將漁并小廻船ノ部																					
總計																					
西洋形蒸汽船ノ部																					

石數區別	艘	數	積	石	數	稅	金	計	小	百	百	計	間	長	長	計	稅	金	計	總計	西洋形風帆船ノ部
遊船ノ部																					
五十石未滿船ノ部																					
將漁并小廻船ノ部																					
日本形船五十石以上ノ部																					

右者明治何年自何月何月船稅表面之通相違無之候也

年月日

租稅局長宛

長官名印

第三條 同則第十條水田ノ耕作ニ用フル船トハ平生水浸ノ濕田ニシテ四圍川堀等縦横相繋回シ刈稻肥料等ヲ水路運搬ニ供スル船及離島ノ耕作ニ係ル海路運搬ニ用フル等ヲ指シヤ船將々人各立入難ク難ニ非ラサレハ往來シ能ハサル深泥ノ水田ニ用フル船輒チ船上ヨリ挿秧刈稻等ヲナスモノニ限ルヤ

第四條 平生公園地内ノ池中ニ浮ヘ公衆ノ快樂ニ供スルカ學校内ノ池中ニ浮ヘ生徒等ノ用ニ供スルカ陸地ニ揚シキ神祭ノ日ニ限リ神輿ヲ乘セテ祭式執行ニ供スル等ノ船舶ハ船税則範圍外ノモノトシ可然ヤ

第五條 土木工事一途ニ用フル船ハ稅則第十條ニ明文ナシ右ノ普通船稅ヲ賦課スヘキヤ將々同則範圍外ナルヤ右相伺候也

指令 十六年七月十八日

第一條 前段申出ノ通

第二條 申出ノ通

第三條 水田ノ深泥ニシテ船ニ非サレハ耕作シ能ハサル場所ニ用フル田船ヲ指タルモノニシテ耕作及其具、作物肥料等ヲ運搬スルノ外他ノ用ニ供セサルモノニ限ル義ト了知スヘシ

第四條 無料ニテ公衆ノ快樂ニ供スルモノハ課稅ノ限ニアラズ生徒等ノ使用ノ事實ハ取調更ニ伺出ヘシ官國醫社ノ神事ニ供スルモノハ課稅ノ限ニアラス

第五條 官廳ノ使用ヲ除ク外前段申出ノ通

●渡船免稅ノ儀ニ付福井縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年七月三十一日

近路ナキ海島ニシテ人ヲ乘スルノミニ用フル一村持ノ渡艇アリ甲乙丙ノ各地ヘ渡航スル者ノ如キモ免稅ノ部アルヤ右相伺候也

指令 十六年八月六日 船業ニ換ル者ノ外ハ免稅ノ限ニアラス

●免稅船ノ儀ニ付大坂府ヨリ大藏省ヘ伺十六年七月三十日

第一條 船稅規則第十條免稅ノ部ニ水田ノ耕作ニ用フル船トアリ右水田トハ陸田ニ對スル稱呼ニシテ一般ノ水田ト

總稱シタル者ナルヤ將々普通一般ノ水田ヲ總稱スルニアラス特ニ深田沼田等ヲ指稱シタルヤ

第二條 前條特ニ深田沼田ヲ指稱シタルモノナレハ川中付洲及海面埋立新田等ノ耕地ハ四圍水ヲ攪ラシ徒添シテ耕地ニ違スル能ハス故ニ帶二船力ヲ購リ農具作物肥料等ヲ載セテ往來セリ該限ハ農事一途ニ使用シ他ノ運川ニ供セサルモノニシテ深田沼田ニ使用スル船ト違モ軒輕ナキモ尙ホ免稅セサルヤ右相伺候也

指令 十六年八月二十日

第一條 水田トハ深田沼田等ニシテ船ニ非サレハ耕作シ能ハサル場所ヲ指稱ス

第二條 川中付洲海面埋立等ノ耕地ニシテ艇ニ非ラサレハ往來シ能ハサル場所ヘ農具作物肥料等ヲ運搬スルノ外他ノ用ニ供セサルモノハ課稅ニ換ヘ渡艇ノミニ用フル艇ニ準シ免稅スヘシ

●免稅船ノ儀ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年八月廿一日

官報第二十七號門内船稅規則第十條水田ノ耕作ニ用フル船ノ性質同縣同ニ對シ水田ノ深泥ニシテ船ニ非サレハ耕作シ能ハサル場所ニ用フル田船ニシテ耕作及其農具作物肥料等運搬スルノ外他ノ用ニ供セサルモノニ限ル旨御指令有之ニ付テハ水田ニ非サル田圃ヘ耕作人便宜ノ爲メ農具肥料等運搬往返スル小船ハ勿論免稅ノ限ニ非サルヤ右相伺候也

指令 十六年八月廿一日

免稅ノ限ニ非ス但河川ヲ隔テタル耕地ヘ農具肥料又ハ其地ノ收穫物ヲ運搬スルニ止マル船ナレハ規則第十條第四項ニ準シ免稅スヘシ

●免稅船ノ儀ニ付德島縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年九月十二日

一村又ハ一部落ヲ劃斷スル一川ヲ跨ヘ耕作スルモノアリ該上流或ハ下流ニ橋梁又ハ渡船場アルモ肥料農具等運搬仕回不便ナルヲ以テ一村或ハ一部落又ハ一人ニテ耕作ニ住居スルノミニ設ケタル渡船ハ規則第十條中橋梁ニ換ヘ渡船ノミニ用フル船ニ準シ免稅シ可然ヤ右相伺候也

指令 何ノ通 十六年九月廿五日

●船税免否ノ儀ニ付愛媛縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年九月十日

川中附洲海面埋立等ノ耕種ニシテ船ニ非サレハ往來シ能ハサル場所ヘ農具作物肥料等ヲ運搬スルノ外他ノ用ニ供セサル船ハ橋梁ニ換ヘ渡ノアリシニ因リ甲ノ島民ニシテ乙島ノ耕地ニ肥料作物農具等ヲ運搬スル船ノミニ用フル船ニ準シ免稅スヘシ

ニ止リ一切他ノ用ニ供セサル船モ同様免稅ト心得然ルヘキ哉

第二條 甲乙兩島間若クハ甲ノ陸地ト乙ノ島嶼トノ間ニ一日數回往復スル渡船ハ橋梁ニ換フルモノトシ免稅ト心得然ルヘキ哉右相伺候也

指令 十六年十月十六日

第一條 申出ノ通

第二條 渡船ヲ定メ彼我ノ往復而已ニ用フル渡船ハ申出ノ通

●官用船處分方ノ儀ニ付秋田縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年九月廿六日

本年(四月)第十三號ヲ以テ船稅規則公布アリ船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止セラレシニ該規則中官用船處分方明文ナシト雖モ六年第九拾三號布達ニ基キ管艦使用船ハ總テ無稅ニテ國銘號ノ燒印ヲ適宜ノ個處ニ押シ使用シ然ルヘキヤ右相伺候也

指令 何ノ通 十六年十月十六日

●船稅賦課ノ儀ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺十六年八月七日

本縣下琵琶湖ハ其周圍五十九里南北十五里二十七町東西平均五里強ニシテ該湖ニ用ル船ハ湖上ノ外他ニ遊スルヲ得ス畢竟海灣内ノ小湖ニ均シキモノナレハ總テ該湖ニ用ル日本形船ハ小湖船トシテ課稅シ然ルヘキヤ固ヨリ海湖ノ湖内ニ使用スルモノト同漕トノ區分ノ如ク判然タル區別不相立モノニ有之候條右邊御洞察至急御指令被下度又右ノ如キ湖上一途ノ使用船ニテモ同漕ト小湖トノ區分ヲ要スル御旨趣ニ候ハ、其區分方詳細御指示被下度此段相伺候也

指令(電報) 十六年十二月十三日

琵琶湖内ノ日本形回漕船ハ都テ小湖船トシテ課稅スヘシ

●堰使用船ノ儀ニ付兵庫縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年二月十八日

耕地養水ノ爲メ年々堰キチナスニ深淵ニシテ徒涉スル能ハス止ムヲ得ス漕力ヲ藉リ土木ノ運搬ハ漕ヨリ漕中ニテ其堰キ方チナス漕ハ一切他ノ用ニ供セサルモ免稅ノ限ニアラヌカ

指令 何ノ通 十七年二月二十九日

●新造ノ免稅船證書ノ儀ニ付山口縣ヨリ大藏省ヘ伺十七年四月二十一日

他管下ノ者本縣下ニ於テ免稅船ヲ新造シ其定緊場迄歸港ノ節ハ假令札下付スヘキ限ニ非サナラシトハ證書ナク管理上不都合ニ付假令札付與セサル日ノ證書ヲ下渡シ然ルヘキ

指令 何ノ通 十七年五月六日

●免稅船取扱方ノ儀ニ付石川縣ヨリ大藏省ヘ伺十八年三月二十七日

管下加賀國江沼郡中柴山湖瀧端ニ位置セシ村落該湖中數拾町ヲ隔テ新開耕地ヲ有ス往復陸路ヲキニハ非スト雖モ迂回不便ナルヲ以テ直徑往來スルニ際ニ非サレハ能ハス該箇所ニノミ用ユル肥料農具作物類ヲ運搬スル限ハ免稅シ然ルヘキヤ

指令 十八年四月十日

同ノ趣場所及ヒ堰チ指定シ橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用ユルモノニ限リ其他自家ノ用ニ供スルモノハ免稅ノ限ニアラサル儀ト可相心得事

但最前指令ニ及ヒタル分モ爾後本文ニ據リ取扱フヘシ

●船稅規則ノ件(鹿兒島縣伺)明治二十一年七月十七日

河海航行ノ用ニ供セス單ニ庭前ノ泉水ニ泛ヘ來客待遇又ハ兒童遊戯ニ供スル限ハ免稅規則ノ支團ヲ受クヘキモノニ非サル旨司法大臣ノ内訓アリ右ハ稅則ノ支團ヲ受ケサルモノトセハ其ノ限ノ大小如何ニ拘ラス課稅ハ勿論規則第十

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

條免稅ノ烙印ヲモ受クヘキモノニ非サル儘ト心得ルヘキ事
捐金(電信) 明治二十一年七月三十日
申出ノ通リ

第百十八章 車稅規則 明治八年二月二十日 第貳拾七號布告

明治六年(一月)第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則昨七年十二月三十一日限り相廢シ十六年第十號布告ヲ以テ船稅規則改正ニ付船稅ノ廢ヲ略ス車類ノ儀ハ改テ車稅規則左ノ通相定同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

車稅規則

第一則

- 一 馬車貳匹立以上 壹箇年稅金三圓
- 一 同 壹匹立 壹箇年稅金貳圓
- 一 荷積馬車 壹箇年稅金壹圓
- 一 人力車貳人乘 壹箇年稅金貳圓
- 一 同 壹人乘 壹箇年稅金壹圓
- 一 牛車 壹箇年稅金壹圓
- 一 荷積大七八車 壹箇年稅金壹圓
- 一 荷積中小車但大六以下 壹箇年稅金五拾錢

第二則

一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長へ届出檢印可申受事
但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

一 右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長へ取集メ其管轄處へ可相納事十一
四號布告ニ依リ消滅ニ係ルヲ以テ但書ヲ除ク

第五則

一 荷積車等ノ内耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則

一 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其稅高ノ五倍科料タルヘキ事

○車稅規則附則 二十一年二月二十四日 勅令第七號

明治八年(二月)第二十七號布告車稅規則ニ附則ヲ追加シ本年七月一日ヨリ施行ス

附則

北海道廳管内ニ限り第一則ニ掲クル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七八車荷積中小車ハ當分ノ內稅金ヲ免除ス

○(船)車賣藥牛馬賣買等ノ稅金納期ヲ定ム 明治十一年二月十五日 第四號布告

●郵便物運送車へ課税ノ儀ニ付内務大藏兩省ヨリ太政官へ伺十八年五月四日
 官用郵便車馬ノ儀ハ地方税ヲ賦課セサル儀明治十五年七月何定ノ上府縣へ相違置候ニ付テハ驛遞局所用郵便物運
 送車ハ課税セサル勿論ニ有之然ルニ各地郵便運送車ノ内ニハ受負人ノ自費ヲ以テ製造シタルモノ有之右ハ受負人ノ
 所有ニ屬スルモノニハ候得共其製造様式等總テ驛遞局官ノ指定ニ從フモノニテ外面ニハ郵便物用ノ標識ヲ施シ他ニ
 使用スルヲ得ス官用ニノミ供スルハ驛遞局所用ノ車輛ト同一ニ有之就テハ同稅地方稅トモ免除シ可然哉

指令 伺之通 十八年六月十日

●車稅規則取扱心得書ノ件(兵庫縣)伺明治廿一年二月九日

第一條 客年十一月大藏省第六二五三號訓示車稅規則取扱心得書第九項ニ車類ヲ變更シ税金ニ増差ヲ生シタルトハ
 該期ヨリ其増差ニ係ル金額ヲ徵收スヘキ筋ニ相成居之テ例スルニ二月某日人力車一人乗ヲ二人乗トシ荷稅馬車ヲ
 馬車一匹立ニ爲ス者ノ如キハ既ニ原車ニ對シテ原額ノ部分ニ於テ税金徵收済ナルヲ以テ更ニ増差ニ係ル五十錢ヲ
 追徵スヘキ筋ニ可有之付テハ稅表調理ニ於ケル追徵ノ税金ハ隨時收入ノ部ニ加ヘ備考ニ其事由ヲ詳記シ置可然哉
 第二條 前條ニ反シ車類ヲ變更若クハ修繕シ税金ノ減額ヲ來タシタルトキハ該期ハ車輛變更ニ其事由ヲ記入スルニ
 止メ翌期ヨリ相當ノ税金ヲ徵收スヘキハ勿論付テハ税金調理ニ於テハ翌期へ課稅稅表備考面へ其事由ヲ記シ置
 へキ哉

第三條 車類ヲ修繕シ税金ニ差異ナキモノハ更ニ檢印ヲ要セサルモノ之ヲ變更シタルトキ又ハ修繕シ税金ニ差異ヲ生
 シタルトキハ更ニ檢印ヲ請ハシムルハ勿論其變更車ニシテ税金ノ差異ナキモノト雖モ車輛變更ニ其事由ヲ記シ置
 更ノ述テ明ニシ稅表調理ニ於テモ同上ノ心得ヲ以テスヘキ歟

(大藏省) 指令伺ノ通 明治二十二年二月二十一日

但シ第一條稅表ノ備考ハ菓子増稅ノ例ニ準シ記載スヘシ第二條第三條ハ備考ヲ記スニ及ハス

●徵發物件運搬ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省へ伺十九年五月廿六日

町村ニ賦課セラレタル徵發物件ヲ臨時供給スルニ際シ荷稅車之ノナキ場合ニ於テハ其町村ノ便宜ニ依リ免稅車ヲ用
 ヒテ該物件ヲ差出シ場所へ運搬セシムルモ妨ケナキ儀ナルヲ

指令 十九年六月四日 伺ノ通

第一百十九章

牛馬賣買渡世ノ者免許稅規則

明治五年十一月四日第
三百廿號諸省府縣へ布告

牛馬賣買渡世之者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相違候處今般別紙規則嚮ノ通
 相定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

(別紙)

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月相違候處此度御詮議ノ次第モ有之別紙ノ通
 規則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上ケ候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒
 捨其段可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

壬申十月

規則

大藏省

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬賣買綱ニ付免許鑑札壹枚相
 渡可申事

但賣買綱ハ牛馬共七匹ニ限鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七匹以内ニ枚ヲ所持
 スル者ハ十四匹ニ限ルヘシ其餘准之可申事

第二條 免許鑑札新規願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七
 月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事七年第四十五號布告
ヲ以テ全條ヲ改正ス

第三條 免許鑑札萬一燒失洩失盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑
 札相渡可申事

第四條 免許鑑札壹枚ニ付一ヶ年稅金壹圓上納可致事但舊ハ十一年第四號
布告ニ依リ消滅ス

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町利費

十一年第四
稅金納期以
布告ヲ以テ
改メ第一第
百十八章ノ
一項

第五條 免許鑑札燒印並押切判ハ雜形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稜人共ハ相渡可申事
但鑑札相渡次第稜人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添當省へ可差
出事

第六條 右標取締相立係上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者
有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍ノ科料可申付事
但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二
襖美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代並科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付候諸入費ハ一ヶ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事七年第百三十一號布告ヲ以テ本條追加

但免許鑑札借受賣買スル者ハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致負渡候者ハ免
許稅五倍ノ科料可申付事

右之通規則相定候事

大藏省

壬申十月

○牛馬賣買鑑札書替下渡ノ節取計方

明治九年七月四日

大藏省乙第百九拾九號府廳へ達

牛馬賣買鑑札改名代替轉居等ニテ鑑札書替下渡候節ハ八年(十一月)第百六十六號公布

ニ準據シ可取計此旨相達候事同上ニ付(牛馬)ノ上ニ商標生糸)ノ四字ヲ除ク

第百二十七章

賣藥印紙稅則

明治十五年十月二十七日
第五拾號布告

十年第七號
布告ヲ以テ
新規則出テ
定メ第一第
百二十七章
一

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ
貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

- 一 定價壹錢迄 同 印紙壹厘
 - 一 同 貳錢迄 同 貳厘
 - 一 同 三錢迄 同 三厘
 - 一 同 五錢迄 同 五厘
 - 一 同 拾錢迄 同 壹錢
- 以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡色
貳厘	青色
三厘	黃色
五厘	茶色
壹錢	綠色
貳錢	緋色

第十二類 租稅及貨幣幣公債區町村費

三百二十七

十六年第四
三號布告
參第百二
十三章

三	錢
四	錢
五	錢
拾	錢

濃	青色
橙	黃色
紫	色
深	紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ 但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

右奉 勅旨布告候事

(印紙貼用難形略之)

● 伺指令

● 沒收物品公賣ノ件ニ付新潟縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年三月廿三日

第一條 稅則違犯ニ係ル沒收物件中稅則規則第二十二、二十三、二十四、二十五條、ニ該當シ沒收セラレタル物品ハ配額用法詳ナラサルモノニシテ公賣ニ付スルヲ得サルニ付キ爾來スヘキヤ

第二條 賣藥規則第二十一條ニ該ル犯罪者ヨリ沒收シタル賣藥中無印紙ノモノハ直ニ需用者ニ拂下クルヲ得ス若シ之ヲ公賣セハ稅則上許多ノ不都合ヲ醸生スヘキモノト思考候間前條全條取扱フヘキヤ

指令 十九年四月五日 伺ノ趣給テ申出ノ通可相心得奉

● 賣藥稅徵收區分方ノ件ニ付大阪府ヨリ大藏省主稅局ヘ照會 二十年三月二十九日 (同年四月十三日付報)

明治十年六月滋賀縣伺賣藥稅ハ鑑札記載ノ月ヨリ起算シテ其稅金ヲ徵收スヘキヤ將々本人ヘ交付セル月ヨリ起算シテ徵收スヘキヤニ對シ鑑札記載ノ月ヲ以テ起算スヘシト指令相成當府モ之ニ準據シ取扱來リシ處茲ニ其年十二月二十五日方名改正ノ儀願出同月二十七日指令鑑札等所轄郡役所ヘ送付セシニ恰モ年末休職ニ際シ其儘郡役所ニ留置翌年一月ニ至リ本人ヘ下付セルモノアリ右ハ事實不得止ヨリ爰ニ出テタル儘ニ付送賀縣指令ヲ適用セス本件ノ如キハ該鑑札本人ヘ交付セシ時ヨリ稅金徵收シ差支ナキヤ

回答 二十年四月四日

賣藥營業稅徵收方ノ儀ハ鑑札面ヲ交付ノ月ニ對換ヘ徵稅セハ可ナラン

第二百一十一章 醬油稅則

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年六月十六日

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第四十七號 (官報六月十八日)

醬油稅則

第一條 醬油溜ヲ併製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許證札ヲ受クヘシ但シ製造人十六歳未満ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘡啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘ

第二條 醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅 製造場一箇所ニ付一ケ年

造石稅 醬油ハ溜一石ニ付
溜ハ製成一石ニ付

金 五 圓
金 壹 圓

第三條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許證札ヲ受クルル其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期 五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテノ間査定済石數ニ係ル稅額

第二期 九月三十日

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間査定済石數ニ係ル稅額

第三期 翌年一月三十一日限

九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定済石數ニ係ル稅額

第五條 醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

第六條 醬油製造人廢業ノ際査定未済ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但シ其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ノ場合ニ限り管廳ニ出檢査受置キ其賣買讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及ヒ第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

第七條 製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未済ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第八條 免許證札ハ貸借買買及讓渡讓受人ニ爲スコトヲ得ス

第九條 醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已チ得サル事故ニ因リ管廳ニ届出タル後ニ非サレハ造石數査定未済ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條 醬油製造人ハ造石數査定未済ノ醬油ヲ賣渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス

但第六條但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 造石税ノ査定ヲ經タル醬油其造石税納期内ニ天災又ハ避ヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ成シタル者ハ直ニ管應ニ申出檢査ヲ受ケ該造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節税關ノ檢査ヲ受置キ輸入港税關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルハ其金額ヲ輸入港税關ニ還納スヘシ

第十四條 醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ委託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此税則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條 醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居亦同シ

第十六條 自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條 醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並ニ仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但シ當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第十八條 當該官吏ニ於テ此税則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所

ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條 醬油製造人ニシテ醬油ヲ隠蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及通脱ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條 第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ忘リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 此税則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條 此ノ税則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條 醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此税則ヲ犯シタルハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歳未満ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ税則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條 此税則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條 此税則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條 北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七嶋ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條 此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

○醬油稅則施行細則

二十一年八月三日 大藏省令第九號

本年六月勅令第四十七號醬油稅則施行細則左ノ通相定ム

醬油稅則施行細則

第一條 稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之レニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第二條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條 免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醬油製造用器械ノ種類員數目録ヲ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第四條 第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ増減變換ヲ生シタルトキ

ハ其時々所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第五條 醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クベキ見込石數並其製造方法ヲ

所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但前年製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ新タ

ニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以内ニ前項ノ届出ヲ爲スベシ

第六條 醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨ゼ

シムベシ

第七條 醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先キヲ帖簿ニ記載

シ置クベシ

第八條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出檢査ヲ受クベシ前項ノ容器ハ左ニ掲

グル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受クベシ但容器ニハ番

號及管廳ノ烙印ヲ施スモノトス ●丈量法 口徑「頭口ヨリ三寸下リタル箇所」(胴徑)

口底徑ノ中央「底徑」(底板面ノ箇所)就レモ内側ニテ縱橫(十)圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和

シニテ以テ之ヲ除ス深サハ其桶ノ前後左右中心等就レモ底面ヨリ口徑マデノ間ヲ丈

量シ之ヲ和シ五ヲ以テ之ヲ除ス但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス

●算則 口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス 胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス 口徑ト

底徑ノ和ハ胴徑ヲ乘シ丙トス 甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇・〇四〇三

八四四「乘率」一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス「ヲ乘シニテ以

テ之ヲ除シ其容量ヲ得容器中殘類其他異様ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スベシ其準

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

シ難キモノハ其便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

第九條 石數査定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿タザル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定スベシ入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス「此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ容積ノ深サヲ乘シ二倍シ至深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス」假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス右甲ヨリ乙ヲ減シ容積ノ深サ及ビ〇・〇四〇三八四四「乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス以下準之」ヲ乘シ其得ル石數ヲ容器帳簿記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル 入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス「其口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノハ其胴徑ヲ假定ノ口徑トシ入實胴徑ニ滿タザルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ至深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス」假定ノ口徑ヲ底徑ノ和ヲ自乘シ甲トス徑假定ノ口徑ト底徑ヲ相乘シ乙トス徑右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ビ〇・〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第十條 醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スベシ

第十一條 改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日内ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フベシ徑一代替書替ハ徑六十日間

一其他ノ書替再渡ハ徑十日間

第十二條 製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ届出添書ヲ

受ケ二十日以内之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フハシ

第十三條 稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定濟ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條 稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢棄石數等詳記シ所管租稅檢査員派出所ニ申出ヘシ 前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 造石數査定未濟ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第十六條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ 醬油製造原品買入帳 醬油製造帳 醬油仕込帳 醬油賣揚帳

第十七條 稅則及ヒ此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年保存スヘシ

第十八條 稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名、名稱、石數、箇數、輸入地名、積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ受クヘシ

第十九條 造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ稅關ヘ申出ヘシ

第二十條 輸出醬油造石稅下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管内ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

第二十一條 稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名、石數、箇數、及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十二條 稅則及細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條 稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノニス

第二十四條 第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ料科ニ處ス

第二十五條 此細則ニ關スル粘簿記帳方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

● 伺指令

● 醬油諸味ニ課稅ノ件(鹿兒島縣) 開令(明治廿一年七月二日(電報))

二番三番諸味ニ課稅スヘキヤ

(大藏省主稅局) 回答明治廿一年七月三日

二番三番諸味ハ課稅ノ限ニアラス

第二百二十二章

菓子稅則

明治十八年五月八日
第拾壹號布告

菓子稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七嶋小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セズ
右奉 勅旨布告候事

二十一年八月
勅令第八
號ニテ各條
項中改正刪

除本年七月
一日ヨリ
施行ノ旨
ニテラ

(別紙)

菓子稅則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人

菓子卸賣人

菓子小賣人

菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣入ル者ヲ云フ
菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ
菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇

所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢
仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ交換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

三百三十九

ハ其税額ノ多キモノニ就キ納税スヘシ
製造營業稅

雇人十人以上アル者	一箇年	金貳拾圓
雇人六人以上アル者	一箇年	金拾五圓
雇人三人以上アル者	一箇年	金五圓
雇人二人アル者	一箇年	金三圓
雇人ナキ者	一箇年	金壹圓

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者	一箇年	金貳拾圓
雇人六人以上アル者	一箇年	金拾五圓
雇人三人以上アル者	一箇年	金五圓
雇人二人アル者	一箇年	金三圓
雇人ナキ者	一箇年	金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者	一箇年	金七圓
雇人二人アル者	一箇年	金三圓
雇人一人アル者	一箇年	金貳圓
雇人ナキ者	一箇年	金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス
露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業稅札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業稅札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ
第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日迄
日迄賣上金高ニ係ル分
其年八月三十一日限
第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日迄
日迄賣上金高ニ係ル分
翌年二月二十八日限
半年分ノ賣上金高三拾圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ其管轄ニ届出ヘシ但増員アルキハ其時々之ヲ届出ヘシ
第十三條 菓子製造人ハ其年製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管轄ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス
一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限
七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限
第十四條 菓子製造額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム
第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十六條 二十一年二月勅令第八號ニテ本條刪除
第十七條 第二條ニ違ヒ營業稅札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ罰金キタル者ハ其代

金ヲ追徴ス

第十八條 第十二條第十三條ノ屆書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シ又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條第六條第十二條第十三條届出ヲ怠リタル者ハ一回以上一回九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○博覽會共進會ニ際シ菓子烟草等出品販賣取扱方 二十一年一月七日

大藏省訓令第一
號北海道廳府廳

博覽會共進會開設ニ際シ煙草菓子賣藥ヲ出品シ且ツ其會場内外ニ於テ特ニ販賣スルトキ其取扱方ハ左ノ通心得ヘシ

但明治十一年(六月)内務大藏兩卿運署乙第四十七號達ハ自今廢止ス

大藏大臣 伯爵松方正義

明治二十一年一月七日

- 一 從來免許ノ營業人ニシテ出品スルモノハ別段免許鑑札ヲ受ルニ及ハス
- 一 印紙ノ貼用ヲ要スル物品ハ總テ其規則ニ遵テ印紙ヲ貼用スヘシ
- 一 出品主ニシテ其出品ノ販賣店ヲ開設スルモノモ亦前二項ニ準ス但其店頭ニ免許何

營業人住處氏名ヲ記載セル標札ヲ掲出スヘシ

一前項販賣店開設ヲ許可スルニ當リ場内狹隘ノ爲メ止ムヲ得サルトキハ其場近傍ニ一定ノ區域ヲ限リテ之ヲ許可スルコトヲ得

(參照)

明治十一年六月内務大藏兩省乙第四十七號

各府縣ニ於テ一時博覽會相開候節列品中酒類煙草賣藥等販賣方成規有之物品場中ニ於テ賣渡ノ儀ハ其出品人兼テ營業免許ノ者ニ候ハ、別段受賣免許鑑札申受ニ及ハス尤煙草ノ儀ハ假令見本品タリ共需亦ニ應シ賣渡候節ハ成規ノ通リ印紙貼用可致此旨相達候事

但開場中一時賣物店開設屆候向モ本文ニ準シ受賣鑑札申受ニ不及候得共何營業免許人何某ト記載セル木型ノ看板ヲ見易キ場所ヘ必ス掲示可致事

○伺指令

●西洋菓子課税ノ儀ニ付高知縣ヨリ大藏省ヘ伺 十八年五月十八日

西洋菓子ノ卸小賣ヲ爲ス者ハ菓子税則ニ據リ課税スヘキモノナルヤ

指出ノ通心得ヘシ

●菓子税則ノ儀ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ伺 十八年五月二十二日

一税則第八條ニ掲ケル菓子營業者ノ雇人ハ菓子製造及ヒ仕入出賣店ニ從事スル者ニ限ラヌ一家總テ雇人(炊飯裁縫等)ニ使役スル者共ニテ指タルモノニ有之候結果シテ然ラハ菓子營業者ニシテ他ノ營業ヲ兼ムルモノハ其雇人中菓子一途ニ從事スルモノト他ノ營業ニ從事スルモノトハ自カラ區別アルヘシト雖モ同ク一家ノ雇人トシテハ是レ菓子營業ノ一方ヨリ視ル時ハ殆ト分別シ置シ況ンヤ炊飯等ノ雜事ニ使役スルモノハ該ニ其境界ヲ定メ兼候如斯モノ、區別ハ如何相心得可然哉

一税則第十七條ニ製造器械ヲ沒收ストアリ然ルニ製造器械員數届出ノ明文無キヲ以テ實際處分ノ場合ニ該ニ其區別

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

ハ検査員ノ認定ニ有之價ト相心得可然哉
一左記品目ノ如キモ菓子ノ範圍内ニ有之候哉

- 煎餅類 鹽煎餅 八ツ橋煎餅 辻占煎餅 餡餅 菓子類 饅頭 菓子類 醬油菓子 餛飩子 餅類 高餅 阿部餅 萩ノ餅 牡丹餅 麵麴類 餡餅 菓子 砂糖豆類 餛飩豆 茶豆 派兵豆 南豆 粟豆 餅類 高餅 阿部餅 櫻餅 柏餅 菊餅 麵麴類 餡餅 菓子 食パン 砂糖豆類 餛飩豆 茶豆 派兵豆 南豆 粟豆 金花餅 オコシ
- カキ餅 吹寄類 輕燒 カリソ餅 紅梅燒 氷菓子 アイスクリー 白玉 トコロテン 砂糖ヲ調用 寒天ノ類 砂糖煎金時 揚ヶ餅 切り揚 氷砂糖 砂糖 菓物 菌 蔬菜ノ類ヲ乾燥シテ 砂糖ヲ用ヒタルモノ及ヒ糖漬ノ類 シンコ細工 文珠燒 干柿

指令 十八年六月四日
伺之趣左ノ通可相心得候事

第一項 稅則ノ雇人トハ菓子ノ製造其他菓子業ニ從事スルモノヲ指ス故ニ菓子業ニ從事セスシテ専ラ他ノ業務ヲ執ルモノハ第入セサルモノトス但シ附屬寄留ノ者其他手傳等ノ名義ヲ以テスルモノト雖モ雇人同權ノ業務ヲ執ルモノハ總テ第入セシム

第二項 菓子製造ノ用ニ供シタルモノハ沒收スルモノトス
第三項 鹽煎餅 餡餅 菓子類 饅頭 菓子類 醬油菓子 餛飩子 餅類 高餅 阿部餅 萩ノ餅 牡丹餅 麵麴類 餡餅 菓子 食パン 砂糖豆類 餛飩豆 茶豆 派兵豆 南豆 粟豆 金花餅 オコシ (甘露餅) 切り揚 眞粉細工 干柿 氷菓子 砂糖漬 内柿汁ニ浸シタルモノノ類ハ菓子ノ範圍外トス

●菓子稅則中疑團ノ儼ニ付栃木縣ヨリ大藏省ヘ伺 十八年五月二十六日

第一條 稅則第八條第三項ニ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲スモノハ其營業稅ヲ免除ストアリ右呼賣トハ路上ヲ踏行西スルモノヲ指稱スルヤ也又單ニ需求者ノ家宅ニ臨ミ販賣スル行商モ呼賣ト併稱スヘキヤ

第二條 家屋外(軒下)ヘ月板或ハ椽蓋等ヲ置キ菓子類ヲ販賣スルモノハ露店ト同視スヘキヤ

第三條 本年六月卅日ニ以前製造ノ菓子モ七月一日以後ノ販賣ニ係ル者ハ無論賣上金高ニ組込納稅セシムヘキヤ
指令 十八年六月八日

第一條 稅後段申出ノ通

第二條 申出ノ通
但自家ノ軒下ニ於テスルモノハ此限ニアラス

第三條 申出ノ通

●菓子稅則中疑團ノ儼ニ付石川縣伺 十八年五月二十八日

稅則中呼賣トハ路頭ヲ徘徊スルモノヲ出賣トハ家々ヘ立寄リ又ハ小賣露店等ヘ賣捌クモノヲ指稱スヘキヤ
指令 十八年六月八日

伺ノ趣呼賣トハ店舖ヲ設ケス專ラ需用人ニ賣歩クモノ出賣トハ定マタル店舖ヨリ他ニ派出シテ同業者又ハ需用人ニ販賣スル儼ト可相心得事

●菓子稅則中疑團ノ儼ニ付神奈川縣伺 (續) 十八年五月十八日

第五條 稅則第八條ニ掲グル雇人トハ其家ニ戶籍ヲ入レ又ハ寄留スルモノニ止マラス一時雇(俗ニ渡)雇人ト云フモノ者モ含有スルノ義ナルヤ

第六條 露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者トハ自ラ製造シ又ハ製造者ヨリ買受自己又ハ家族ヲ以テ營業ニ從事シ自家店頭ノ營業ヲナサス要スルニ徴々タル業體ノ者ヲ指スノ意義ニ候ヤ果シテ然ラハ別ニ出賣證札ヲ下付セス(仕入證札ヲ下付スルハ勿論)營業證札ヲ携帶セシムルモノニシテ其業體一家賃人ニ止マルモノニ候ヤ

但本文ニ據レハ本人ニ代リ其證札ヲ以テ家族一時營業ヲ助クル場合アルモ若シカラスヤ

第七條 露店呼賣者ト事賣ヲ同フスルモ自家ニテモ營業ヲナス上ハ出賣者トシテ賣上高ヲ合算シ課稅スルハ勿論ナルヤ

第八條 菓子營業ト他ノ營業トヲ兼スル者ニシテ一店內區域ヲ異ニセス雇人ヲ區別セサル者ハ其總員ニ就キ課稅シ一店內ト雖モ自ラ區域ヲ異ニシ雇人ノ區別アルモノハ之ヲ分別シ課稅スヘキヤ

第十二類 租稅及貨紙幣公債區村町費

指令 十八年六月九日

第五條 第七條申出ノ通
 第六條 露店又ハ呼賣ヲ業トスルモノハ一家登人ニ限ラズ營業各人ニ其鑑札ヲ下付スヘシ
 但シ家族ノ者露店又ハ呼賣先ニ於テ其業ヲ助クルハ苦シカラス
 第八條 一雇人ハ申出ノ通
 但店內ノ區域ヲ異ニスルト否トニ關セズ

●菓子營業者仕入鑑札下付方ノ儀ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺(電)十八年六月五日

菓子製造人原質品買入及ヒ自製ノ菓子小賣スルモノハ仕入鑑札ヲ受ケルニ及ハスナ
 指令(電) 十八年六月十日

●菓子原質品買入又ハ自家ニテ仕入テナス者ハ仕入鑑札ヲ要セス

●菓子露店呼賣鑑札下付ノ儀鹿兒嶋縣ヨリ大藏省ヘ伺(電)十八年六月九日

菓子露店業ノ者子弟ヲシテ呼賣ヲ爲スモノハ出賣鑑札ヲ下付シ又一人ニシテ露店呼賣ヲ兼メル者ハ營業鑑札ニ枚下付スヘキヤ

指令(電) 十八年六月十三日

露店業ノ者子弟ヲシテ呼賣ヲ爲サシムルハ更ニ其子弟ニ呼賣ノ鑑札ヲ下付シ出賣鑑札ヲ下付スルノ限リニアラス
 又露店業ノ者呼賣ヲ兼メルトキハ鑑札ニ露店呼賣ト列記シ二枚ヲ下付スルニ及ハス

●菓子稅則中疑義之廉千葉縣ヨリ大藏省ヘ伺 十八年六月十五日

第一項 稅則第二條但書ニ一人ニテ二箇以上ノ營業場ヲ設ケル者(中)ハ各別ニ營業鑑札ヲ受ケヘシトアリ然レハ
 營業稅モ亦隨テ其場所毎ニ之ヲ徵收スヘキハ勿論ニ之アルヘシ就テハ一人ニテ甲乙二箇所ノ營業場ヲ有シ而シテ一
 名ノ雇人ヲシテ甲乙二幾日乙二何日ト定メ其職其業ニ從事セシムル時ハ甲乙孰モ二人以下ノ雇人アリト見做サレ
 ナ得サル儀ト心得可然哉

第二項 一期内ニアリテ某甲某甲旬日乃至半箇月ノ之ヲ數回ニ雇人ル、者ハ引續ノ雇人ト見做シ得可キ乎果シテ
 然トセハ一月ニ某甲某甲入レ二月ニ之ヲ止メ代ルニ乙某甲以スル等數次ニ及ヘハ一期中自然甲乙丙丁ノ數人ニ涉
 ルヘシト雖モ同時ニ三名以上ノ現員ニ至ラサル限リハ尙ホ二人以下ノ雇人ト見做シ得可キ儀ト心得可然哉

第三項 稅則第十條但書ニ雇人増加シタル時ハ該期ノ增稅ヲ納ムヘシトアリ右ハ例ヘハ雇人ナキ小賣人ニテ中途ニ
 至リ一名若クハ二名ヲ雇入ル、時ハ之ニ對スル半箇年ノ稅額即チ金壹圓五拾錢ノ内ヨリ當初納稅濟ナル五拾錢ヲ
 扣除シ其全ク增稅ニ係ル邊圓ヲ徵收スヘキ法意ナラン果シテ然リトセハ小賣人ニテ製糖又ハ卸賣ヲ兼テントスル
 者ハ差引其全ク增稅ニ係ル者ノミテ徵收スヘキ儀ト心得可然哉

第四項 稅則取扱心得書第六項ニ露店又ハ呼賣專業ノ者ニハ出賣鑑札ヲ下付スルノ限ニ在ラストアリ就テハ露店又
 ハ呼賣專業ノ者ニ限リテハ該營業權之徵收ヲ所持セスシテ何レノ場所ヲ問ハス其營業ヲ爲シ得ラル、儀ト心得可
 然哉

第五項 露店又ハ呼賣專業ノ者ニ下付スル免許鑑札ハ唯リ鑑札面記載ノ人ニ限リ其効力ヲ有スヘキモノトシテ其父
 子兄弟タリト雖モ更ニ鑑札ヲ受ケルニ非サレハ一時免許人ニ代リ其營業ヲ爲ス如キハ法理上不相成儀ト心得可然
 哉

第六項 露店及ヒ呼賣ヲ兼業スル者ニ下付スル鑑札ハ稅則取扱心得書第一號雜形ニ準シ露店呼賣ト併記スル儀ト
 心得可然哉

第七項 稅則上ノ雇人トハ平常雇主ノ家ニ寢食スル者ノミニ限ラス日雇或ハ臨時雇ノ者又ハ手代番頭等ニテ日々雇
 主ノ家ニ通勤スル者又ハ籍ヲ異ニスル親族等ニテ賃金ヲ受ケス臨時ニ來リテ業務ノ助ケヲ爲ス者ノ如キモ派テ均
 ク雇人ノ範圍内ヲ以テ論ス可キ儀ト心得可然哉

第八項 前項果シテ雇人ヲ以テ論ス可キ者トセハ今コノ雇人ヲシテ稅則第三條ニ據リ仕入又ハ出賣ヲ爲サシムルモ
 妨ケナキ儀ト心得可然哉

第九項 演劇場寄席又ハ揚弓場等ニ於テ其雇主ノ販賣スル者ハ小賣營業者ト心得可然哉
 第十項 下々職ト唱ヘ常ニ自宅ニ在リテ製造人ヨリ送附セル物品ノ製造「モナカ」ノ皮ノ類ノミテ製スルニ止ルアリ
 或ハ落雁ノ類ノ如キハ直ニ仕上ケテ賣ス

（リ）ニ從事シ日給又ハ其製造高ニ應シ賃金ヲ受クル者ハ雇人ヲ以テ論シ難キ者タルハ税則範圍ノ外ト心得可然哉
第十一項 菓子種（干菓子ノ種即チ「モ」）ヲ製シ菓業ト爲ス者アリ右ハ其賣先ノ營業者ト否トナリハ總テ税則範圍ノ外ニ付ス可キ哉ト心得可然哉

第十二項 税則上ニ掲ケアル露店トハ常ニ一定ノ營業場ヲ有セス神佛ノ緣日夜見世市場等ニ於テ其都府所請露店又ハ遊藝場等ヲ設ケ營業ヲ爲ス者ノ類ノミニ限ラス立錫茶屋（茶屋ノ構造ヲ爲スモ）路傍宿殿ノ夜賣張社寺境内ノ掛茶屋（茶菓子トシテ來客ニ出ス）等ニ於テ販ク者其他方言床見世ト唱ヘ朝ニ來リテ店ヲ閉キ夕ニ去リテ之ヲ閉ル者ノ如キ平素一定ノ營業場ヲ設ケ販賣スル者モ亦均ク露店ノ範圍内ト心得可然哉
但在村居宅ノ片隅若シクハ掛出シ等ヲ設ケ農圃或ハ雜菓子ヲ製ク者ノ如キモ本項ニ準シ可然哉
指令 十八年六月廿六日

何之趣左之通可相心得事

第一項第三項第六項第八項及第十一項申出之類

第二項 申出之通

但其都府雇人ノ氏名ヲ届出サシムヘシ

第四項 營業鑑札ヲ携帶セシムヘシ

第五項 家族ノ者一時免許人ニ代ルハ苦シカラズ

第七項 申出之通

但祭禮等ノ場合ニ於テ業務繁多ノ爲メ一時手傳ヲ爲サシムルモノハ此限ニアラス

第九項 申出之通

但揚子場等ニ於テ茶菓子トシテ出スモノハ此限ニアラス

第十項 日給ヲ受クル者ハ雇人トス製造高ニ應シ手間賃ヲ受クル者ハ申出ノ通

第十二項 賤食セサルモノナレハ申出之通但露店ト稱スルノ限ニアラス

菓子營業人製造税金納者處分方ノ件ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ伺 十九年三月

（十九年三月二十三日官報）

菓子製造小賣ヲ兼業スルモノニテ其製造税ヲ不納スルモノアリ之ヲ處分スルニ當リ税則第八條但書ニ二種以上ヲ兼タルモノハ其税額ノ多キモノニ就テ納税スヘシトアリテ其小賣營業ハ製造ニ附帯シテ免許ヲ得タルモノナレハ各營業ヲ停止シ可然モノ、如シ然リト雖則第一條ニ於テ各管人ノ資格ヲ兼メサレ第二條但書ニ於テ二種以上ヲ兼タルモノハ各別ニ鑑札ヲ受クヘシトアリテ學覽製造小賣各別ニ營業權ヲ得タルモノト解釋セサル能ハス然ルモ製造税ノミニ納スルノ場合ニ於テ各營業ヲ停止スルハ不穩當ト相考候若シ各資格ノ異ナラサルモノトシ小賣ヲモ併セテ營業ヲ停止シ公賣處分等ヲ爲スモノトセハ小賣人ノ資格ヲ以テ他ヨリ買入レタル菓子モ均シク公賣セサルヲ得ス然ルニ該菓子ハ毫モ自家製造ニ關係ナキ物品ナレハ之ヲ公賣スルハ頗ル穩當ナラサルモノト存候旁各資格ノ異ナリタルモノト見認メ處分シ可然哉

追テ製造營業ノミ停止候ニ於テハ小賣營業ハ既ニ當初營業權ヲ得タルモノナレハ當季中ハ別段税金ハ徵收不致候ニ有之候此段添テ相伺候
指令 十九年三月十八日
伺ノ趣總テ申出ノ通可相心得事
但營業税不納ニ係ルモノハ本文ノ限外ト心得ヘシ

菓子税則不納處分方ノ件長野縣ヨリ大藏省ヘ伺 十九年四月二十四日

第一條 菓子製造營業ニシテ卸小賣兼業ノモノ當十九年前中期營業税上納済ノ後十八年第二期七月ヨリ十二月三ニ係製造税徵收ニ方リ該税不納ニ付キ成規ノ通直ニ處分ニ若手シ製造品並ニ器械鑑札等ヲ差押ヘ營業ヲ停止セリ然ルニ卸賣小賣等ヲ兼メル者ノ營業税ハ税額多キ分ニ引付ケ營業税ヲ徵收スル儀ニ有之今營業税ノ最多キ製造税不納ノタメ製造營業ヲ停止スルモハ營業モ之ト共ニ附帯シテ營業權消滅スル儀ナレハ
第二條 菓子製造營業ノ不納ニ係ルモノハ假令營業税ハ重キ分ニ付キ徵收スルモ製造營業ノミ停止シ卸小賣ノ兼業ヲ

不問ニ措クモノトスレハ卸小賣ノ營業稅ハ更ニ徵收セサルモ差支ナキヤ
第三條 卸小賣業停止ノ限ニアラストスレハ營業ニ屬スル卸小賣營業者ノ文字ヲ塗抹シテ取扱主任之ニ
認印スヘキヤ

第四條 前條製造稅不納成分ヲ受ク物件ヲ公賣ニ付シ其金額ヲ納稅ニ充テ剩餘アルモ本人ニ還付シ不足アルハ官
ノ損失ニ歸スルハ勿論假令公賣成分ヲ受クルモ納稅義務ヲ盡シタルモノハ重子テ營業スルヲ得ルモ若シ納稅義務
ヲ了セルモノ其不足稅ヲ完納シ營業出願スル場合ニ於テハ其年ノ前中期營業稅ハ已ニ納済ナレハ直ニ營業セシム
ヘキヤ又ハ更ニ營業稅ヲ徵スヘキ哉
指令 十九年四月一日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 兼業ハ消滅セス

第二條 當期ノ營業稅ハ徵收スヘキモノニアラス

第三條 申出ノ通

第四條 卸小賣ノ兩業ニ對スル稅額ト製造業ノ稅額ト比較シ其増差アルモノハ其差額ヲ徵收シタル上差額ナキ
モノハ直ニ營業ヲ許スヘシ

●菓子稅ノ件愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺十九年三月廿七日(十九年四月八日官報)

菓子製造人ノ製造高ヲ帳簿ニ記載スルハ賣上ケ高等ニ參照檢査緊要ナルモノナレハ之カ記載ヲ怠リ又ハ詐偽ノ記載
ヲ爲シタルモノハ稅則第十四條ニ包含スルモノト解釋シ該條違犯ノ際ヲ以テ告發シ可然哉
指令 十九年四月二日

●菓子營業者轉業ノ節鑑札書換ノ件靜岡縣ヨリ大藏省主稅局ヘ問合(十九年八月九日官報)

同ノ種稅則第十四條ノ帳簿トハ稅則取扱心得書第十三項ノ菓子賣上帳及製造原品買入帳ニ限ル備ト可相心得事
同 十九年八月十八日
御問合ハ菓子營業者轉業ノ節鑑札書換ノ儀ハ後段御見込ノ通

●菓子營業人廢業後再營業ノ者納稅ノ件ニ付靜岡縣ヨリ大藏省主稅局ヘ質問

二十一年四月八日(同月二十八日官報)
菓子製造兼小賣營業ニシテ雇四人ヲ有スルモノ納稅後ソノ製造ヲ廢シ雇一人ノ小賣トナリシカ其半期中再ヒ雇
一人ヲ増シ製造兼小賣トナリシモノアリ製造ハ一旦廢業シタルモノニ付更ニ製造ニ對シ貳圓五拾錢ノ營業稅ヲ
徵收シ然ルヘキモノト思考スルモ明治十八年六月二日栃木縣ヨリノ照會並ニ回答書(栃木縣照會ニ云フ小賣營業者雇
云フ)該營業者因シ卸賣一方ニ轉シタルトキハ稅額ニ三圓ノ差額ヲ生スルモ(四人アルモノ)半期中(納稅後)該
追徵スルノ限リニアラスヤ(回答)卸賣ニ轉業スルモノハ其差額ヲ追徵ス(ノ精神ニ據レハソノ半期中既ニ納稅シ
ナルヲ以テ更ニ營業稅徵收セサルモノ可ナルモノ)如シ又茲ニ一ノ論點ヲ掲クレハ蓋ニ製造兼小賣タリシトキ雇三人
以上アル者ノ税金半期五圓ヲ納メタルハ單リ製造ノミナラス併セテ小賣稅ヲ納メタルノ資格ヲ有スルカ故製造營
業ヲ廢シタル後ハ雇一人アル小賣營業ト認メサルヲ得ス然ラハ雇一人ヲ増シ再ヒ製造營業ヲ願フ者ハ其營業稅ノ差
額即チ差額ヲ徵收シ可然ヤ

回答 二十年四月二十三日

菓子稅則第八條ノ精神タル他ノ諸稅則ノ營業稅ト大ニ其趣ヲ異ニシ即チ一旦甲種ノ業ニ就テソノ免許ヲ受ケタル
者ハ他日乙種又ハ丙種ヲ兼メルトモ若クハ乙丙兩種ヲ兼メルトモソノ營業稅ハ當初甲種ノ納稅金額ニ照シテ不足
ナサモノハ別ニ加徵スルヲ要セス若シ不足アルモノハ其差金タケテ追徵スルニ止マルヲ當然トシ今般實議ノ場合
ノ如キハ再々税金ヲ徵スルニ及ハサルハ無論トス

●菓子稅則取扱方ノ件(秋田縣)問合明治廿一年四月五日
菓子稅則取扱方訓示アリ其二項檢査員ノ意見トハ製造人各自ニ就テノ事カ又四項檢査員ノ報告書トアルハ意見ノ報

答ナルヤ御報ノ

(大蔵省主税局)回答 明治廿一年四月五日

前段ハ御見込ノ通り後段ハ郡區長ノ求メト否トニ拘ラス検査シタルハ必要ト認メ郡區長ニ報告シタル事類ヲ云フ

●菓子税則取扱方要領ノ件(神奈川縣)照會明治廿一年四月六日
菓子税則改正相成候ニ付取扱方要領大蔵大臣ヨリ訓令有之候處其第四項ニ租稅検査員ノ報告書云々ト有之右報告書
トハ同第二項ニヨリ郡區長カ検査員ニ意見ヲ聽キタル場合之ニ對シ検査員ノ費上ケ見込額ヲ各營業者ノ届出額ニ比
照シ其意見アルモノヲ報告スル儀ニ可有之哉又同第六項ノ精神ハ検査員ハ常ニ一般營業者ノ分限並ニ其不正ヲ巡
視シ内正業者ニ對シテハ寛待ノ検査ヲ與ヘ不正業ニ向テハ秘密ノ検査ヲナスト云フ意歟將々正業者ニハ検査ヲナ
ス單ニ不正業者ノミニ検査ヲナス儀ニテ然ラハ稅則第十五條ノ検査ハ不正業者ニ向テ行ハルニ止マル儀ニ
可有之乎隨テ前報報告書ハ隨時臨檢セシ不正業者中意見アルモノ、ミニ就テ之ヲ報告スル儀ト心得可然事

(大蔵省主税局)回答 明治廿一年四月十日

要領第四項報告書トハ第二項郡區長ヨリ意見ヲ聽キタルトキ報告スルモノニ非ラス又不正業ニ對スル意見ノミ
ヲ報告スルモノニモ無之部テ検査員ニ於テ正業者不正業者ノ別ナク稅額調査ニ必要ト認メタル事狀アルトキハ何
時モ報告スヘキ儀ニ有之又第六項検査ハ不正業者ノミニ止ムルト云フノ精神ニハ無之正業者ト雖モ必要ト認ムル
場合ニ於テハ何時モ臨檢スルハ勿論ニ有之只不正業者ト同ク額緊臨檢シテ彼レカ營業ノ傾ヲナス等ノ際ナキナ
スルノ精神ニ有之候

●菓子税則取扱心得及取扱要領中疑義ノ件(長野縣)伺明治廿一年四月七日

本年二月勅令第八號ヲ以テ菓子税則御改正相成候テ三月廿日付ヲ以テ本年七月以後該稅則取扱方要領御訓達相成候
處左ノ各項疑義ニ涉リ候間伺候

第一項 菓子税則第十四條御改正ニ付テハ同則取扱心得書第十三項ハ消滅ノ義ナルカ果シテ然ラハ稅額調査ノ材料
ナキニヨリ便宜縣令ヲ以テ相定メ可然歟

第二項 御訓達第二項ハ各營業人ヨリ届出タルモノヲ調査ノ上不相當ナキモノト認ムルモ製造高費上高納稅額一人

別表ヲ製シ租稅検査員ニ付廻シ當否ノ如何ヲ聽クノ精神ナルヤ

第三項 同第三項ハ一月一回カ又ハ二ヶ月ニ一回カ郡區長ニ於テ臨時検査ヲナシ豫想ヲ定メ置キ尙稅額ヲ調査スル
前必ス郡區長各營業者ニ就キ視察スルノ儀ナルカ將々稅額調査ノ際ニ當リ視察スルノ儀ナルヤ又ハ同第四項ニ時
宜ニ應ジ收稅長ニ協議ノ實地ノ検査ヲ求ムルコトアルヘシトアルヲ以テ見レハ郡區長ハ實地ノ検査ヲナサス唯營業
者各自ヨリ届出ト前期ノ製造高費上高等ヲ参照シ尙爾後營業上ノ盛衰ヲ商量ノ當否ヲ調査スルニ止ル義ナルヤ

第四項 同第四項ニ郡區長ハ租稅検査員ノ報告書ヲ参照シ云々トアルハ同第二項郡區長ヨリ租稅検査員ノ意見ヲ聽
ク爲メ廻付スル一人別表ニ對シ検査員ヨリ報告セシ報告書ヲ参照シ當否ヲ考察スルノ儀ナルヤ

(大蔵省)指令 明治廿一年四月十四日

伺、趣第一項ハ申出ノ通第二項以下ハ今般主税局長ヨリ收稅長ヘ廻付シタル菓子税則取扱方要領問答ニテ了スヘシ

第二百二十三章

酒造稅則暨製糖營業稅則賣藥印紙稅則

煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則ノ證憑取調處分

方 明治十六年十二月二十日

酒造稅則暨製糖營業稅則賣藥印紙稅則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ
若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏
ハ主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ
右奉 勅旨布告候事

◎酒造稅則等ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則ノ證憑取調

處分時限及立會方

明治十六年十二月二十一日

本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日没
前ニ於テシ其地戶長若クハ用掛隣佑ノ内ヲ立會ハシメ候様取計フヘシ此旨相達候事

第十二類 租稅及貨紙幣公債區町村費

一 戶長以下給料旅費

一 地方稅取扱費 府縣廳ニ屬スル高換方給料及
換手費料現金運送等ノ費用

一 府縣廳舎建築修繕費

一 府縣監獄費

一 府縣監獄建築修繕費

以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス

一 豫備費 豫算外ニ生シタル事件ノ費途
及豫算ノ臨時不足ニ充ツ者

右ノ外特ニ費目ニ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大
藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一過年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅
ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣
會ノ議決ヲ取リ其年二月ヲ以テ內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事件數年ヲ期シテ施行スルモノハ初年ニ於テ其年期間各年
度ノ經費豫算ヲ定メ府縣會ノ議決ヲ取リ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀シ認可ヲ得テ
其年期間之ヲ施行スルコトヲ得

第五條 非常ノ費用ハ(豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用豫備費ヲ以テ給足セサ
ルモノヲ云)別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取リ內務卿及大藏卿ニ報
告スヘシ

前年度經費決算ノ場合ニ於テ已ムヲ得サル事故アリテ費目中不足ヲ生スルモノアル
トキハ府知事縣令ハ府縣會ノ議決ヲ取リ其補充費ヲ徵收スルコトヲ得

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 一府知事縣令ハ一過年度間ノ出納ヲ計查シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ
初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後內務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第八條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀

第九條 島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務卿ニ具狀
シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得

第十條

○營業稅雜種稅ノ種類及制限

明治十三年四月八日
第十七號布告

明治十一年(十二月)第三十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正
條候此旨布告候事

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス 十五年第三
號布告ヲ以

テ全條
改正

商業

工業

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ上

料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類

湯屋

理髮人

備人受宿

遊藝師匠遊藝祿人相撲伴優帶間藝妓ノ類

市場

演劇其他興行遊覽所

遊技場玉突大弓掛弓射的吹矢ノ類

入寄席

船將漁船海船及五車馬車人力車荷積馬車荷積大七六
十石未満海船八車荷積中小車荷積牛車ノ類

但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス

水車

乘馬

屠畜

漁業採藻ノ類

但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又

ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大藏兩

卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第三條同上

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取

拾スルヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ觀察シ府縣會ノ決議ヲ以テ各個ノ稅

額ヲ査定スヘシ同上(決議ヲ以テ)

第六條同上

第七條同上

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ報

告スヘシ

第九條 第一條第二條課稅種類ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スル者ハ府縣會ノ決議ヲ經テ

府知事縣令ヨリ內務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ同上(第二條)ノ下(第三條稅
目)ヲ改メ(課稅種類)トス

○集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用區分方

明治十四年三月八日
第十七號布告

集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用ノ區分當分ノ內左ノ通相定ノ本年七月ヨリ施行候條

此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費

用府縣會ニ拘留中ノ費用并ニ
集治監ニ押送ノ費用トモハ國庫ヨリ支給スヘシ

第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ

地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

○官用ノ船舶車馬ヘ地方稅ヲ賦課スルヲ得ス

明治十五年十
月廿八日

內務大藏兩卿乙第七十五號府縣
(函館神戶札幌樺太室ノ四縣ヲ除ク)ヘ達

第十二類 租稅及貸紙幣公債區町村費

官用ノ船舶車馬ハ明治十六年度以降地方税ヲ賦課スルヲ得ヤレ儀ト可心得此旨相達候事
但從前ノ達及指令之ニ矛盾スルモノハ廢止ス

○皇族所有ノ車馬ハ地方税ヲ賦課スルヲ禁ス 明治十六年六月九日

内務大臣兩省乙第三十號府縣
(函館札幌根室津別四縣ヲ除ク)ノ達

皇族所有ノ車馬ハ明治十六年度以後地方税賦課不相成候條此旨布告候事

○乘馬飼養令ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方税ヲ賦課セス

明治十七年十月八日
第八十三號府縣ノ達

本年(八月)第六十六號達ニ依リ飼養スル乘馬ハ地方税ヲ賦課スルノ限リニ在ラサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○地方税不納者公賣ノ未欠額及地方税年度未殘額處

分方 明治十一年十一月二十八日
内務省乙第七十九號府縣ノ達

本年第十九號公布中左ノ條々處分方心得ノ爲メ相達候事

一地方税ヲ不納スルモノ十年第七十九號公布ニ據リ財産公賣徵收スルモ猶不足スル片ハ其欠額ハ管内一般ノ損失トシ賦課スヘシ

一地方税年度尾ニ至リ其一年度間ノ出納實費ニ就キ殘額アル時ハ之ヲ翌年度ニ繰越スヘシ 十三年乙第四十四號府縣達
以テ結尾三十六字ヲ削ル

○地方税ヲ以テ施行スル事業ニ對シ寄付スル金穀物件

仕拂及任用方

明治十五年十二月二十七日
内務大臣兩省乙第七十五號府縣(函館津別根室四縣ヲ除ク)ノ達

地方税ヲ以テ施行スヘキ事業ニ對シ寄付スル金穀物件ハ地方税豫算ニ編入セス直ニ寄付者指定ノ用途ニ仕拂及使用ス可シ此旨相達候事

但從前ノ令達訓示本文ニ抵觸スルモノハ消滅ス

○囚人證人及無罪解放ノ者警察官吏ノ處分ニ依リ支給ス

明治九年十一月八日
内務省乙第百二十七號府縣(東京府ヲ除ク)ノ達

ヘキ旅費滯留日當仕拂方
罪囚證人及無罪解放之者旅費支給方ニ付本年第六十三號及七號及百三十二號ヲ以テ公布之趣有之候警察官吏ノ處分ニ依リ旅費滯留日當支給スヘキ分ハ津テ警察費ヨリ可仕拂

此旨相達候事

○管内限諸達書及揭示諸費從來官費ニ係ル者支辨方

明治十二年二月七日
第六號府縣ノ達

明治十一年(七月)第十九號布告地方税費目第十項管内限諸達書及揭示諸費并郡區役所ニ設置スル布告類揭示場新築修繕諸費ノ儀ハ從來官費ニ係ル部分ト雖モ目今地方税ヨリ支辨スヘシ此旨相達候事

○營業鑑札下附及鑑札費支辨方

明治十二年四月四日
内務大臣兩省乙第百十七號府縣ノ達

客年第三十九號公布中各業ノ者ハ鑑札下附候儀ハ不苦ト雖モ鑑札料手数料等ハ收入不致儀ト可相心得此旨相達候事

但鑑札下附之費用ハ警察上ヨリ下附スルモノハ警察費ヨリ支辨シ收稅上ヨリ下附ス

十七年第六十六號達
以テ乘馬飼養令ヲ頒シ

九年第六十六號布告
以テ罪囚證人及無罪解放者旅費ヲ定

ルモノハ地方税中費ヨリ支辨可致儀ト可相心得事

○警察署分署建築修繕費國庫下渡金地方税連帶支辨

方 明治十三年四月三十日
第二十九號(使)府縣(東京府ヲ除ク)ノ達

官舎建築修繕費等官費ト相定候旨明治十年(一月)第十六號ヲ以テ相建置候處警察署分署建築修繕費ハ本年七月以後國庫下渡金ト地方税ト連帶支辨スヘキ儀ト心得ヘシ此旨更ニ相達候事

○警察上賞與等巡查以下へ給與ノ分國庫下渡金ト地

方税ト連帶支辨方 明治十三年五月二十日
內務省乙第貳拾貳號府縣(東京府神戶縣ヲ除ク)ノ達

警察上賞與吊祭扶助療治料等交附方ニ付明治八年(十月)當省乙第百卅四號達ノ趣有之候處十三年度ヨリ別途不相渡候條巡查以下へ給與スヘキ分ハ警察費ニ屬スル國庫下渡金ト地方税ト連帶支辨可致尤右賞與等同届ノ節一般人民ト區別候儀ハ從前ノ通可心得此旨相達候事

但一般人民へ給與候分ハ密裁第五十號公達ノ費途ヨリ支出スヘシ

○警察官吏並ニ之ニ準スル備内外人諸給與支給方

明治十四年三月十八日
第十二號府縣ノ達

本年(二月)第十六號布告第三條警察官吏並之ニ準スヘキ備内外人ノ諸給與ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ストアルハ是迄全ク國庫ノ支辨ニ係リシ費項ヲ指シタルモノニシテ地方税ト連帶支辨ニ係ル費項ニ關係ナキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○巡查並警察諸備等懲罰金巡査還納被服類及警察署不用

品賣却代金地方税費へ仕拂方 明治十四年四月十一日
內務省乙第拾八號府縣(東京府ヲ除ク)ノ達

巡查並警察諸備等懲罰金巡査還納被服類及警察本分署不用品賣却代處分方之儀ニ付明治九年當省乙第二十一號同年乙第九十五號同年乙第百八號本年乙第一號ヲ以テ相違候處右ハ相廢シ候條以來該金ハ地方税一般ノ費途へ可仕拂此旨相達候事

但十三年當省乙第四十六號達中密淫罰金ノ項ヲ除ノ外ハ總テ廢止ト心得ヘシ

○國庫下渡金割合方 明治十四年四月十五日
第二十八號府縣(東京府神戶縣ヲ除ク)ノ達

本年(二月)第十六號布告第二條地方税支出高拾分ノ三トアルハ警察費總高ノ内第三條ノ費用ヲ除キ餘ル金員ノ十三分ノ三ト心得ヘシ此旨相達候事

○已決囚ニ係ル經費區分實地取計方 明治十四年七月二十一日
內務大臣兩省乙第三十四號

警察廳府縣(神戶縣ヲ除ク)
集治監ノ達

本年第十七號公布ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分等被定候ニ付テハ實地取計方左ノ通可心得此旨相達候事

一豫算ヲ以テ受入タル監獄費中國庫金ト地方税トハ混一シテ諸費(懲役人ノ諸費)ヲ仕附置每一ヶ月ニ囚員ノ延數ニ照シ平均ヲ以テ一囚若干ノ費金タルヲ算出シ而シテ刑期終身ノ者ト國事犯五年以上ノ者ノ延人員ニ乘シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取計事

但臨時加給療養費埋葬費寫真費移轉費ノ如キ惣囚ニ關ラサル費項ハ其囚員限リノ

平均ヲ以テ算出スヘシ
一府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在モノハ經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出方
可取計事

○堤塘使用料並木貨渡料地方稅ニ合セ土木費ニ
使用セシム

堤塘使用料及並木敷貨渡料ノ義ハ從來雜收入トシテ大藏省へ上納致來候處十四年度以
後ハ地方稅ニ合セ土木費ニ使用スヘシ此旨相達候事
明治十四年七月二十九日
內務省乙第三十五號府縣へ通

○集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ費用管理方

警視廳府縣(東京府
ヲ除ク)へ通

本年第十七號布告ニ係ル費用ハ當省ニ於テ管理候條該布告第一條國庫下附金ハ當省ヨ
リ可下渡候ニ付以後豫算帳及ヒ決算帳等渾テ當省へ可差出第二條地方稅受拂方ハ集治
監ニ於テ直ニ爲取扱候條此旨相達候事

○堤塘使用料下渡方

堤塘使用料之義ニ就テハ明治十一年(九月)乙第五十八號及本年(七月)乙第三十五號ヲ
以テ相達候次第モ有之候處十四年度以降地盤ノ官民有ニ拘ラス使用地ノ修繕地方稅負
擔ニ係ル者ハ本年乙第三十五號達ノ通相心得協議費負擔ニ係ル者ハ協議費支出ノ町村
へ下渡堤塘修繕費ニ充シムヘシ尤連帶支辨ニ係ル者ハ其主擔ノ方へ可屬此旨相達候事
明治十四年九月二十八日
內務省乙第四十六號府縣(沖繩縣ヲ除ク)へ通

○警部長ニ屬スル俸給雜給支辨方

本年(十一月)第九十八號公達警部長ニ屬スル俸給及雜給ハ從前警部給與ノ内ヲ以テ支
辨スル儀ト可心得此旨相達候事
警部給與ノ内俸給雜給ノ科目
神奈川長崎ノ二縣ハ 彼是流用セントスル片ハ該金額前以當省
備外國人優給雜給共
エ伺出候儀ト可心得此旨相達候事

○警察廳舎建築修繕費國庫金算出方

本年第二號布告第三條第二項警察廳舎建築修繕費ハ警察費ヨリ分裂セシ科目ニ付客年
第十六號布告ニ依リ國庫下渡金ヲ算出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事
十六年乙第四十四號
省達(算出スル)ノ
十三字ヲ
刪除ス

○賣淫罰金支拂費目

九年當省乙第廿五號賣淫罰金支拂費目相達置候處右ハ若使費警察探偵費ニ遣拂仍ホ除
リアレハ檢徵費ニ補充苦シカラスト改正ス尤モ徵收高及ヒ遣拂明細書算出ノ儀ハ從前
ノ通此旨相達候事

○警部給與ノ内俸給雜給ノ科目流用方

警部給與ノ内俸給雜給ノ科目
神奈川長崎ノ二縣ハ 彼是流用セントスル片ハ該金額前以當省
備外國人優給雜給共
エ伺出候儀ト可心得此旨相達候事

○在府縣獄囚徒費小科目流用方

在府縣獄囚徒費小科目流用方
明治十五年十月十四日
內務省乙第五十二號警視廳府縣
(東京府北海道三縣
沖繩縣ヲ除ク)へ通